



姫騎士王子、異民族の王に
愛される。

本文
77P

ベルツエナ歴二三七年
ルムリア中央王国

呼び出された
理由は
分かってい
るだろうな

ブランカ

女の身で
ありながら

数々の武功を
立ててくれた
貴様の為に

この父が
良い縁談を
持ってきて
やったぞ





お前の夫となる
人物は

かねてより
融和を願っていた
東方平原の騎馬族の
王だ

かの地
にも

我が国の
威信が
届くであろう

王女たる
お前が
嫁ぐことで

Lumria

*Eastern
Plains*



嗚呼……
あのような
遠方に……

寂しくなるな
ブランカ

お前は

なぜか
天逝する
弟妹の中で

生き残ってくれた
たった一人の
妹だというのに……

……

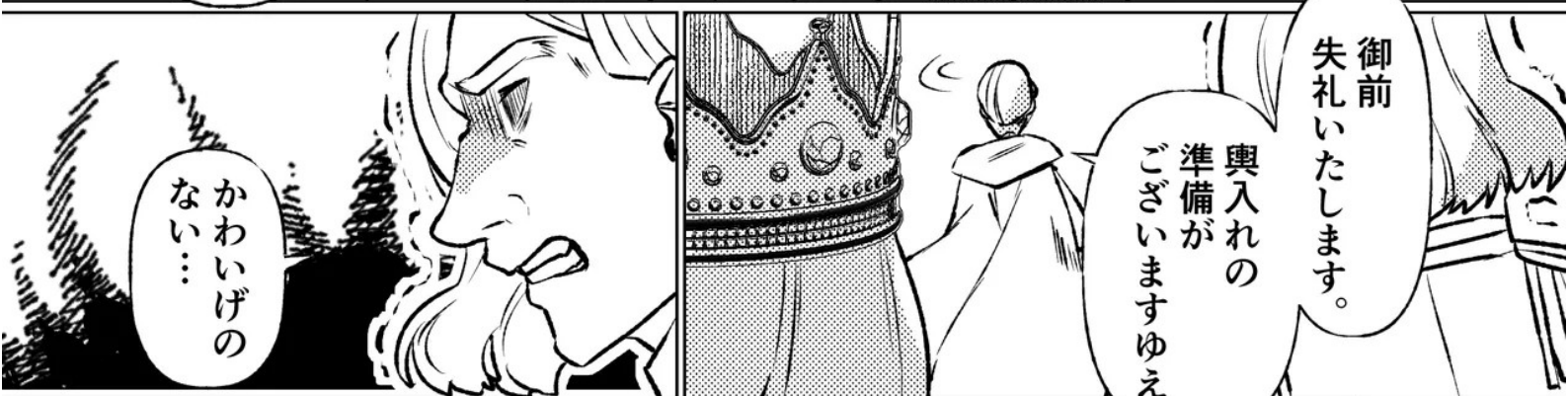


……
拝命承りました。
父上、兄上。

つきましては

我が亡き母の祖国
北方への
兄上の軍派遣を
中止していただく件

何卒
お忘れなきよう
願います。



御前
失礼いたします。

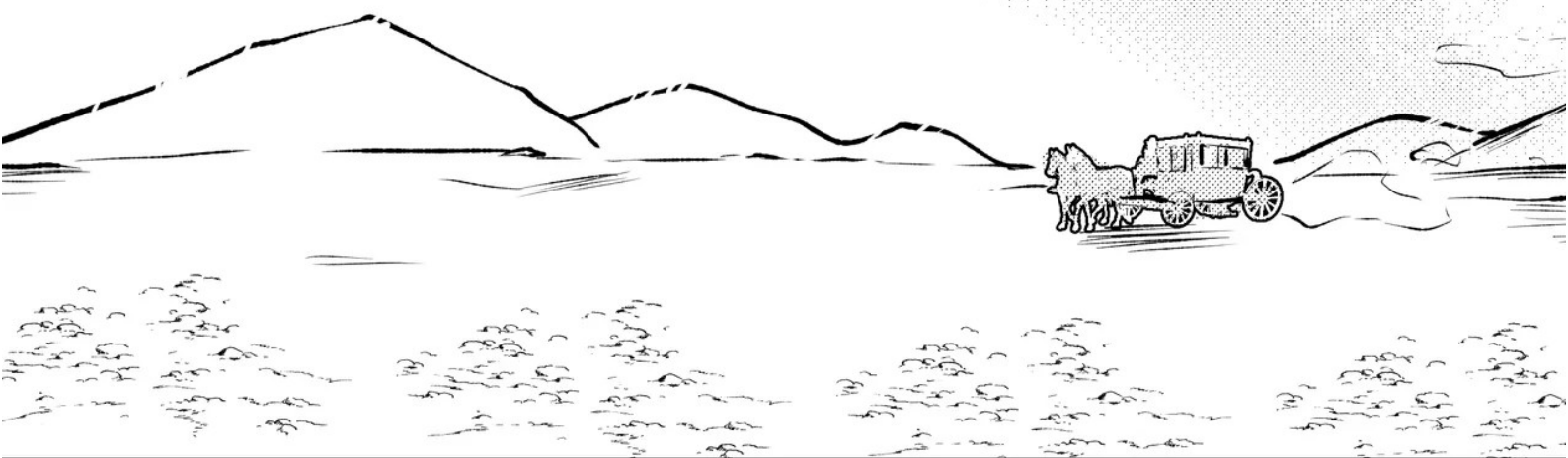
輿入れの
準備が
ございますゆえ

かわいげの
ない……



貴様の如き
男女には
馬臭い蛮族の
慰み者が似合いだ

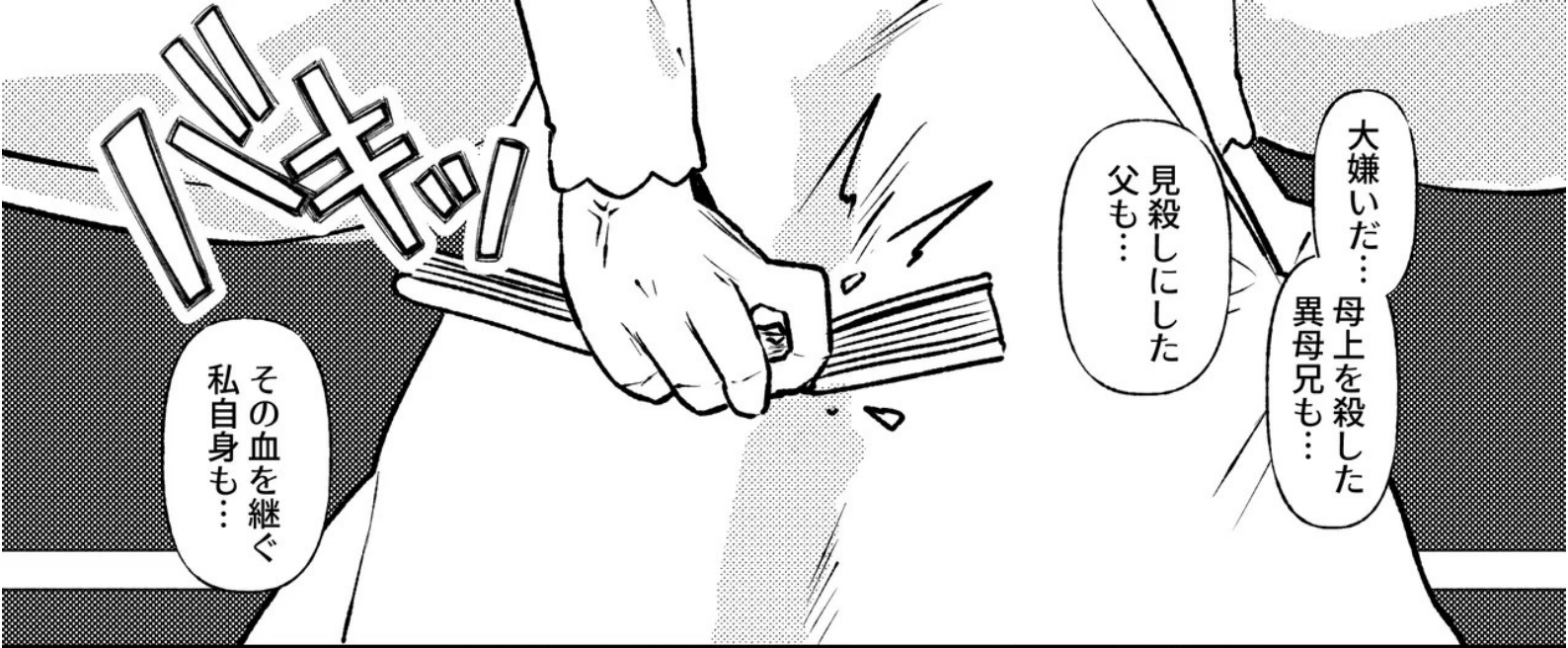
せいぜい
立派な馬の子でも
孕ませてもらうのだな



無意味な
戦を起こす
ことしか
能がない

愚王に
愚兄が…

これで
私を片付けた
つもりか？



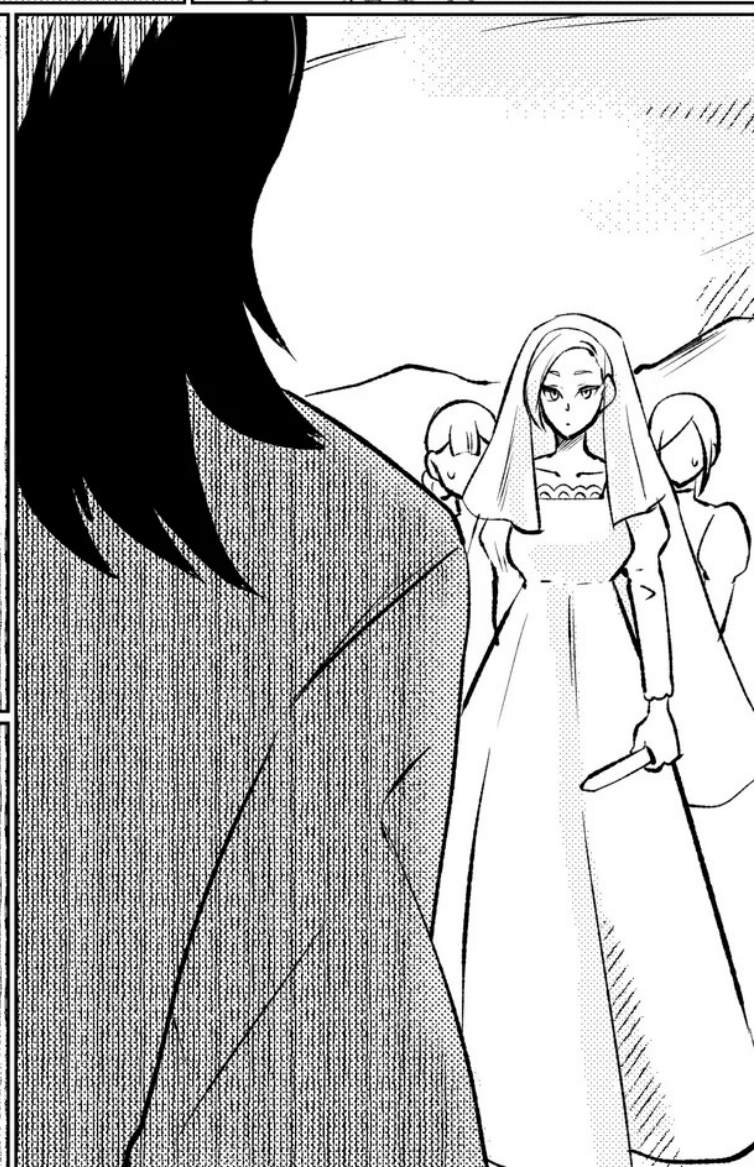
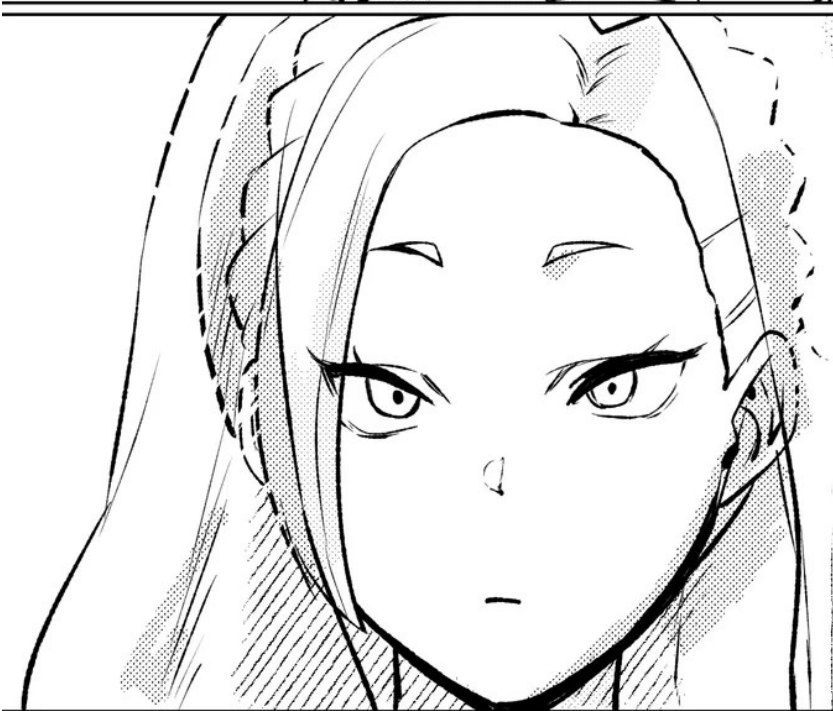
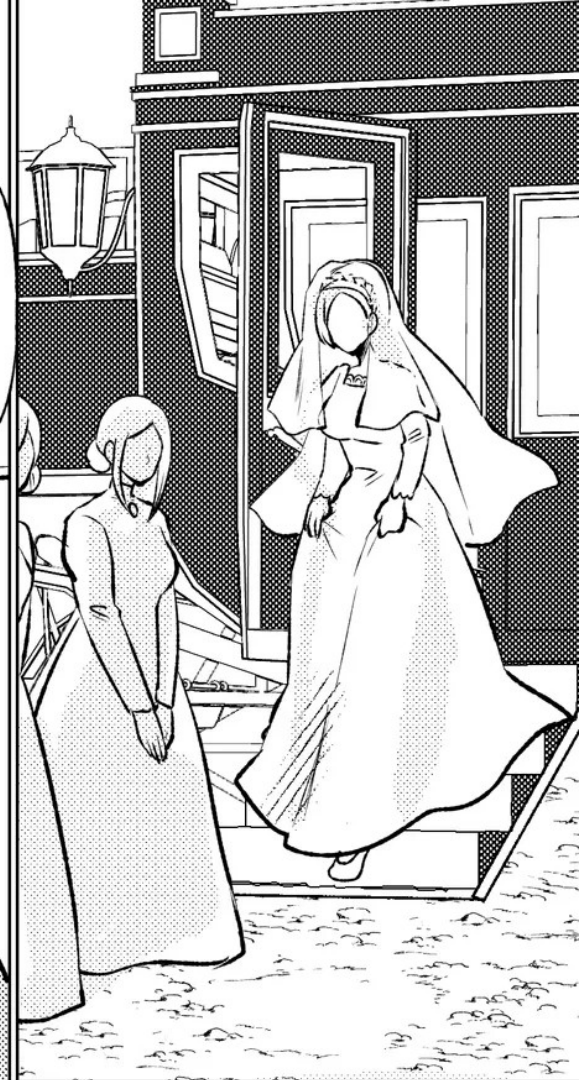
大嫌いだ… 母上を殺した
異母兄も…

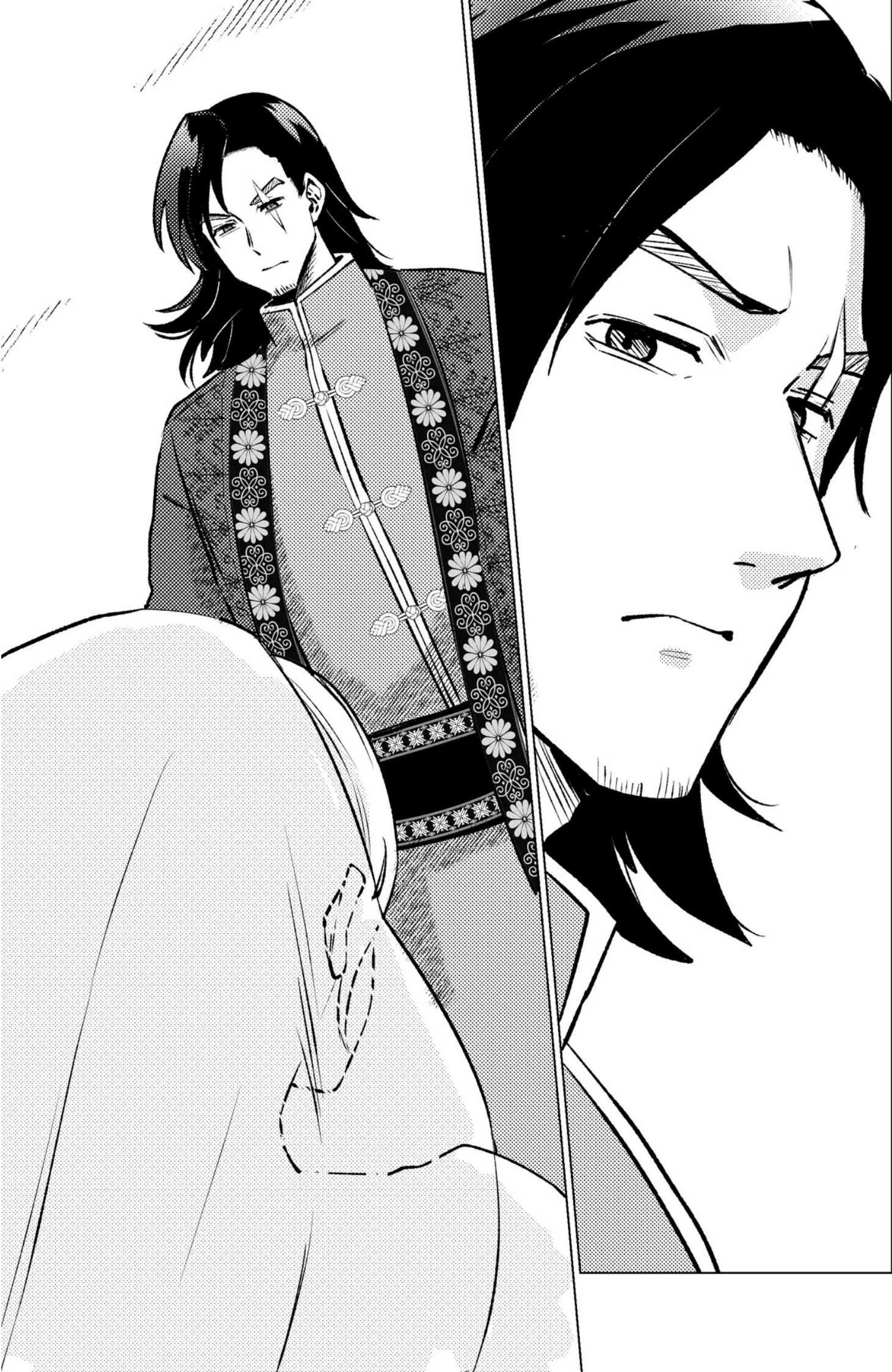
見殺しにした
父も…

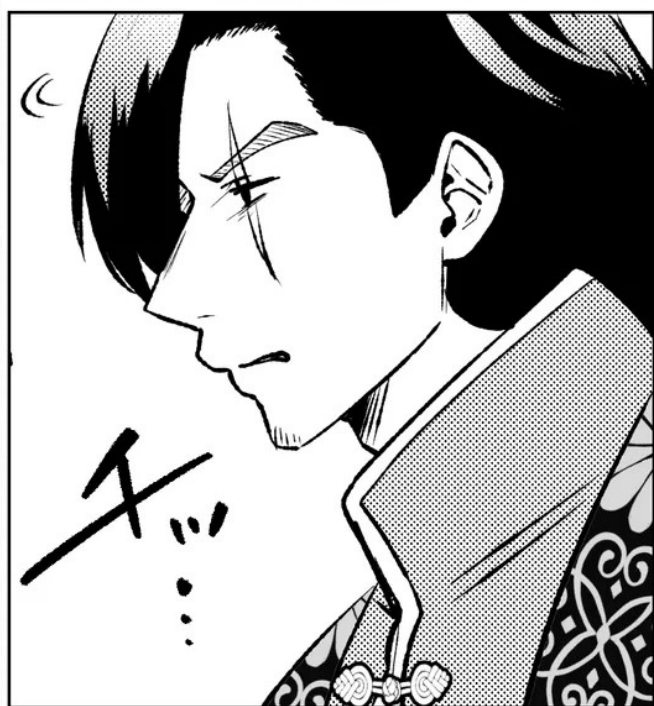
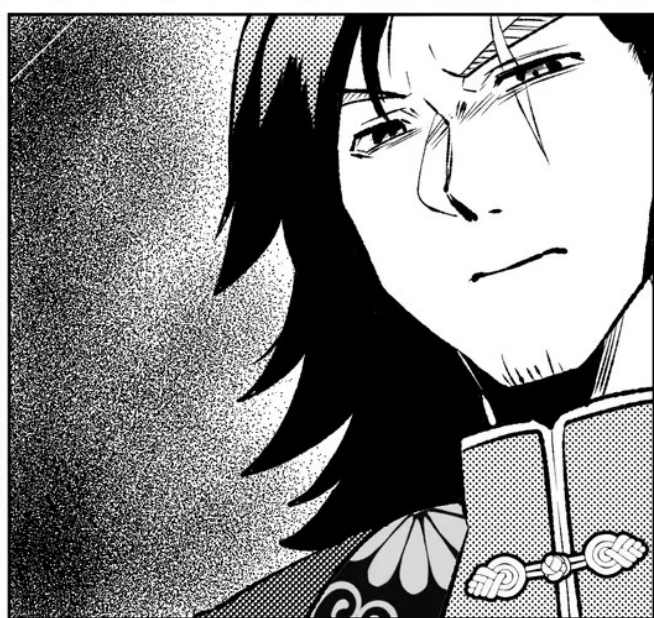
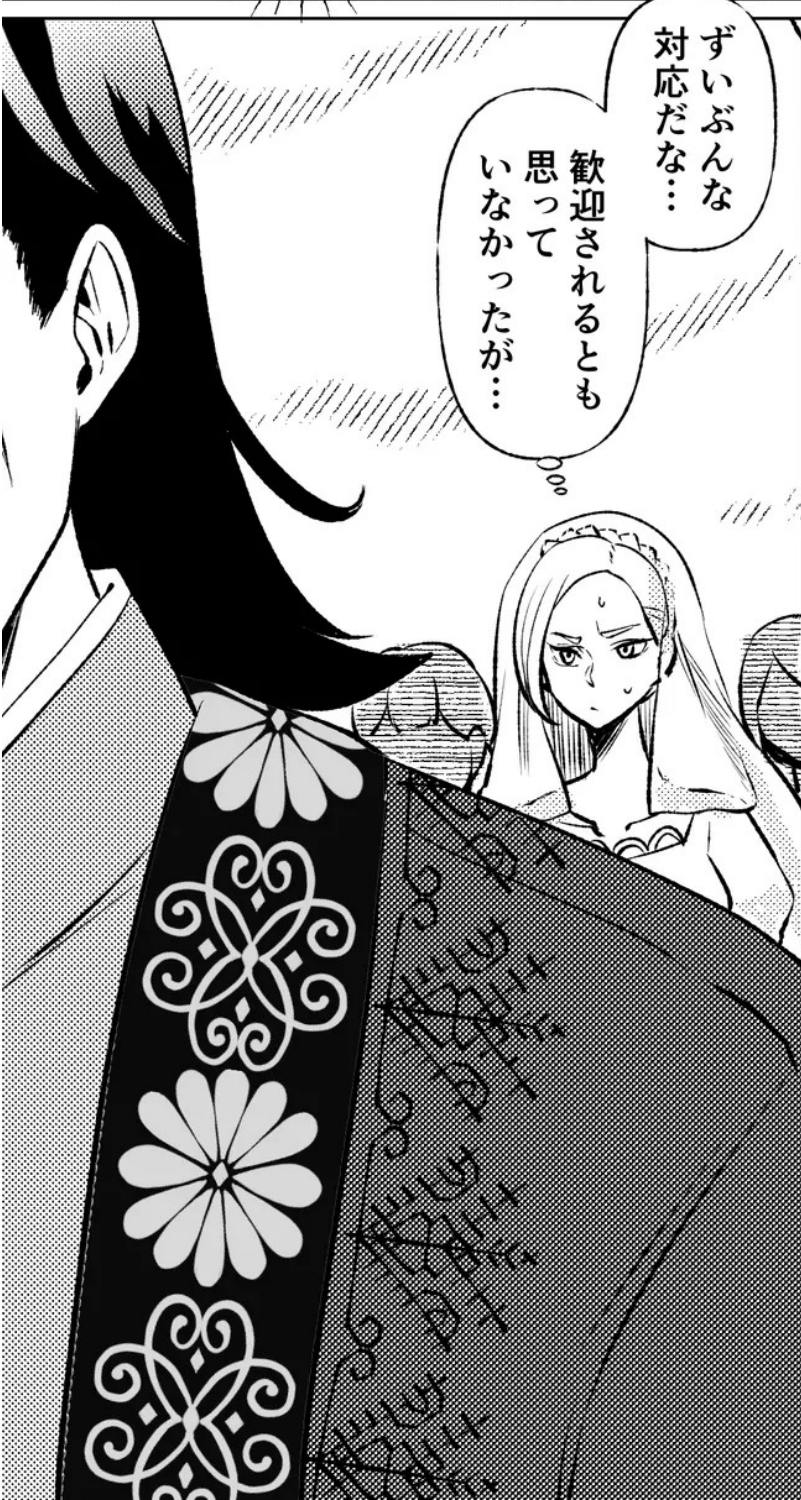
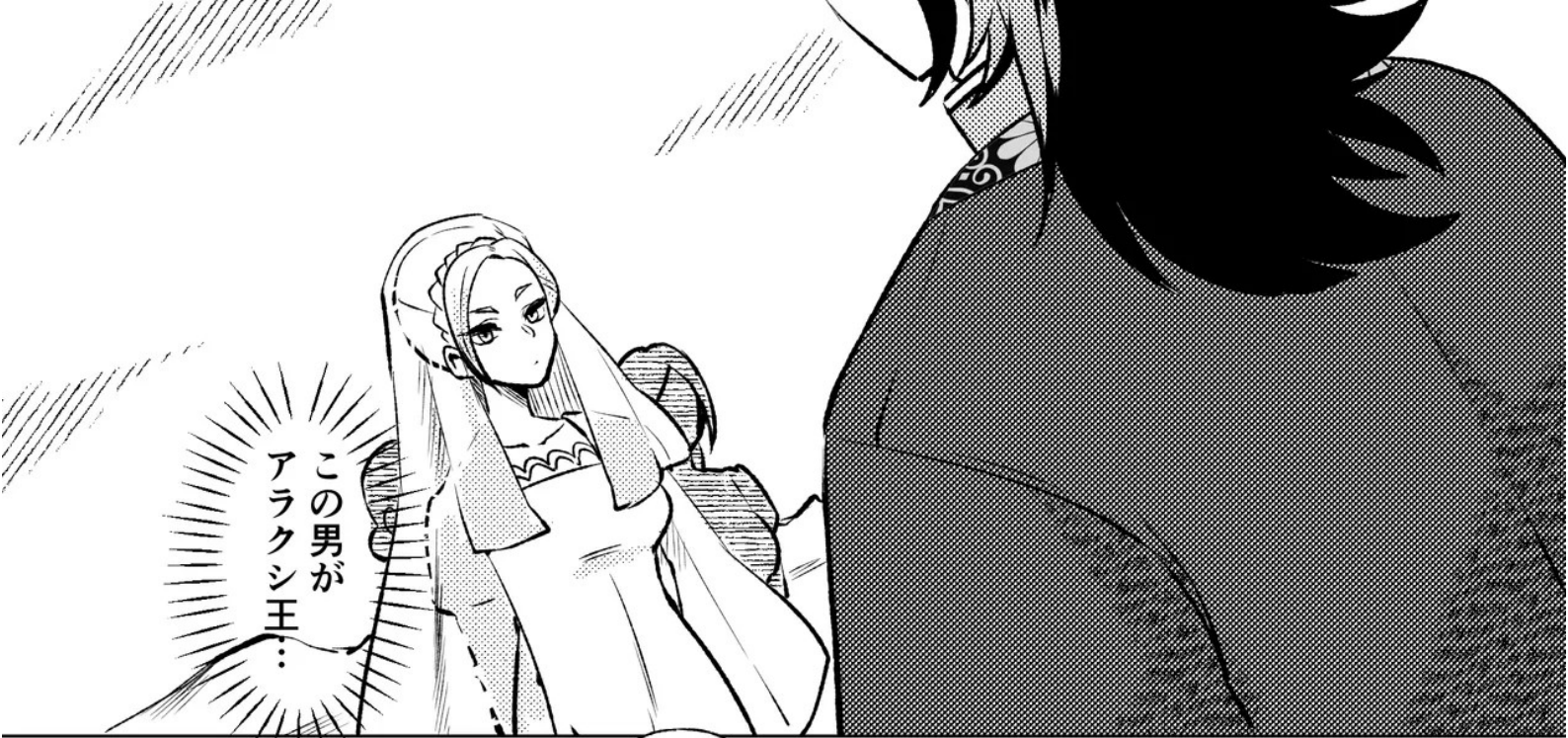
その血を継ぐ
私自身も…

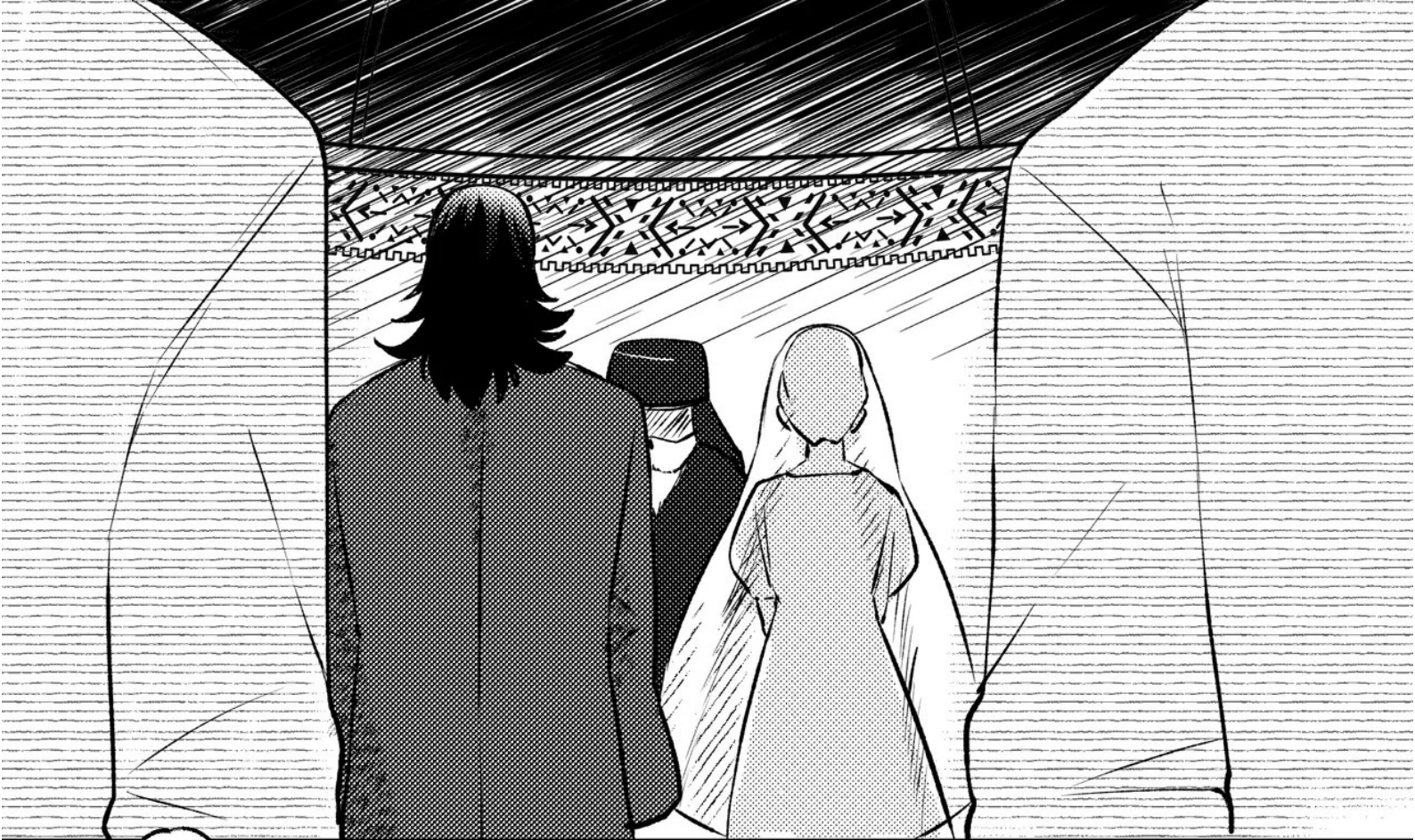


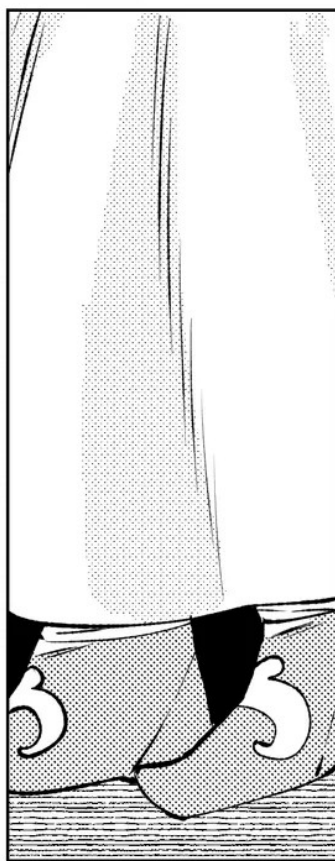
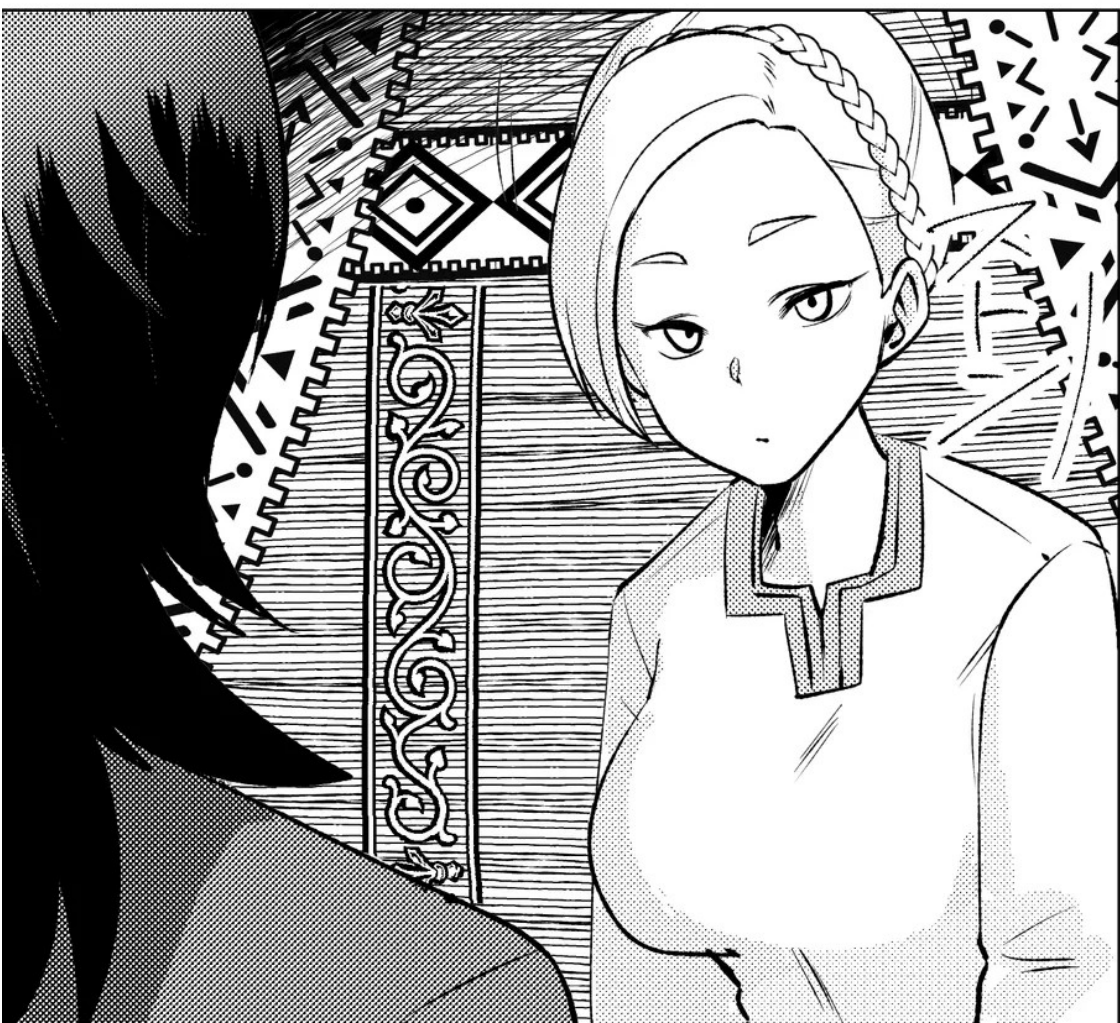
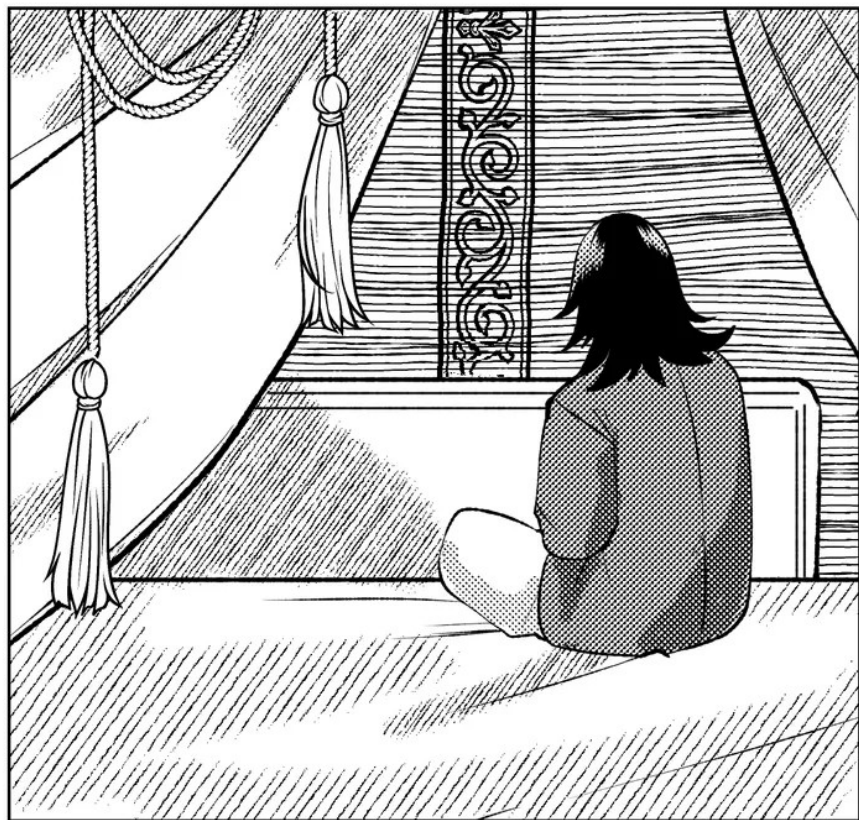
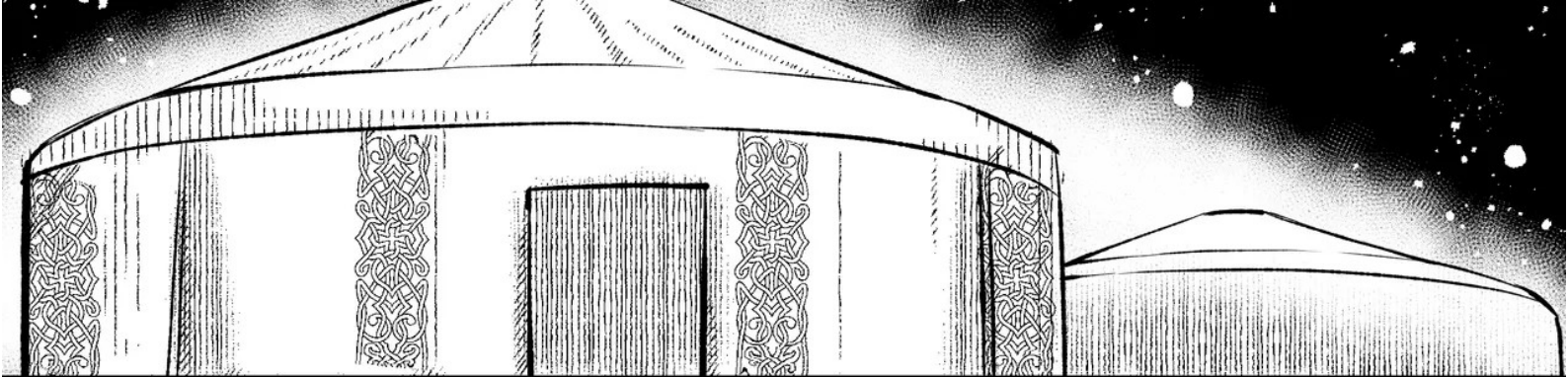
いずれ
道連れに…
共に地獄に
送ってやる…

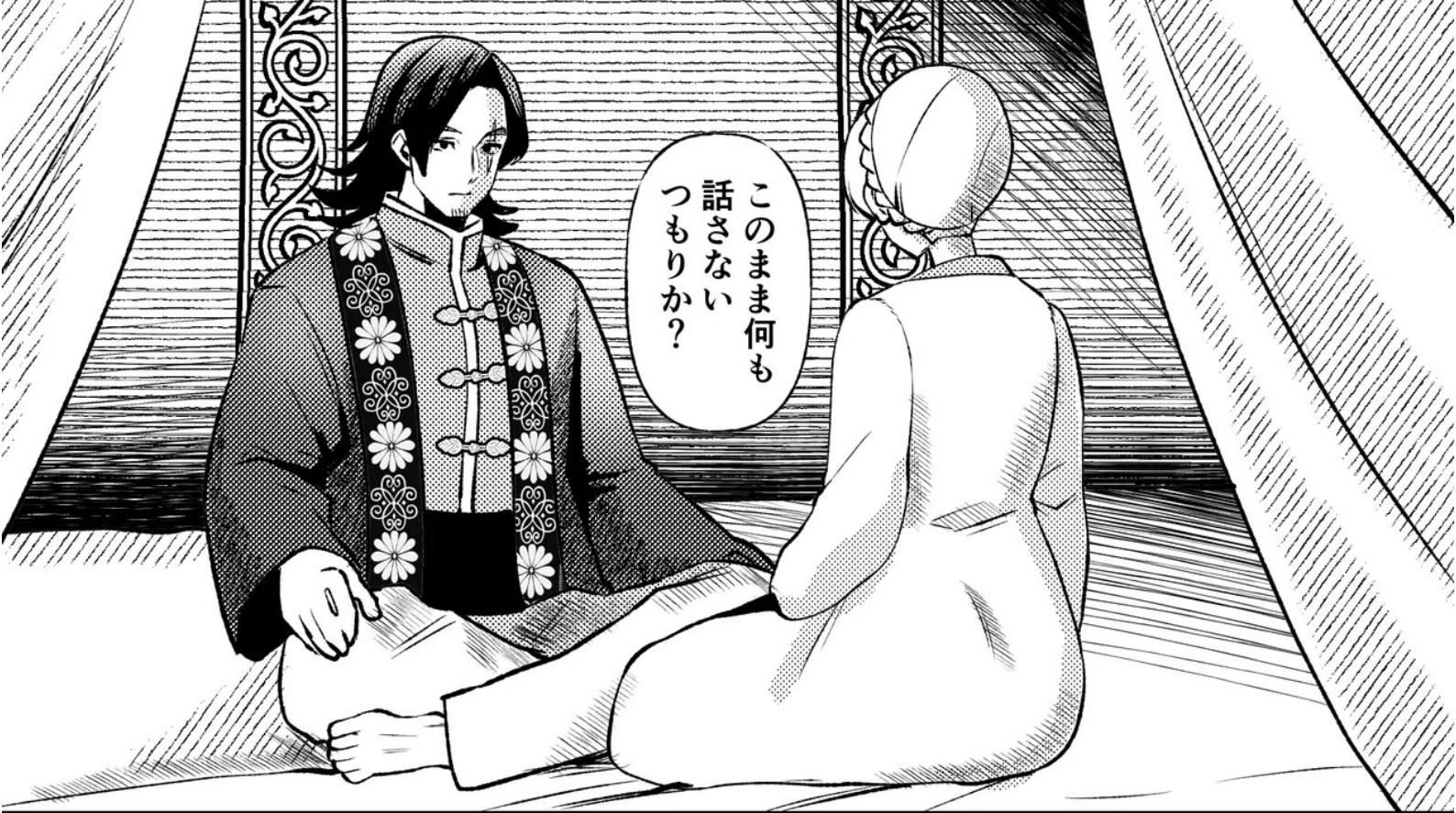












このまま何も
話さない
つもりか？



礼を
やりたい
ところだが

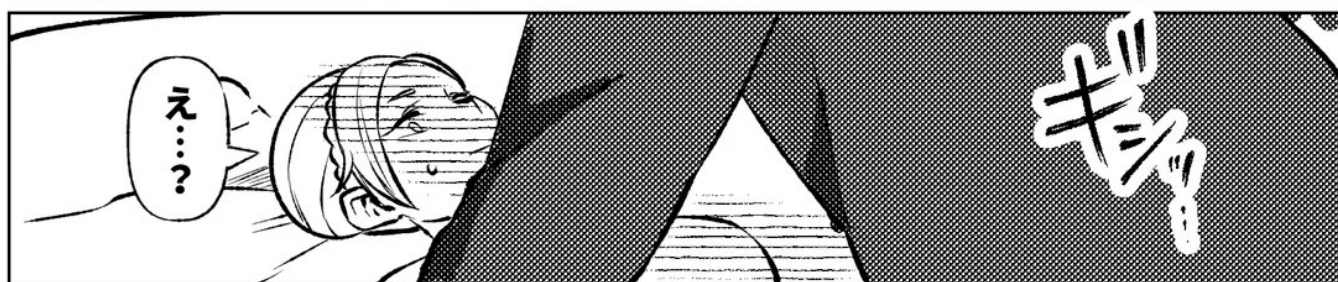
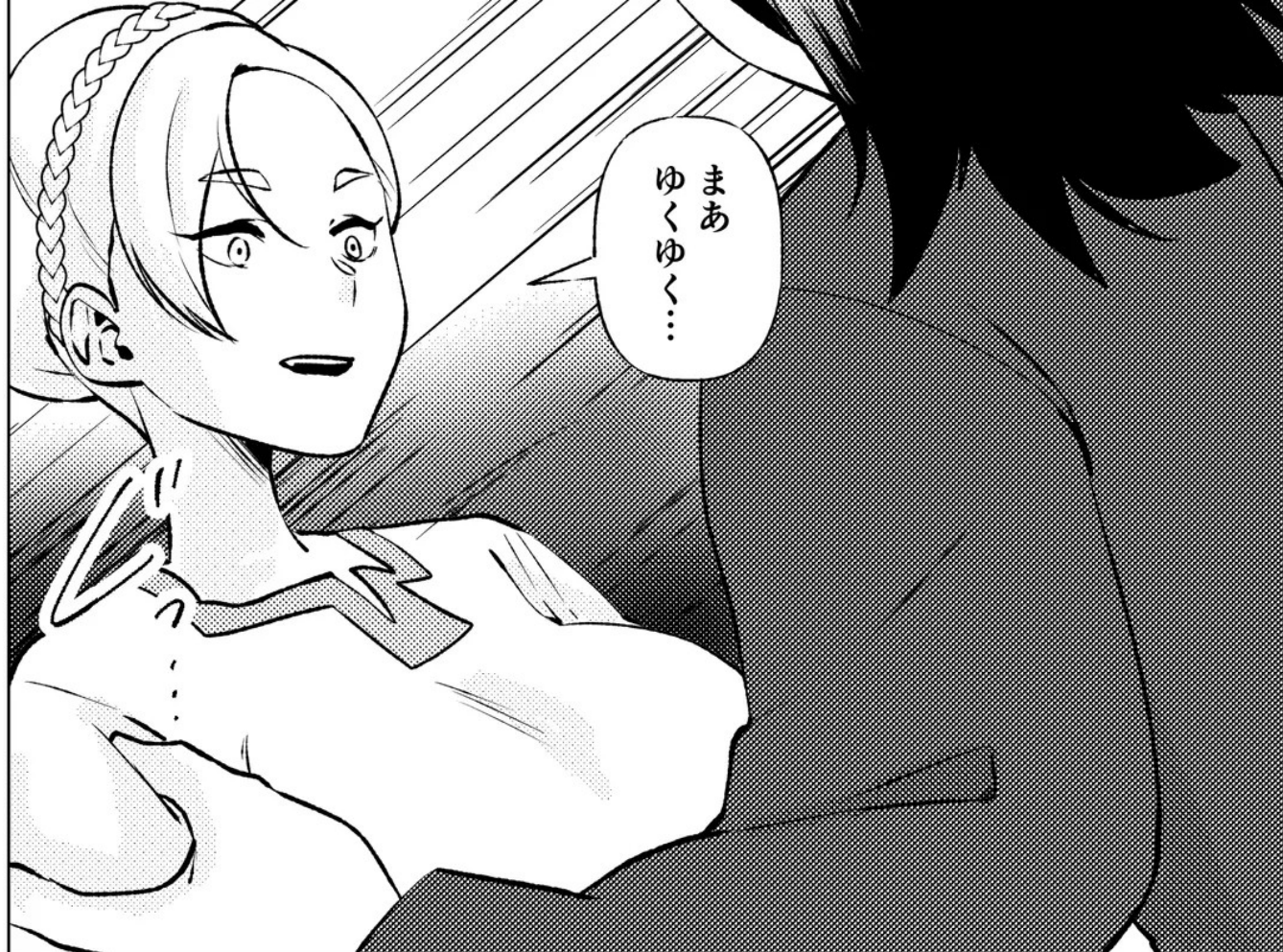
あいにく
もう持っているものなど
この身くらいしか
ないからな…

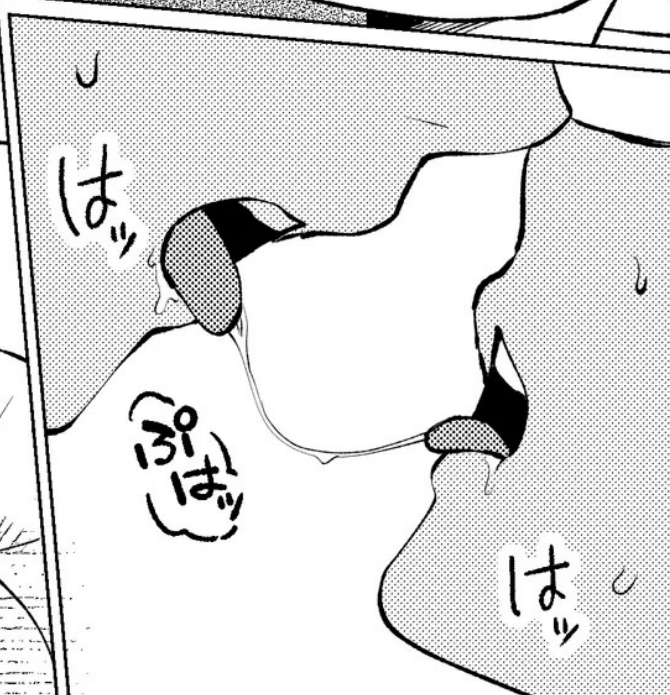
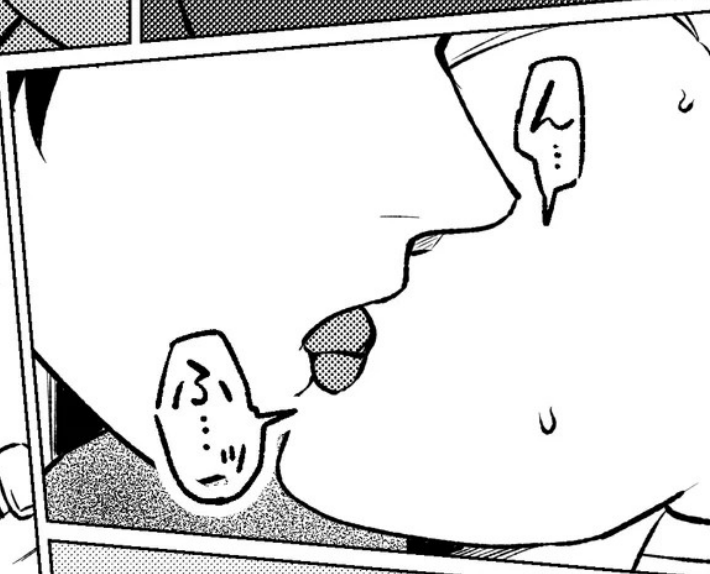
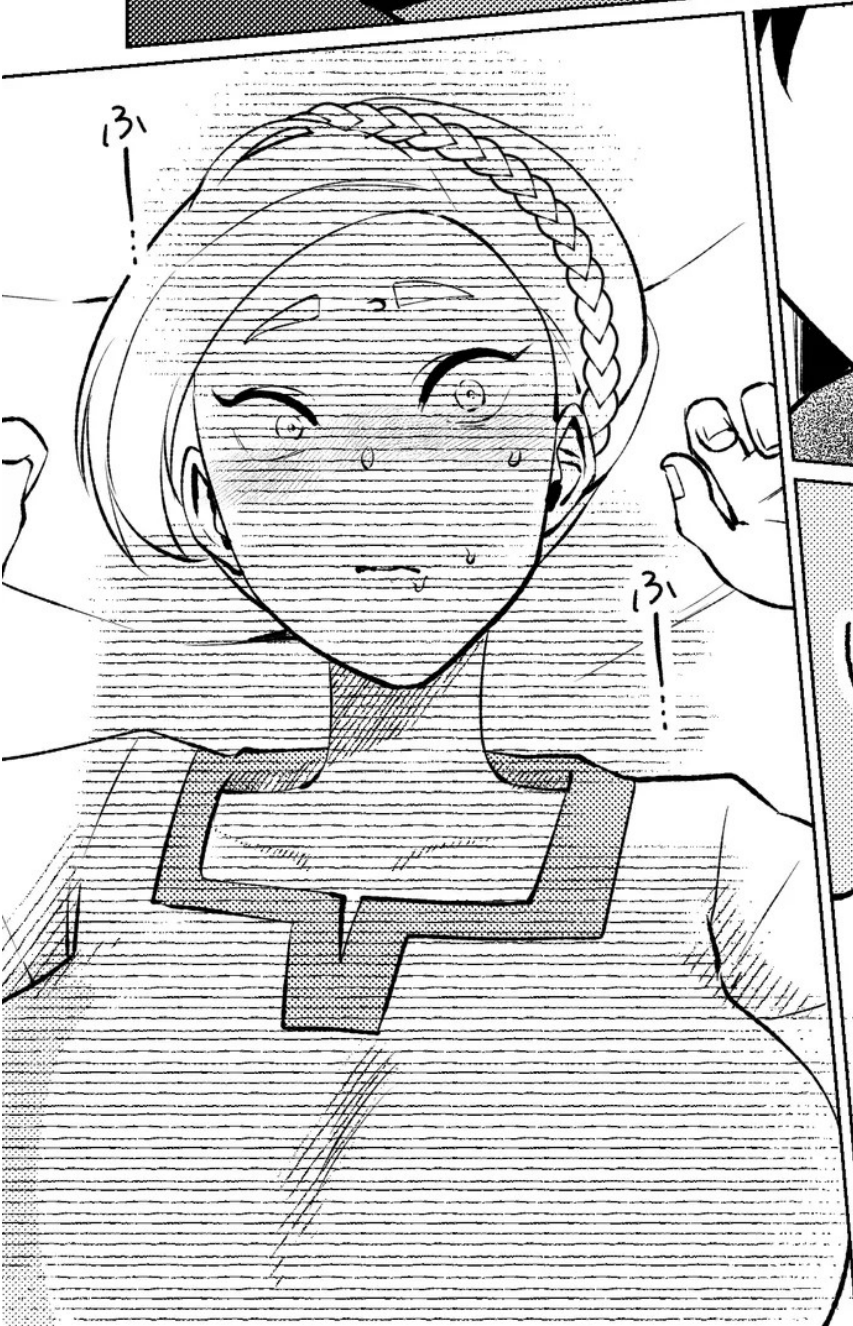
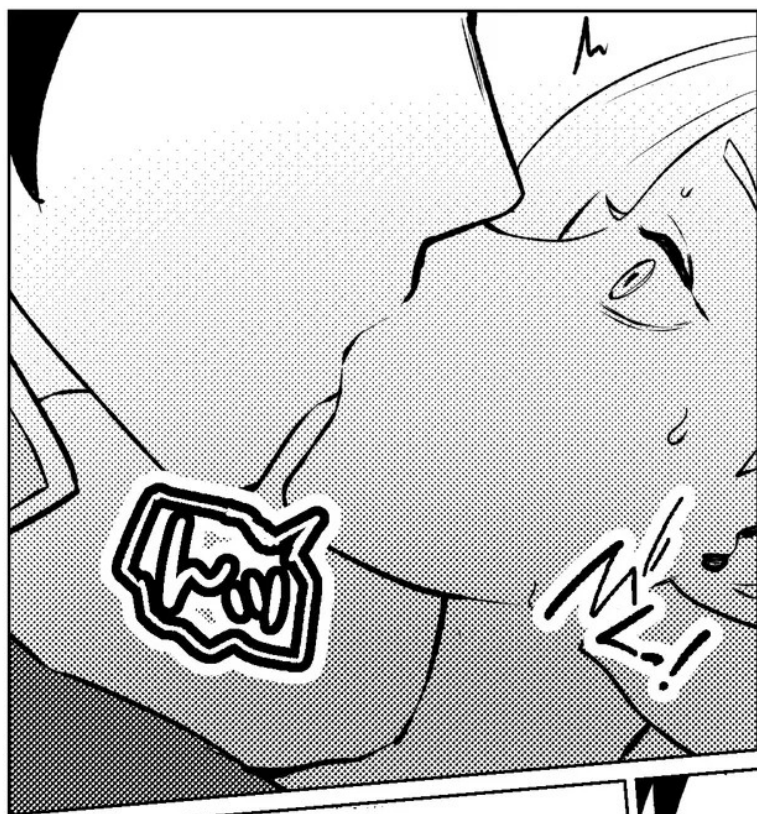


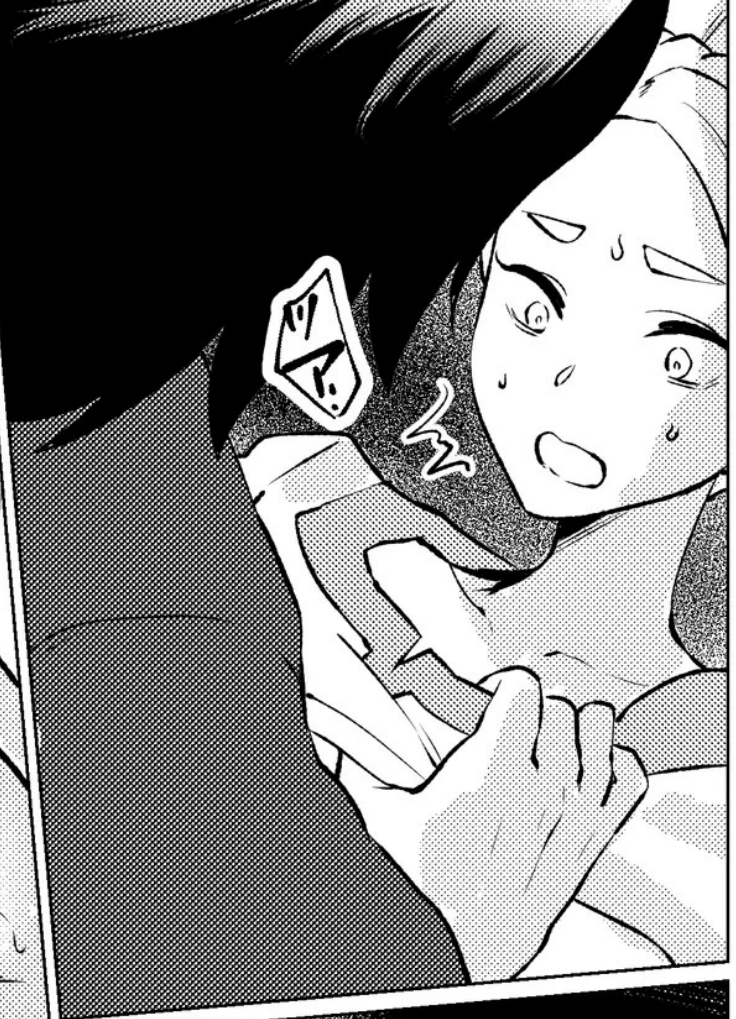
…まあいい。

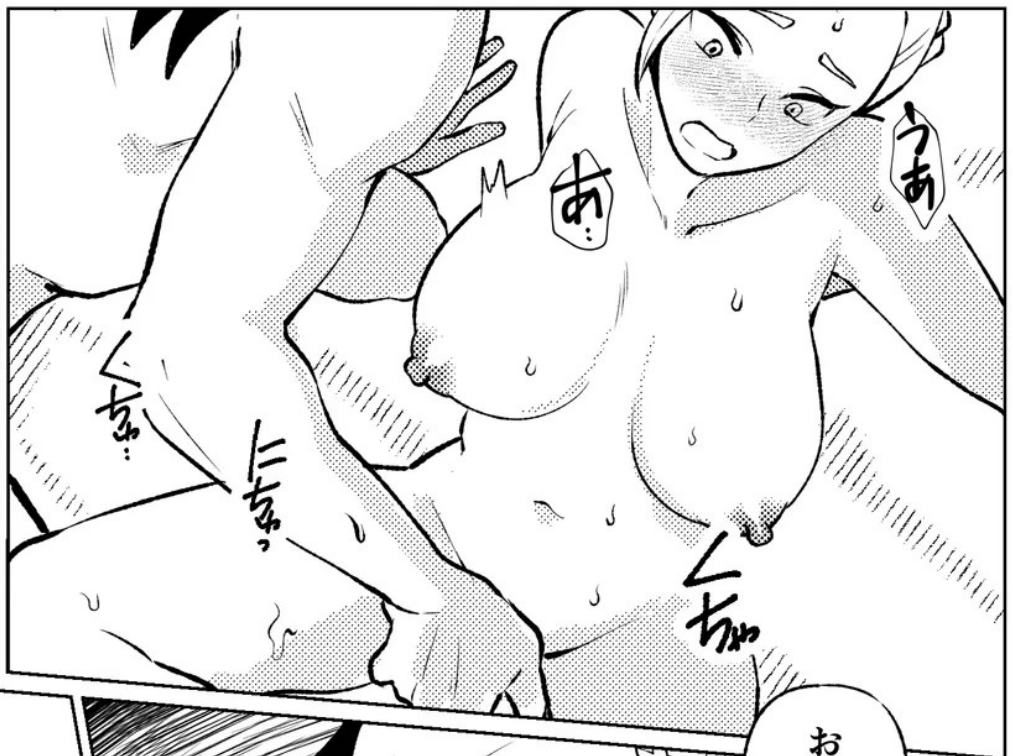
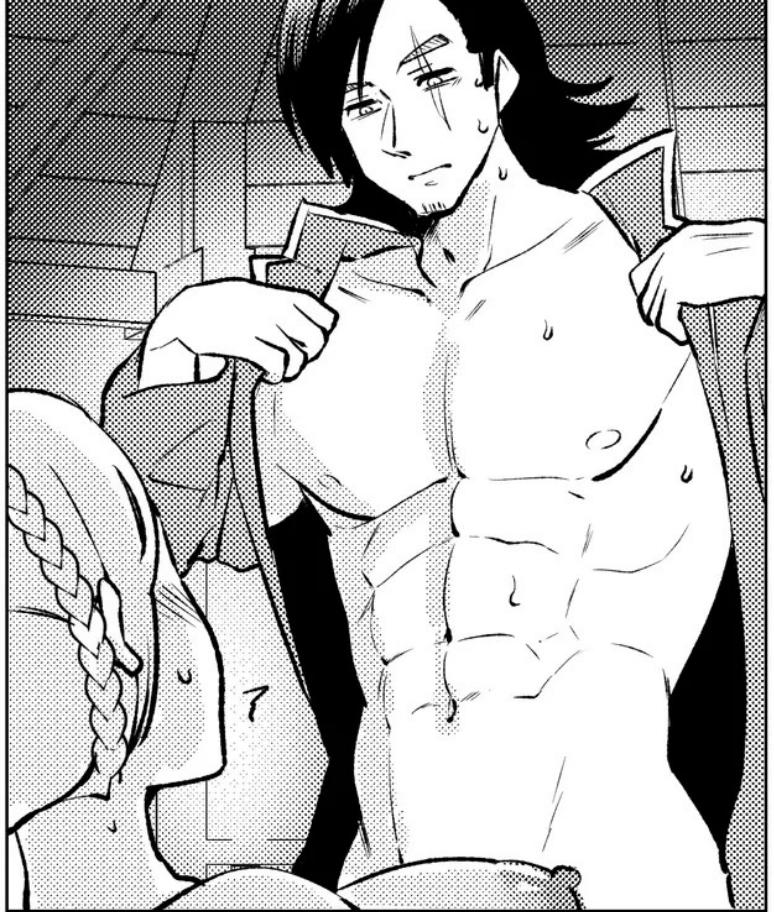
貴様との
縁談の
おかげで

母の祖国への
馬鹿兄の侵略を
止められた事は
確かだからな

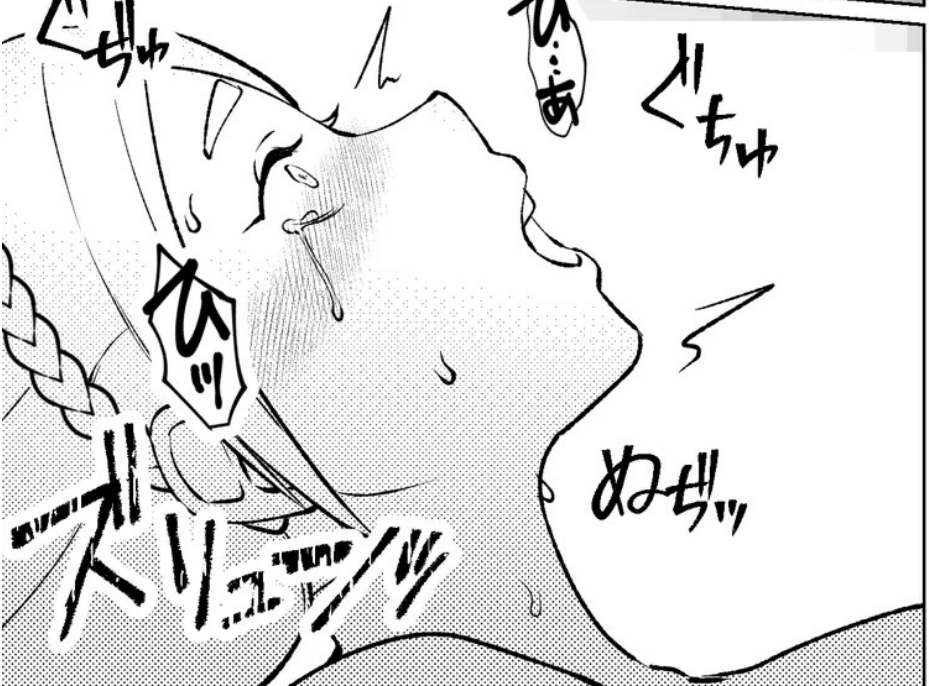
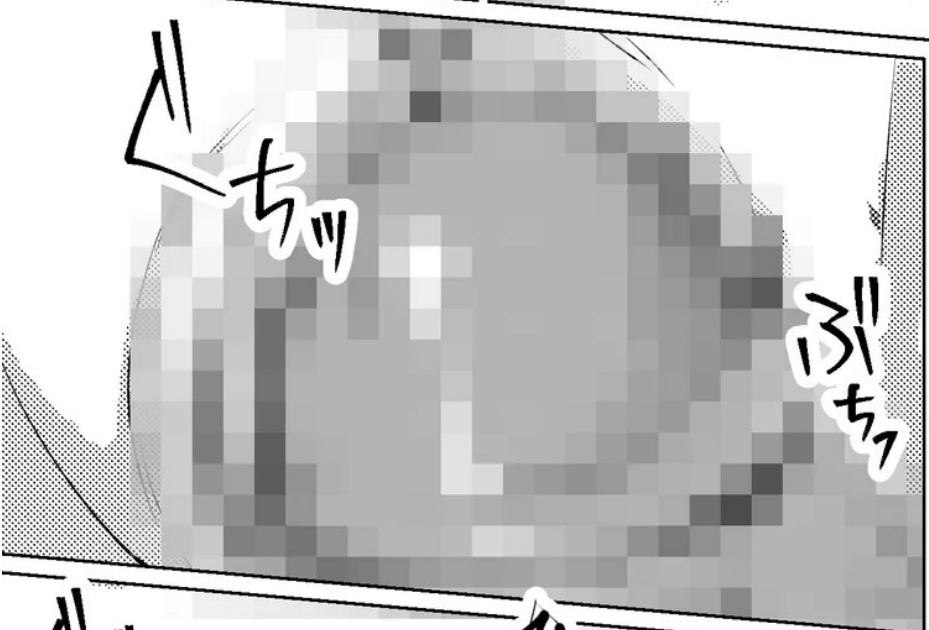




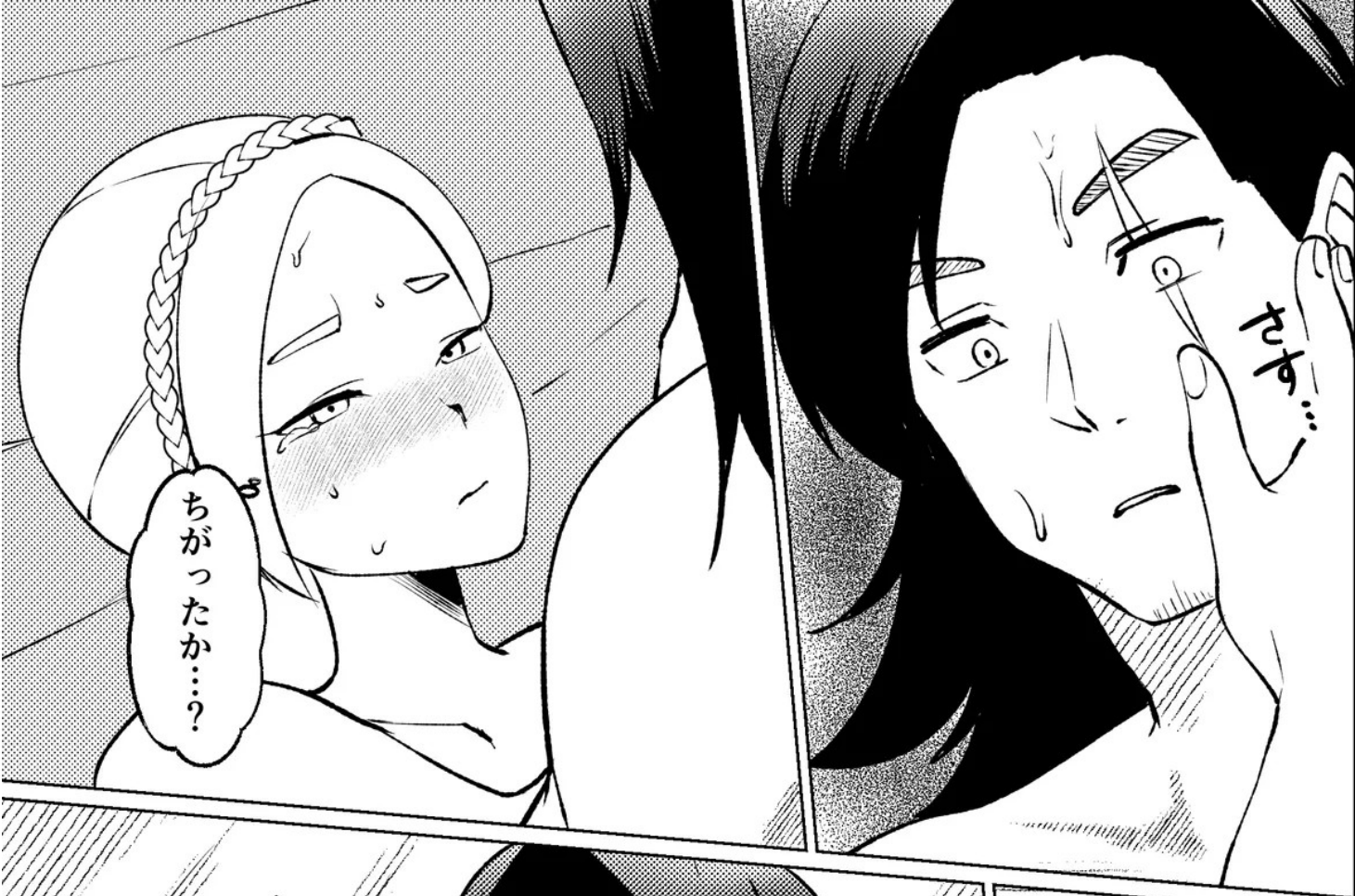


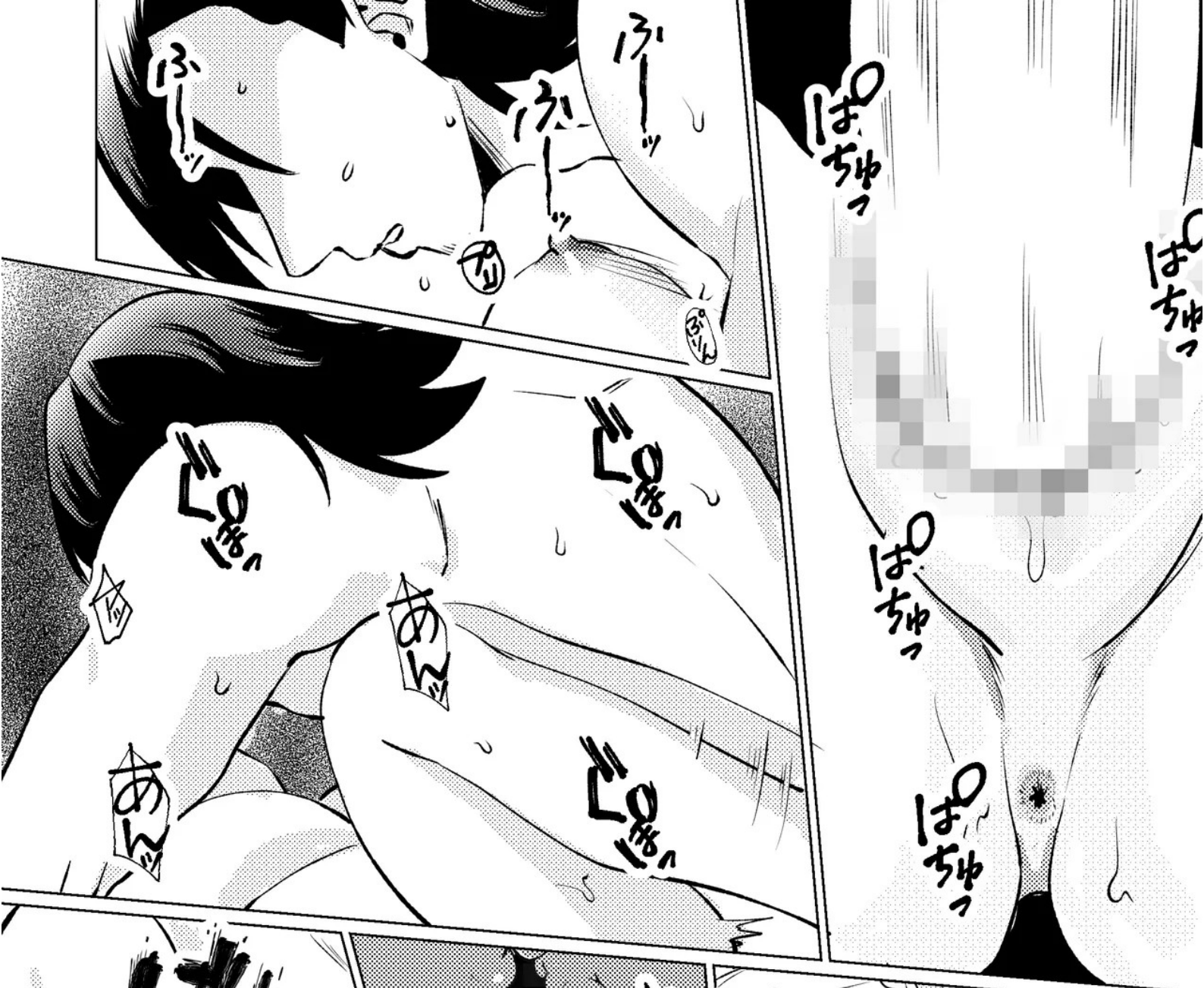




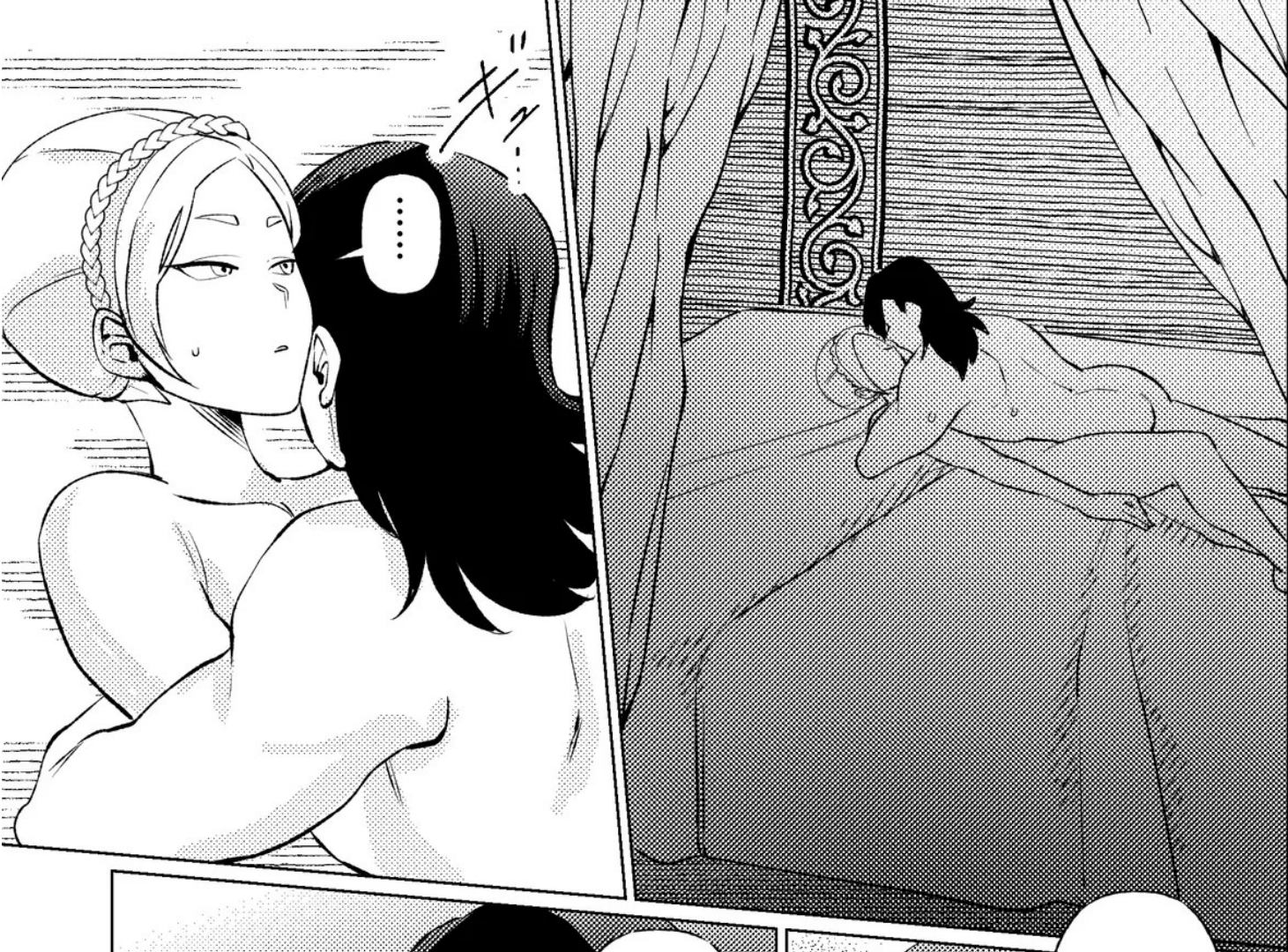












なんと
器の
大きい女だ…

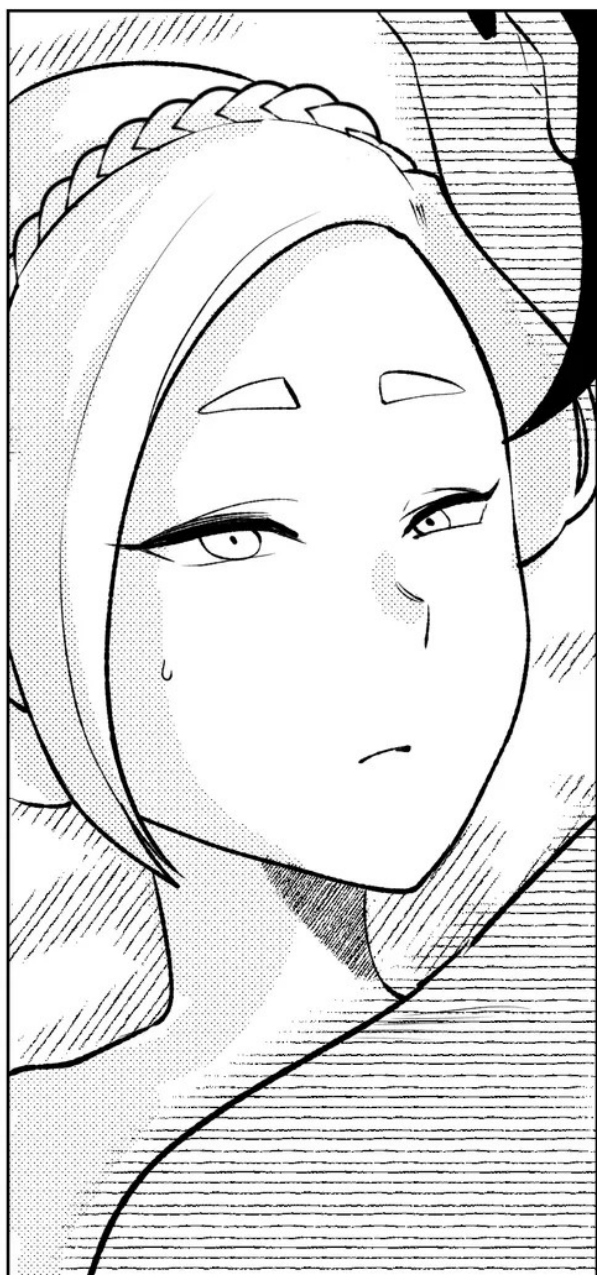
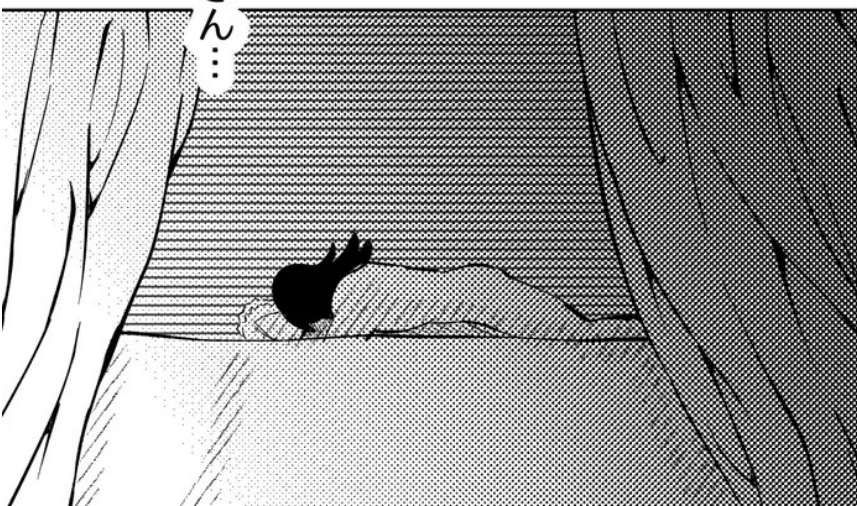
身を委ねて
くれるとは…

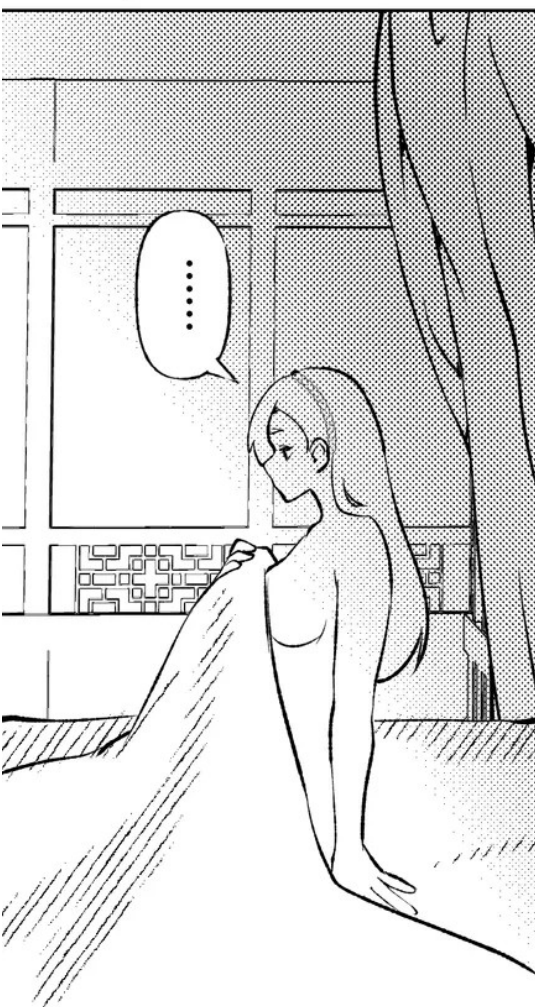
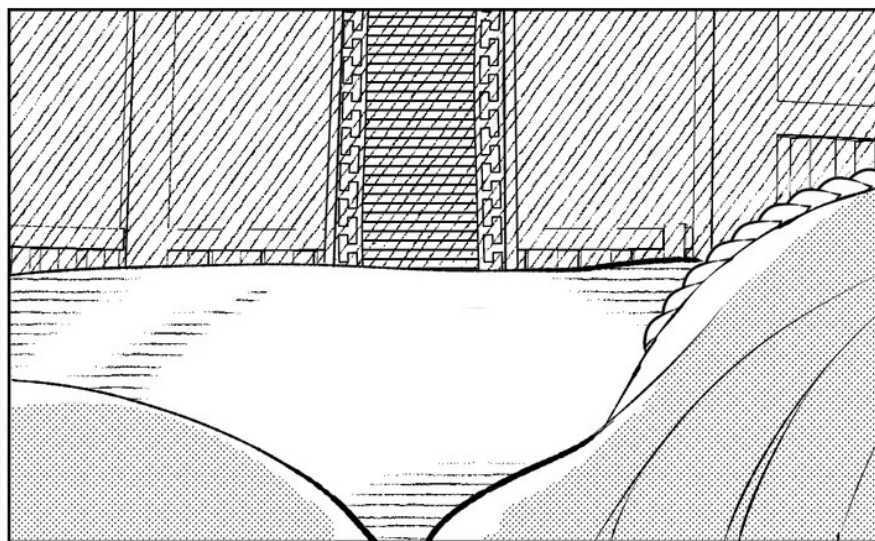
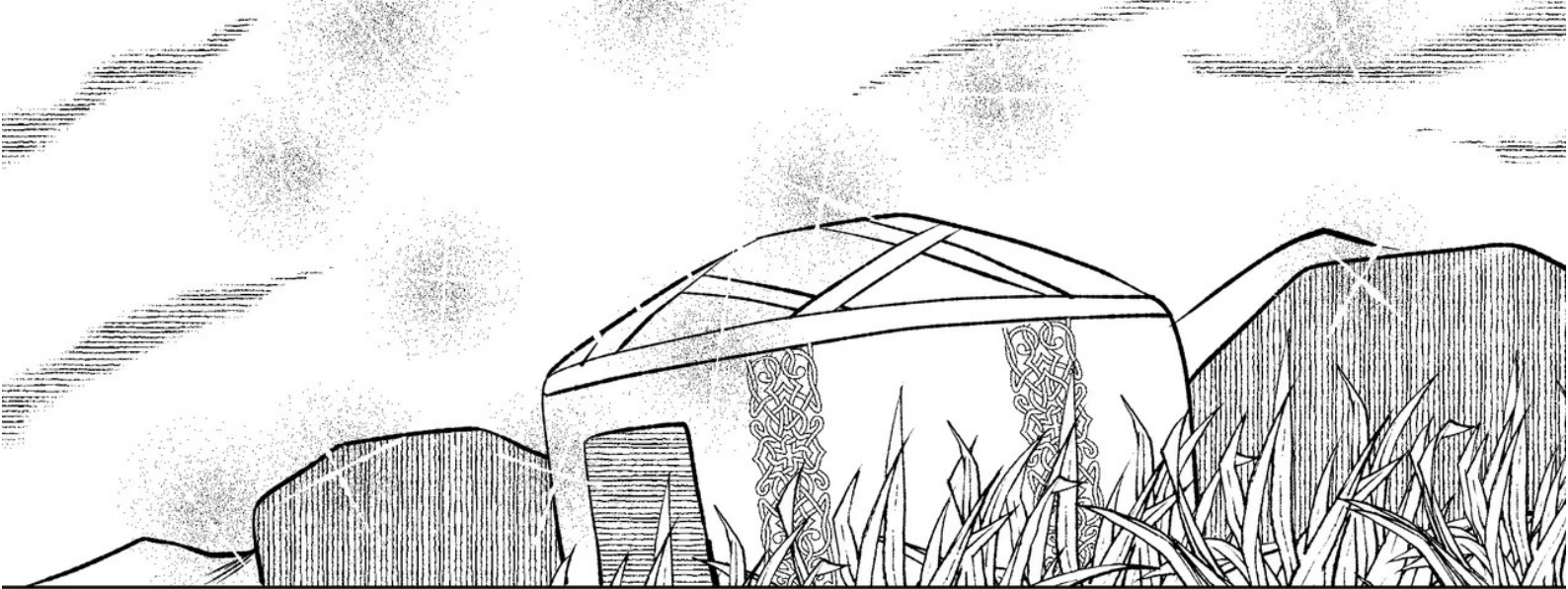
緊張して
ろくに話せも
しなかった私に

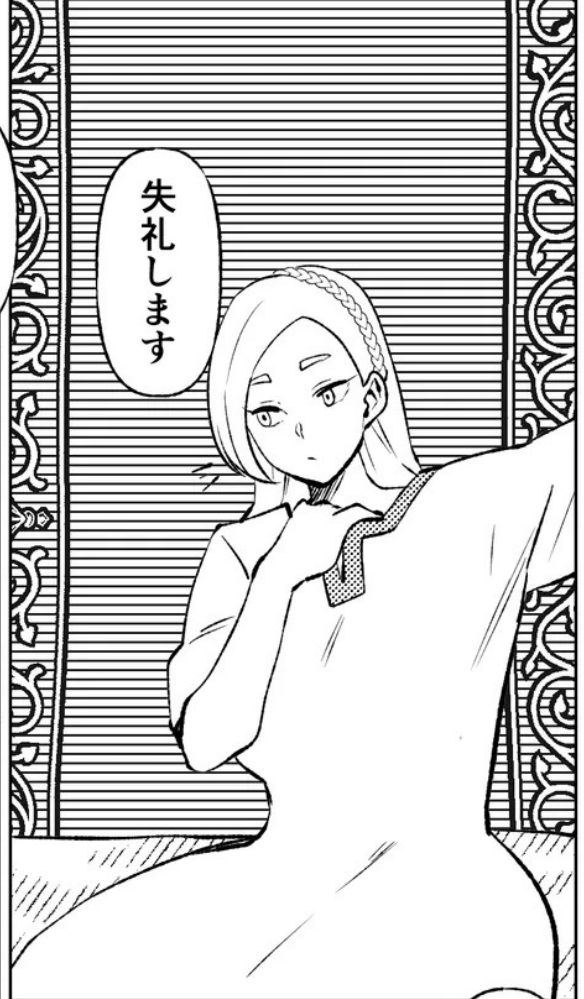


緊張……？

異民族の
感情表現は
よく分らん…







失礼します

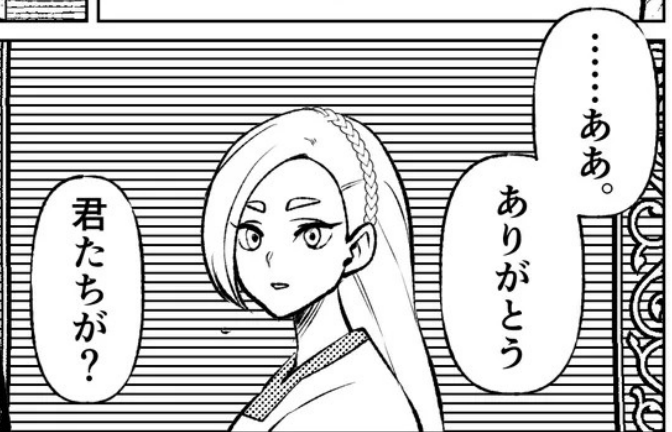


おはよう
ございます

ブランカ様

よくお眠りに
なれましたか？

朝のお支度を
お手伝いさせて
いただきます



……ああ。

ありがとう

君たちが？



頼める
だろうか

おめあ



…そう、か。

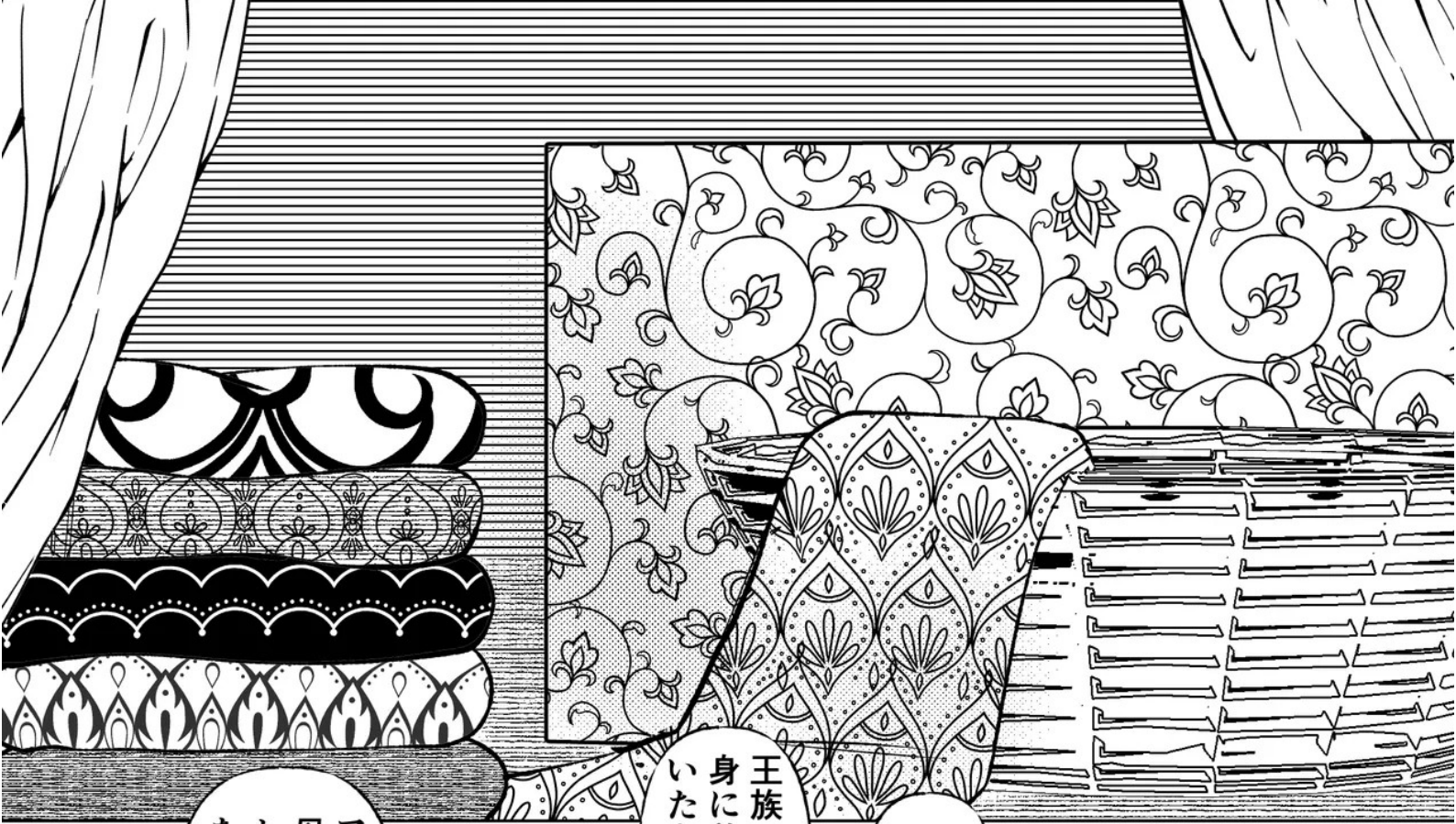
いや、いい。



お国の侍女様方
にお声がけ
したのですが…

私たちに
任せると…。

お呼び
した方が？



王族の姫様方が
身に着けられて
いたものです

アラクシ様の
母君が
お亡くなり
なられた時より、

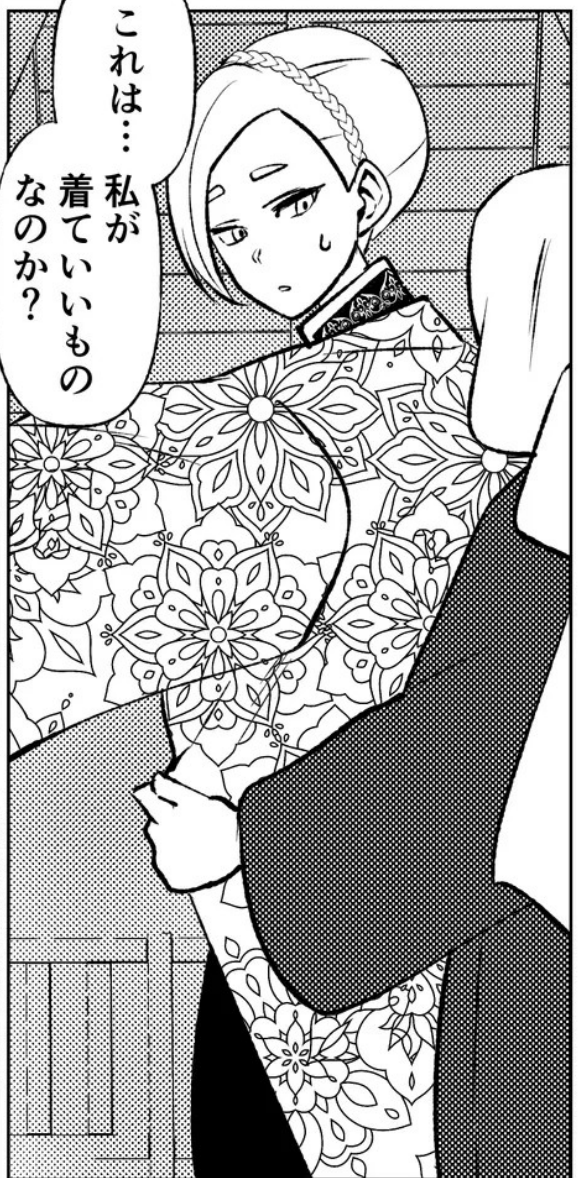
王族に女性は
おられませんでした。

これは…私が
着ていいもの
なのか？

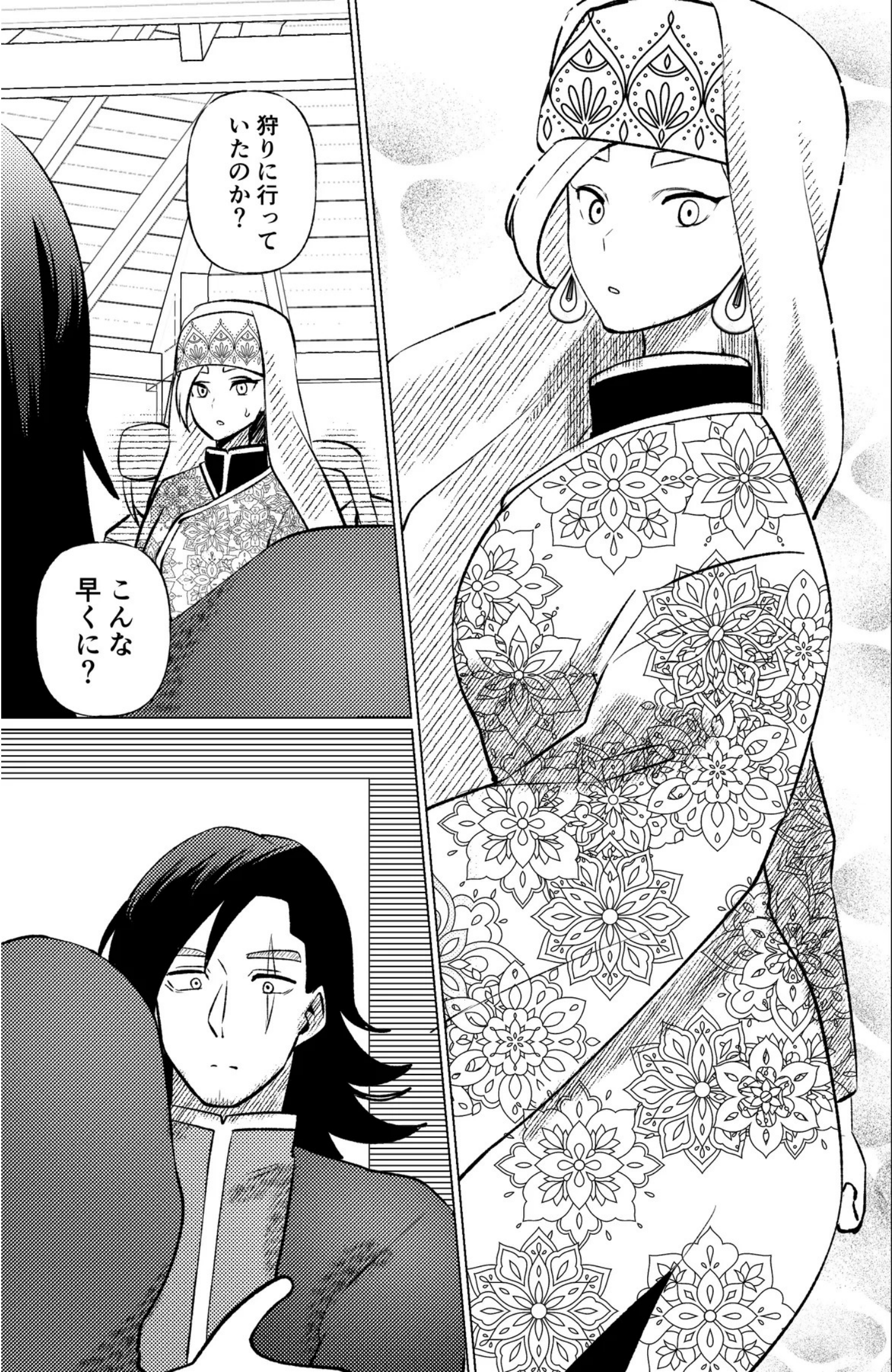
ようやく
身に着けて
くださる方が
いらっしまったと

服も
喜んで
いる
でしょう

……服は、な







狩りに行って
いたのか？

こんな
早くに？



あの…これ、
捌いてくるな…



う、美しいな…
よく似合っている…



私たちの
正式な婚姻の
手筈は
まずああして
男が獲物を
持ってくる
ものなのです

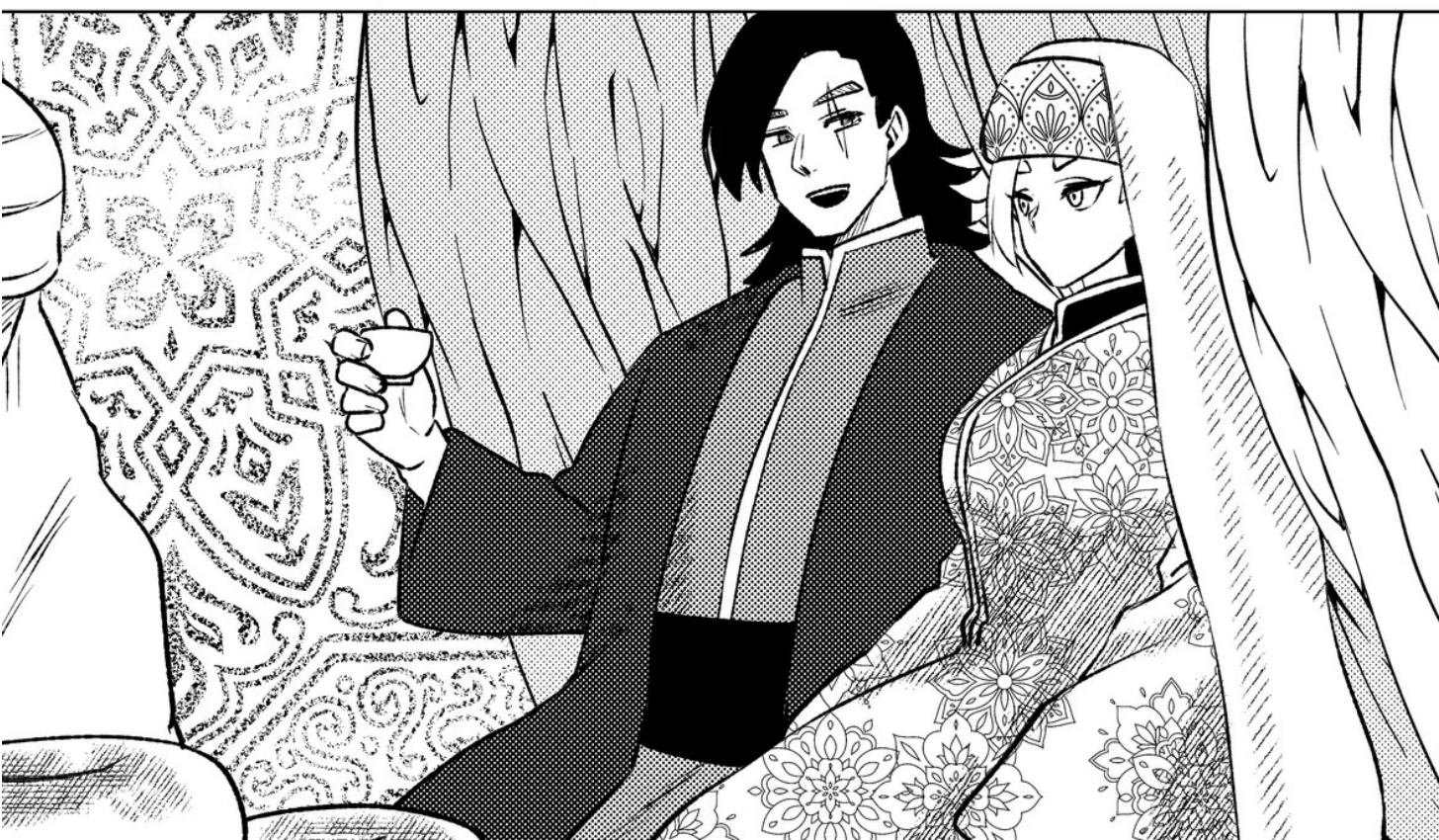
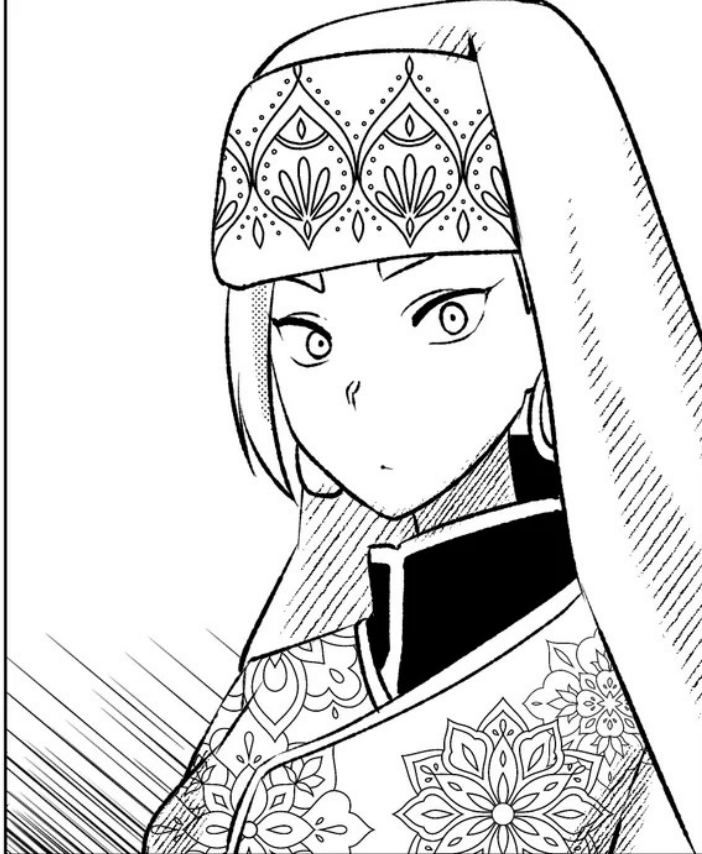


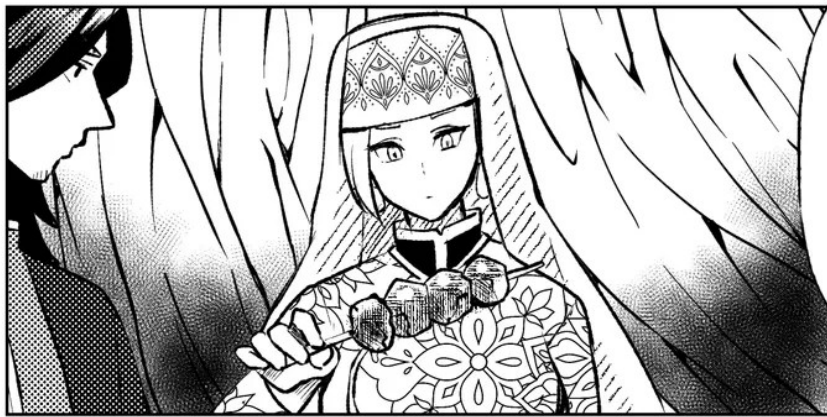
今度は
目を反らした…



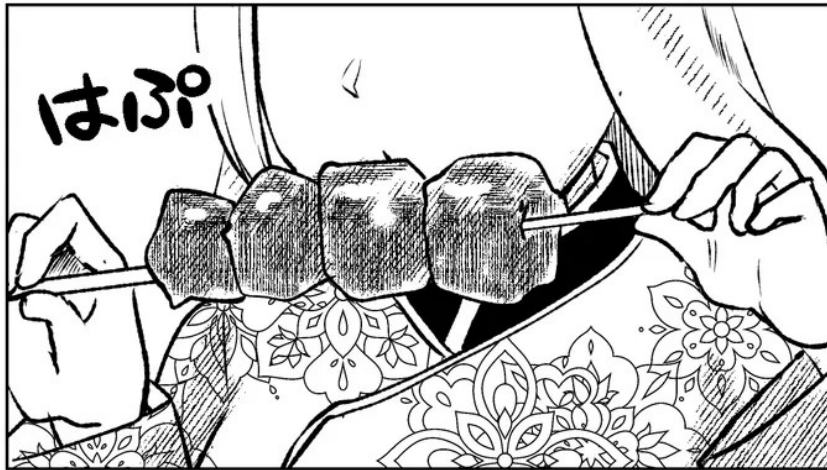
今回は急なこと
でしたから、
略したのですが、

夜明けよりも早く
ブランカ様の為に
獲物を
取ってくると
飛び出して
いかれて…





こっちの料理が
口に合うか
分からんが
食べられそうか？



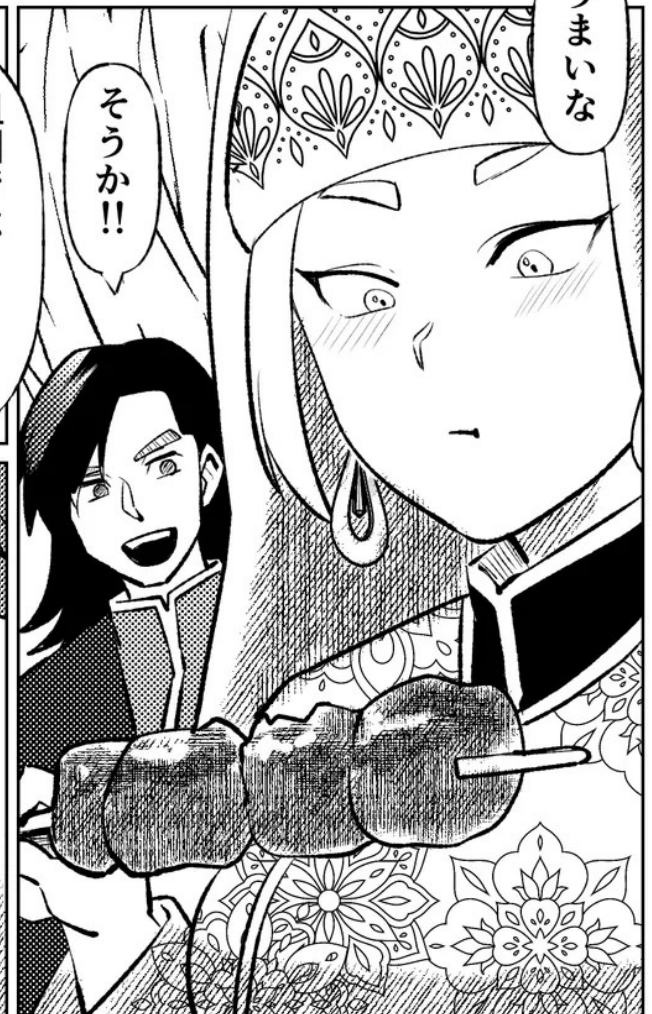
はぶ



もぐ もぐ

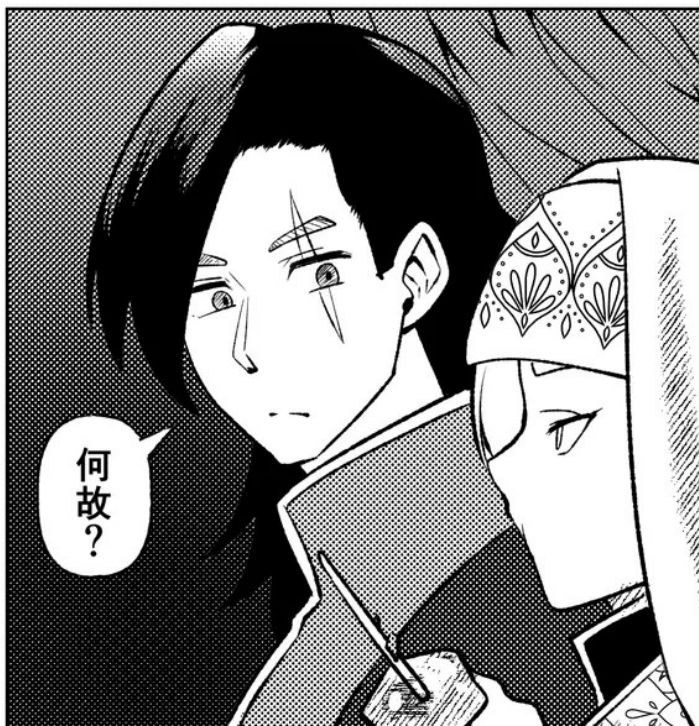
余計
うまい

祖国では
温かいものなど
ほとんど
食べなかったから



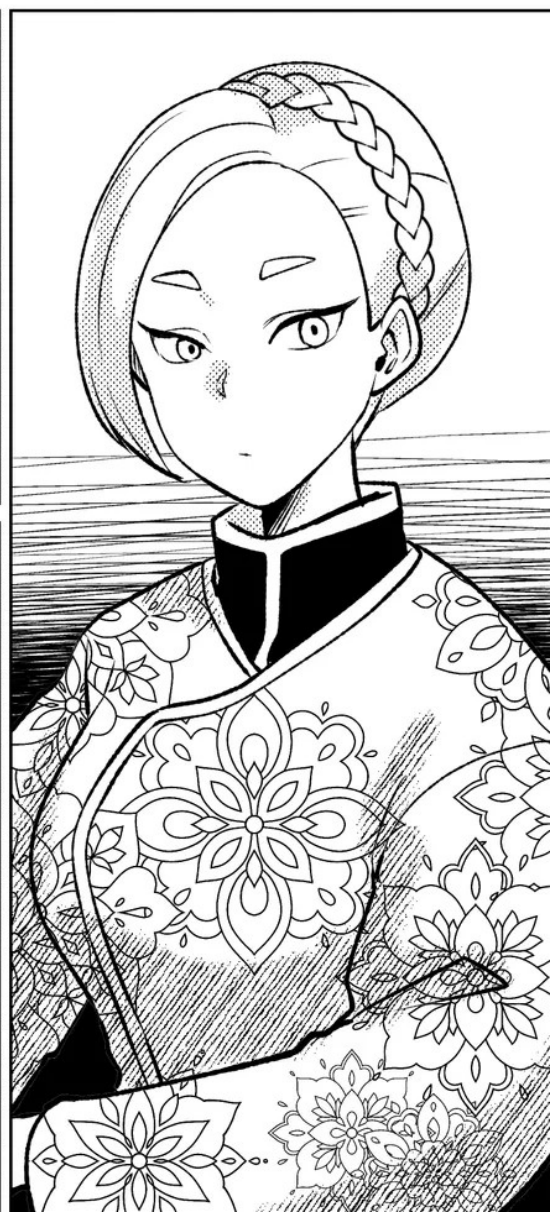
うまいな

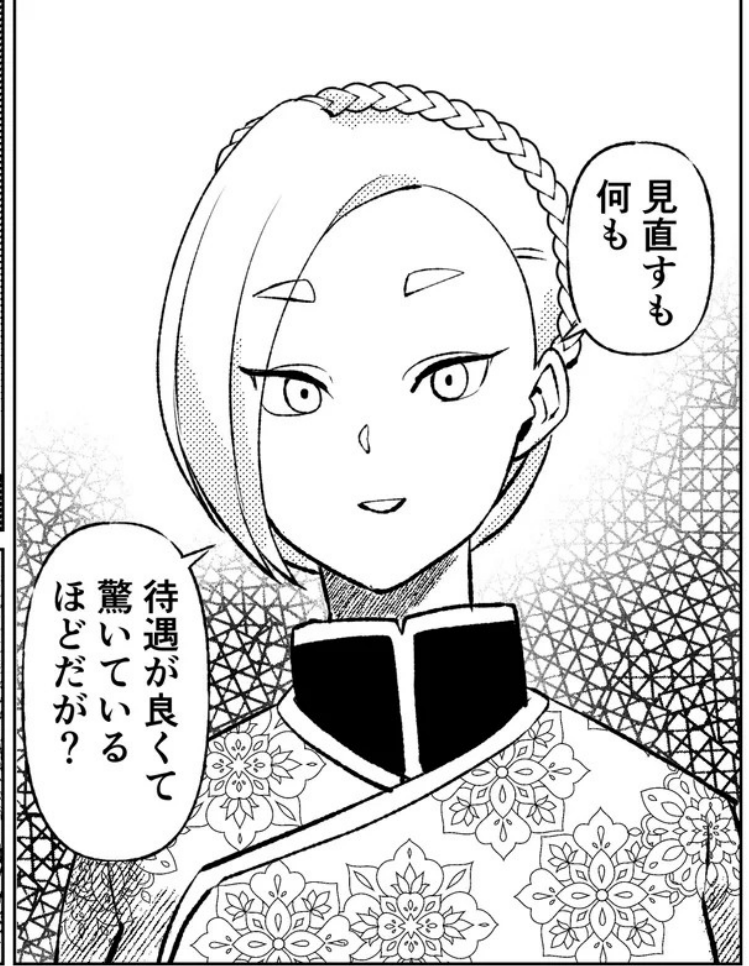
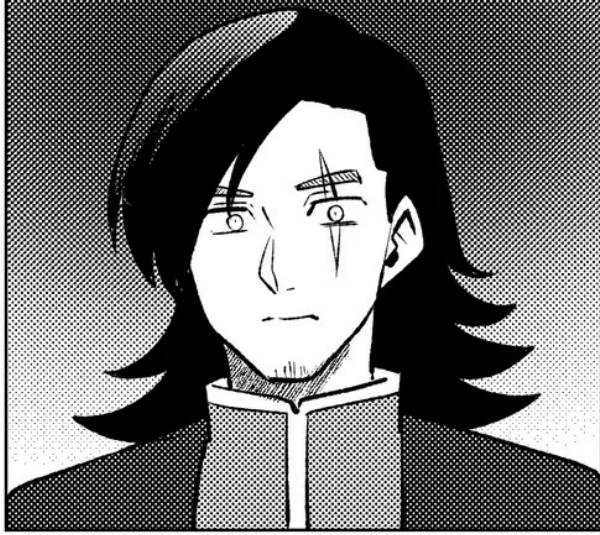
そうか!!



何故？

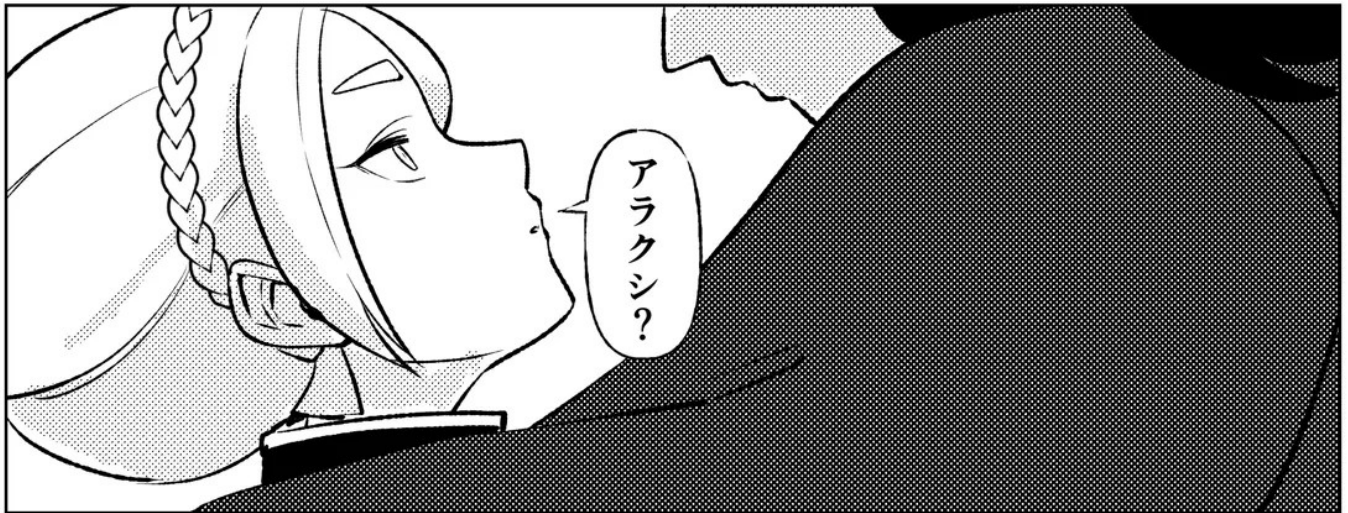




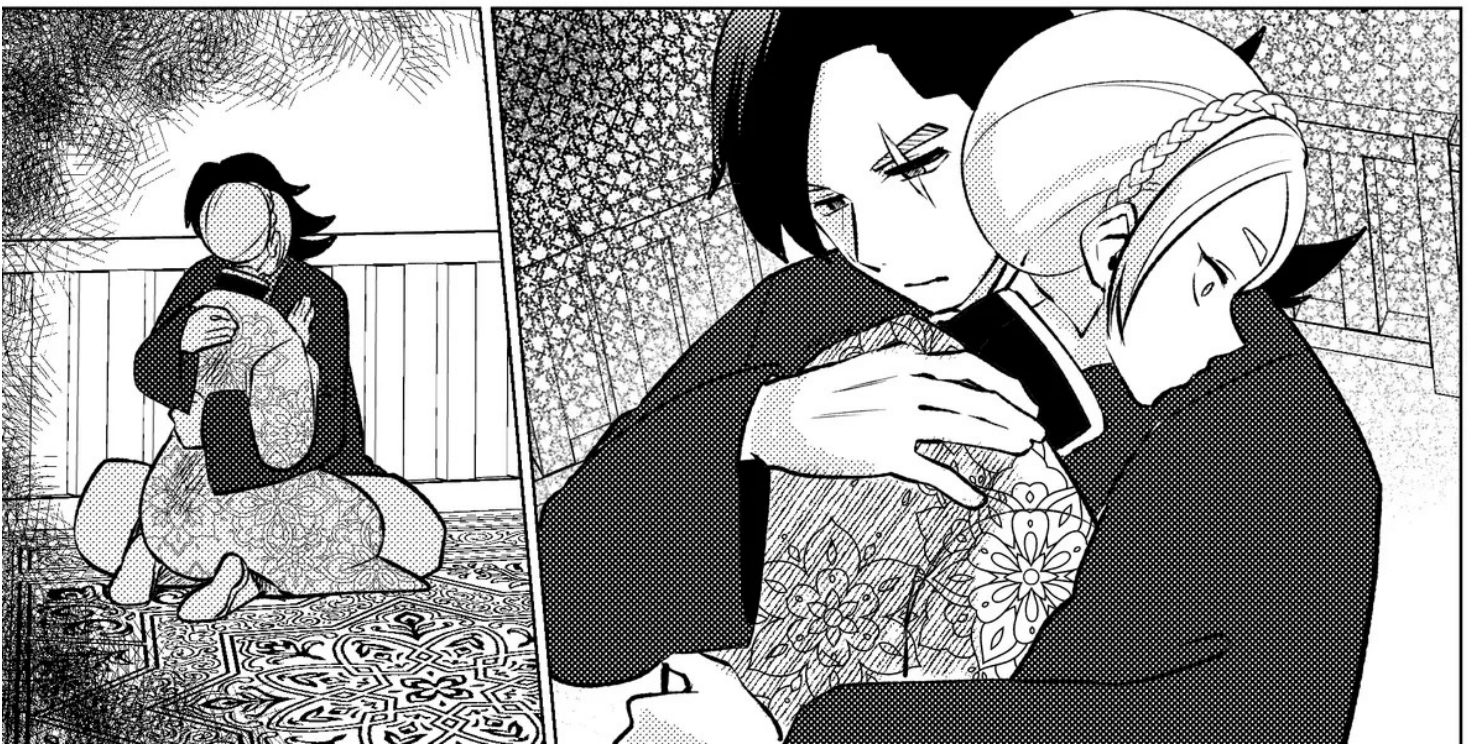


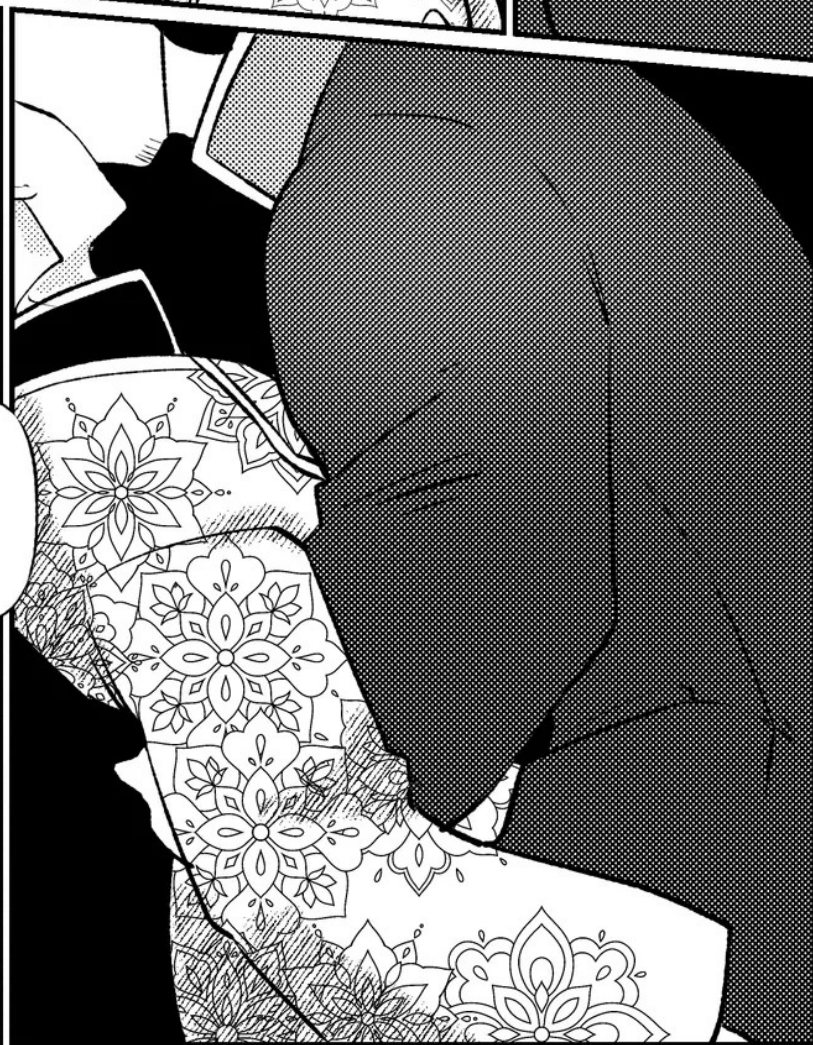
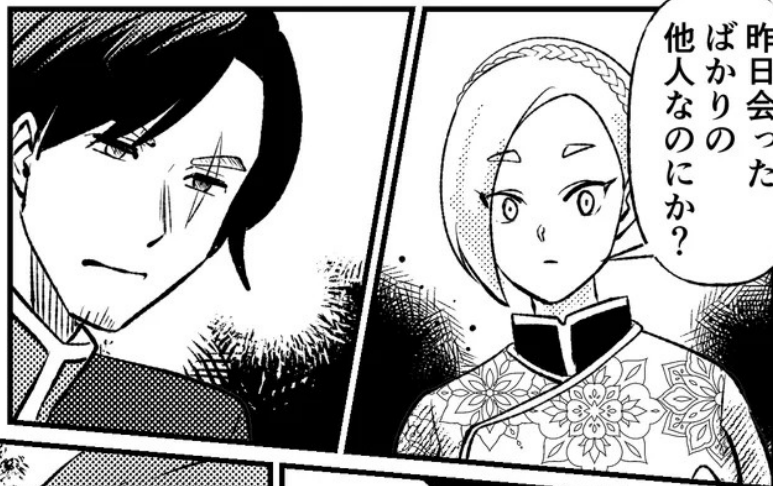
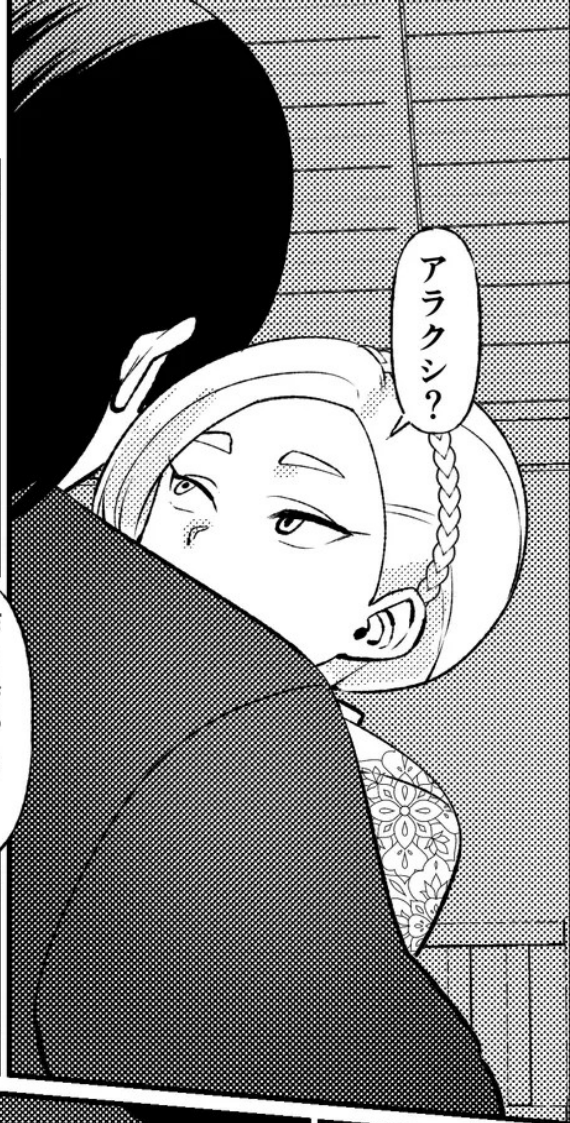
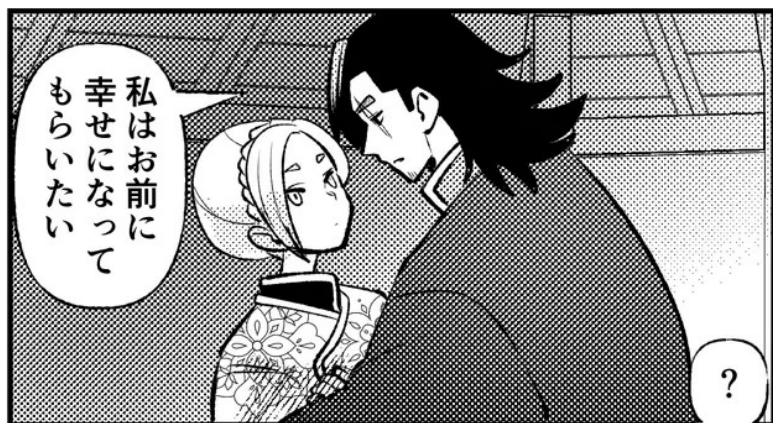
見直すも
何も

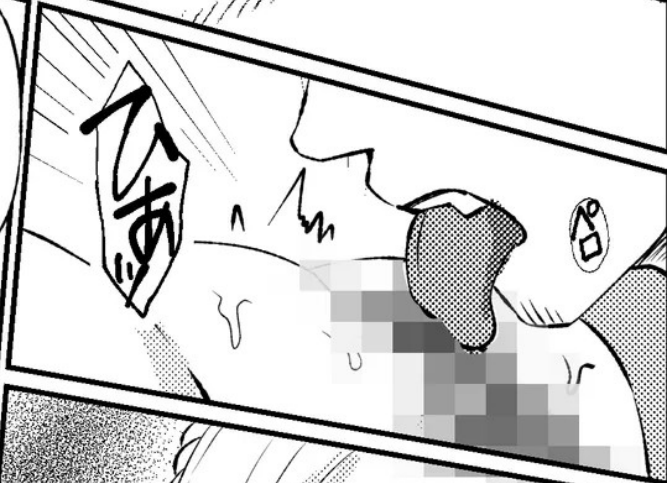
待遇が良くて
驚いている
ほどだが？

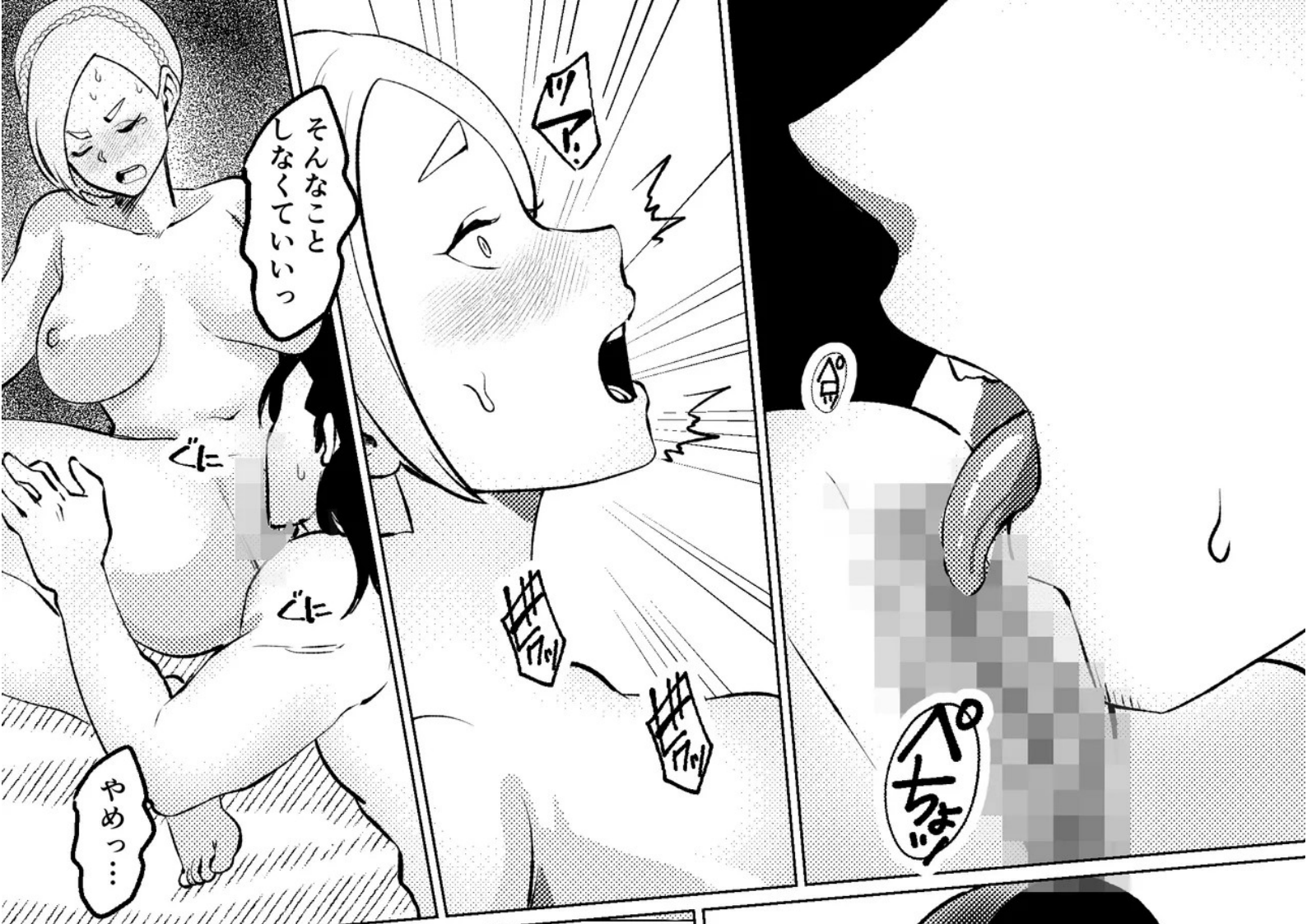


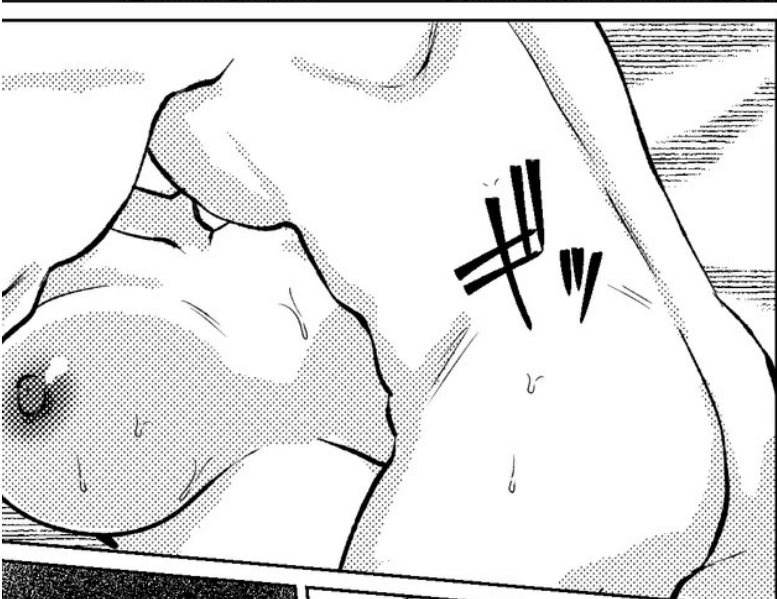
アラクシ？

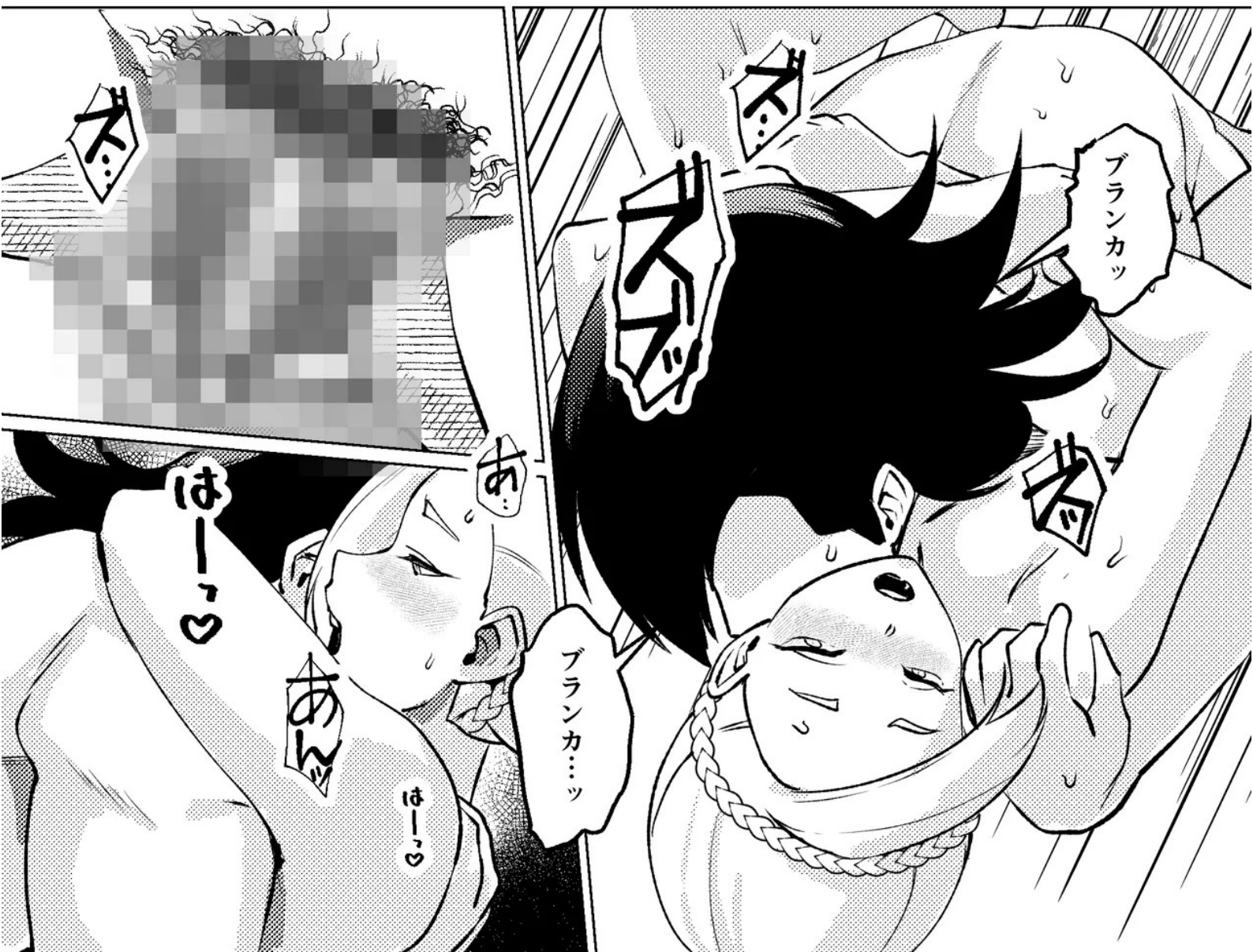


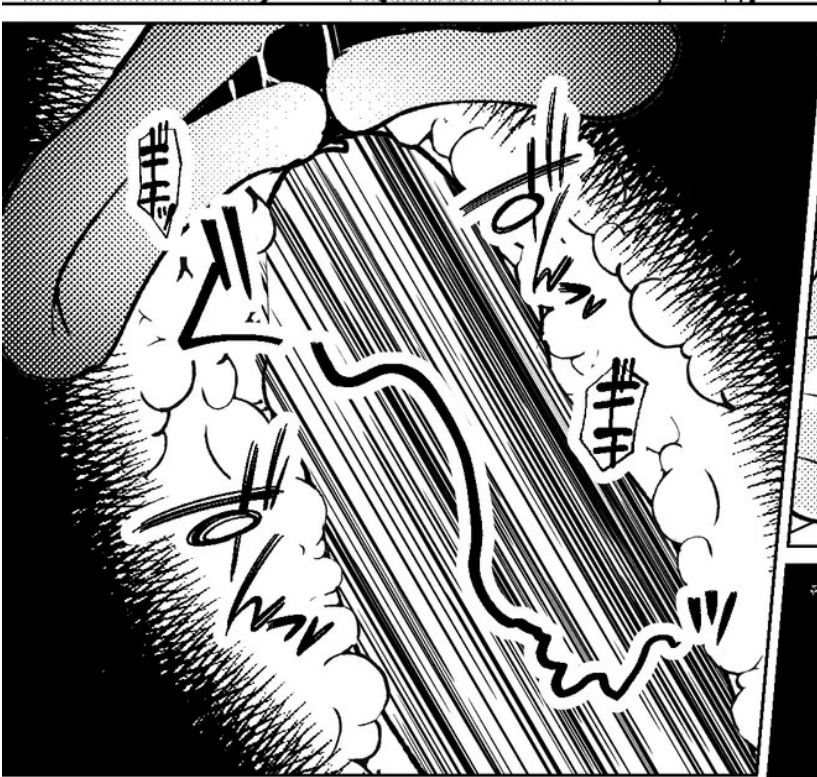
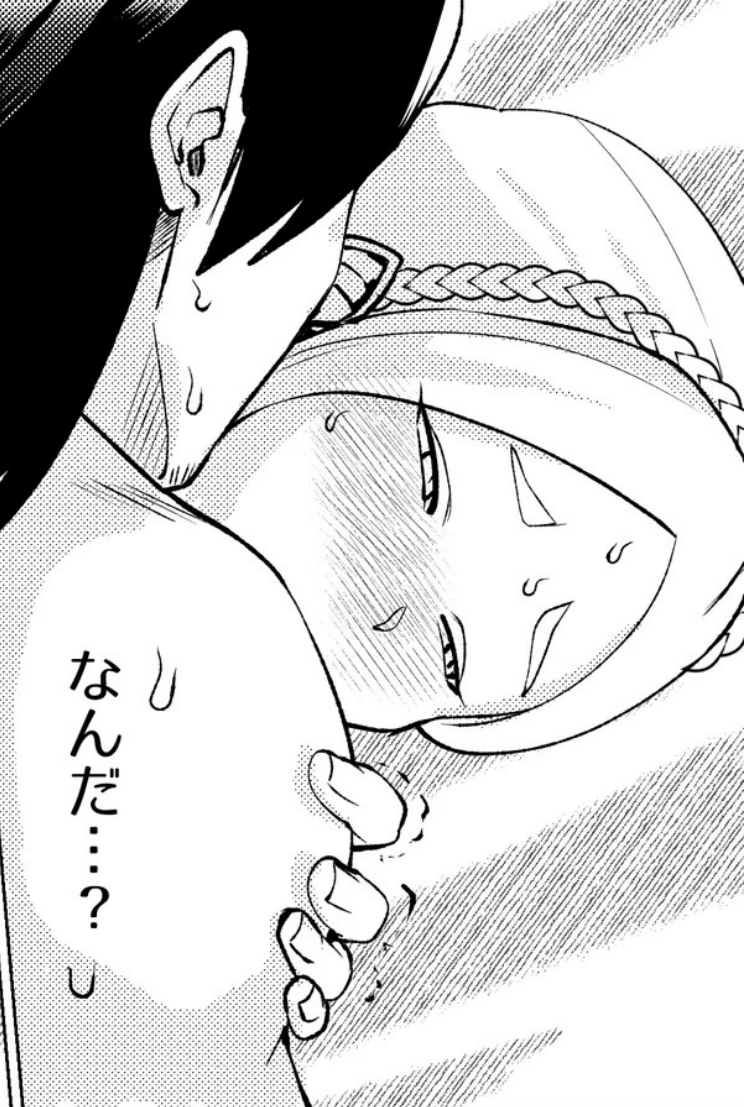




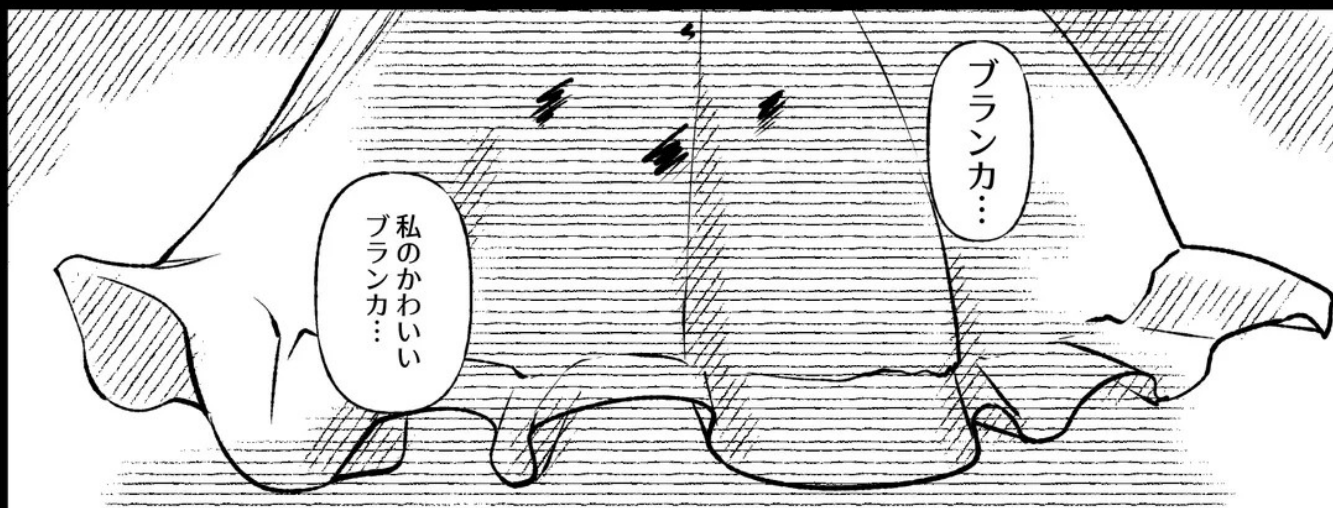












ブランカ…

私のかわいい
ブランカ…



何故
あの男の胤の
子供が生きて
姫様が
死ななければ
ならないのです

乳母殿
お声を小さく



おかーさま…？



強く…
生きてね…



何かの役には
立つだろう

あいつは
ここで
飼い殺す。
あれを産んだ女は
顔と肉体は
良かったからな…



死に損ないの
娘の方を
北方が
引き渡しを
要求している？
かまわん。
使者を殺せ。

…カ

ブランカ

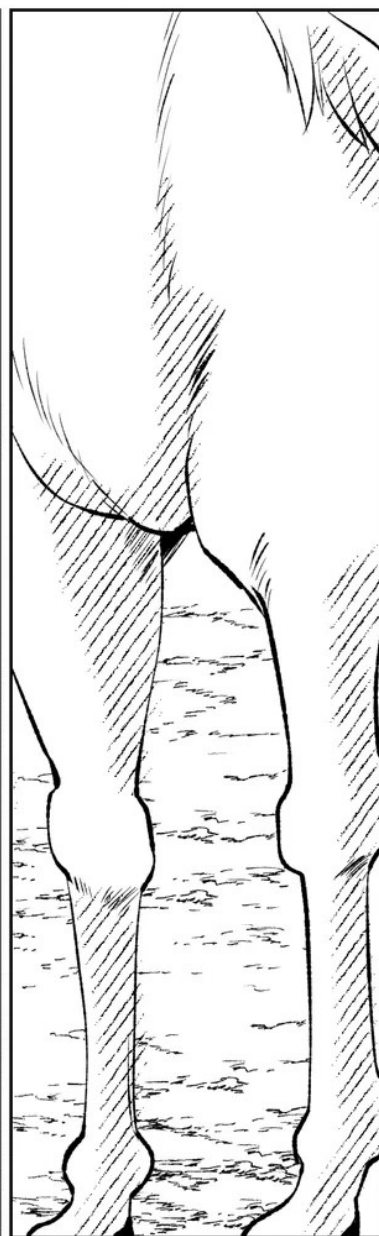
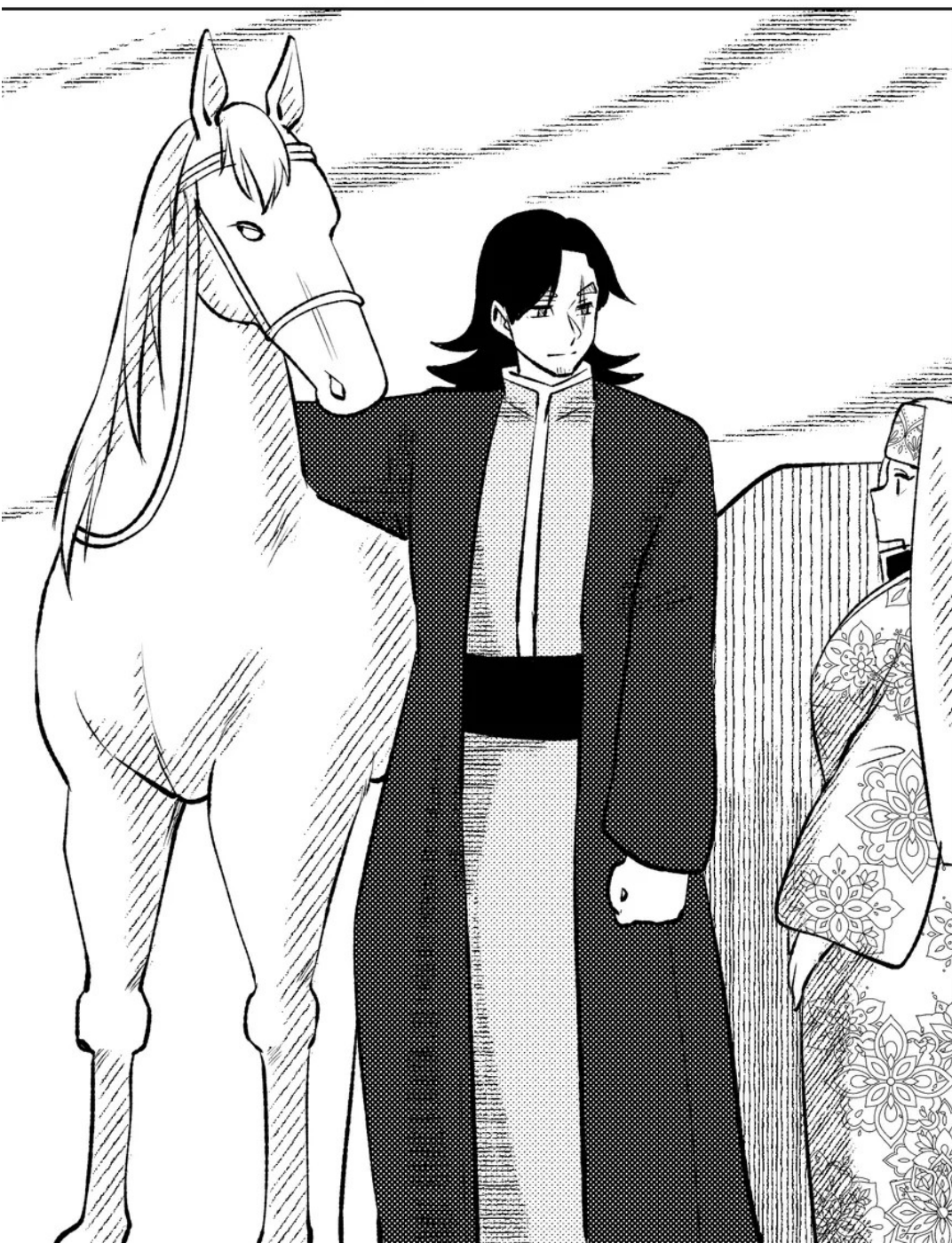
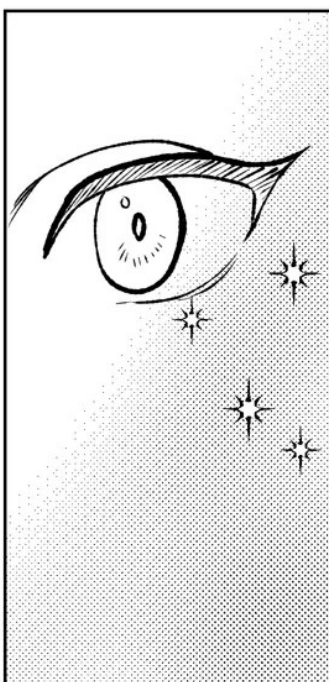
起きろ
ブランカ!

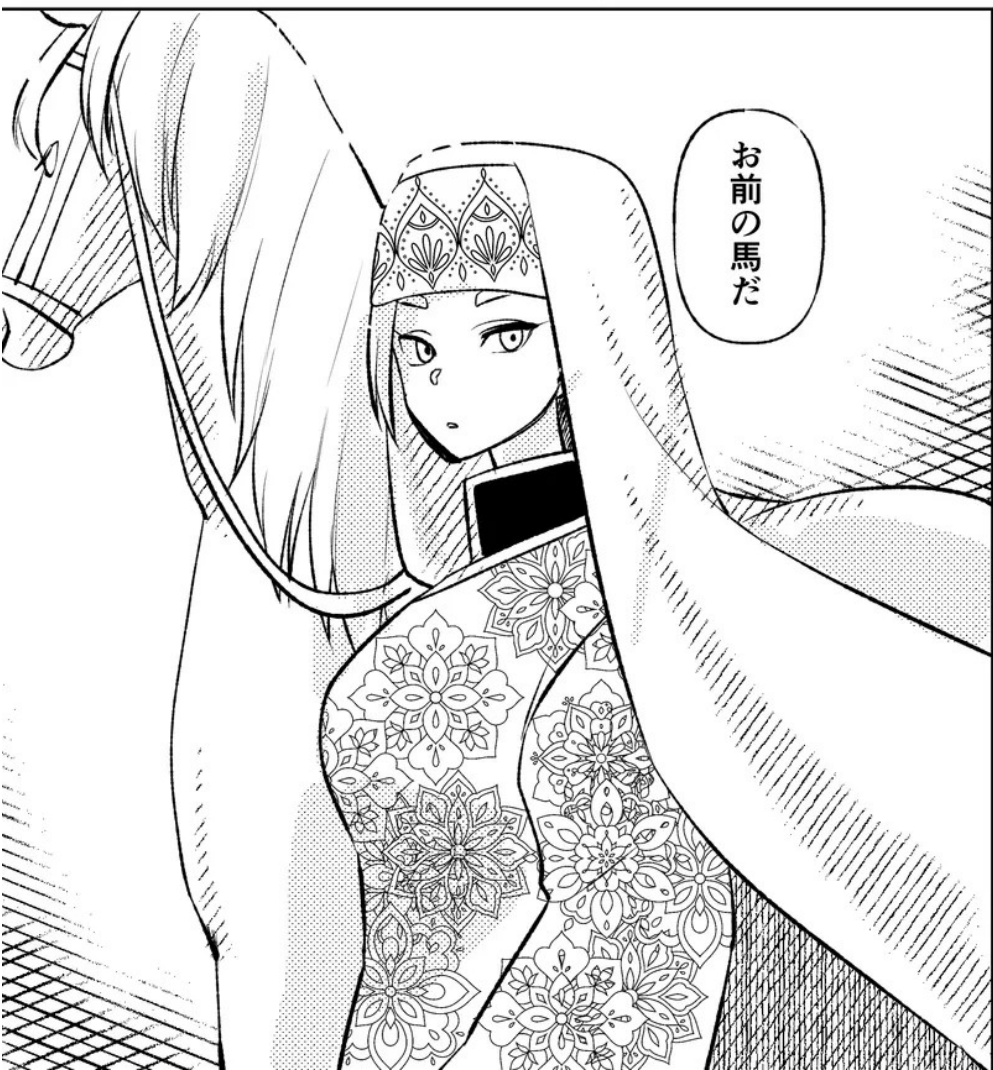
見せたいものが
届いた!

早く
支度して

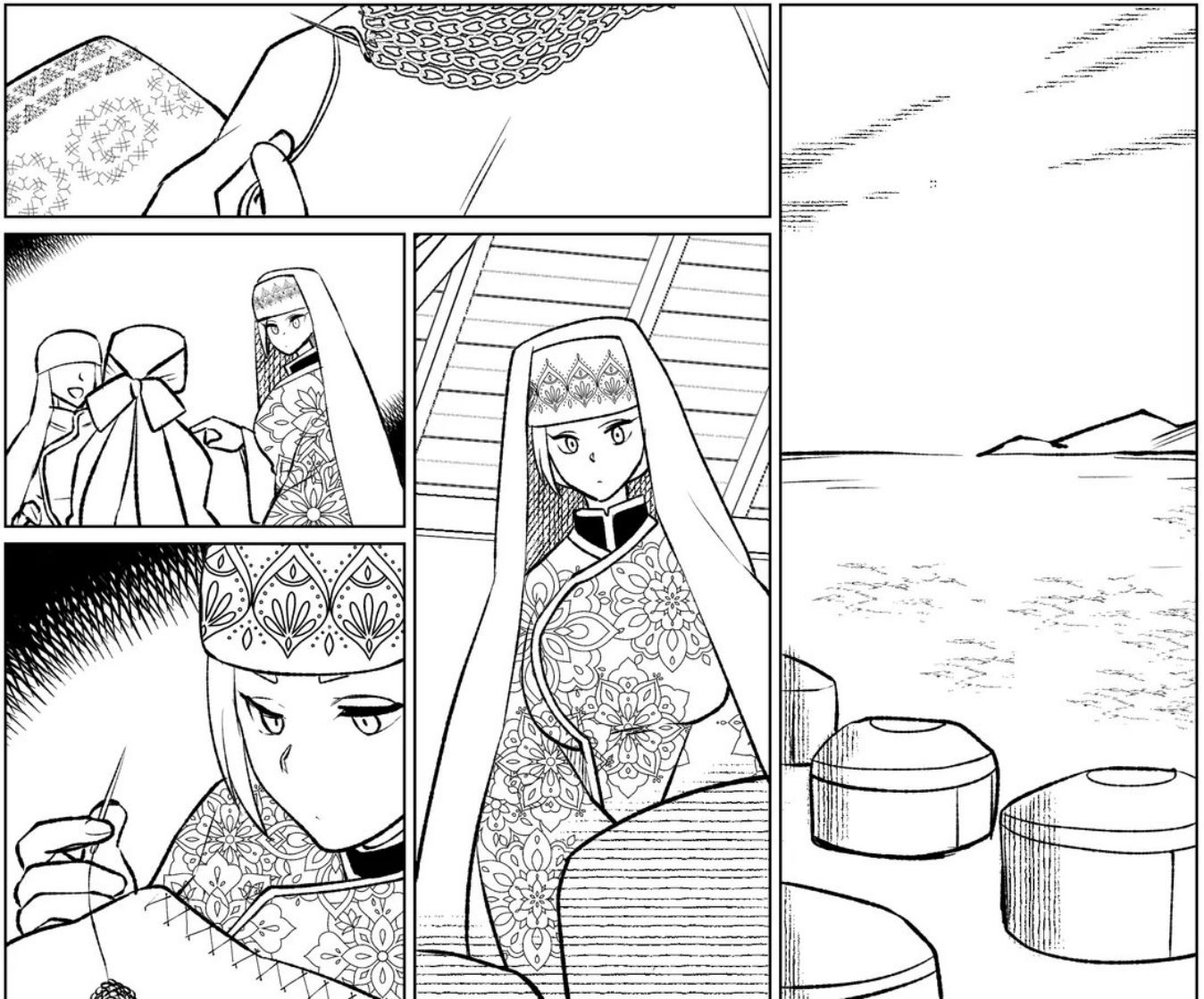
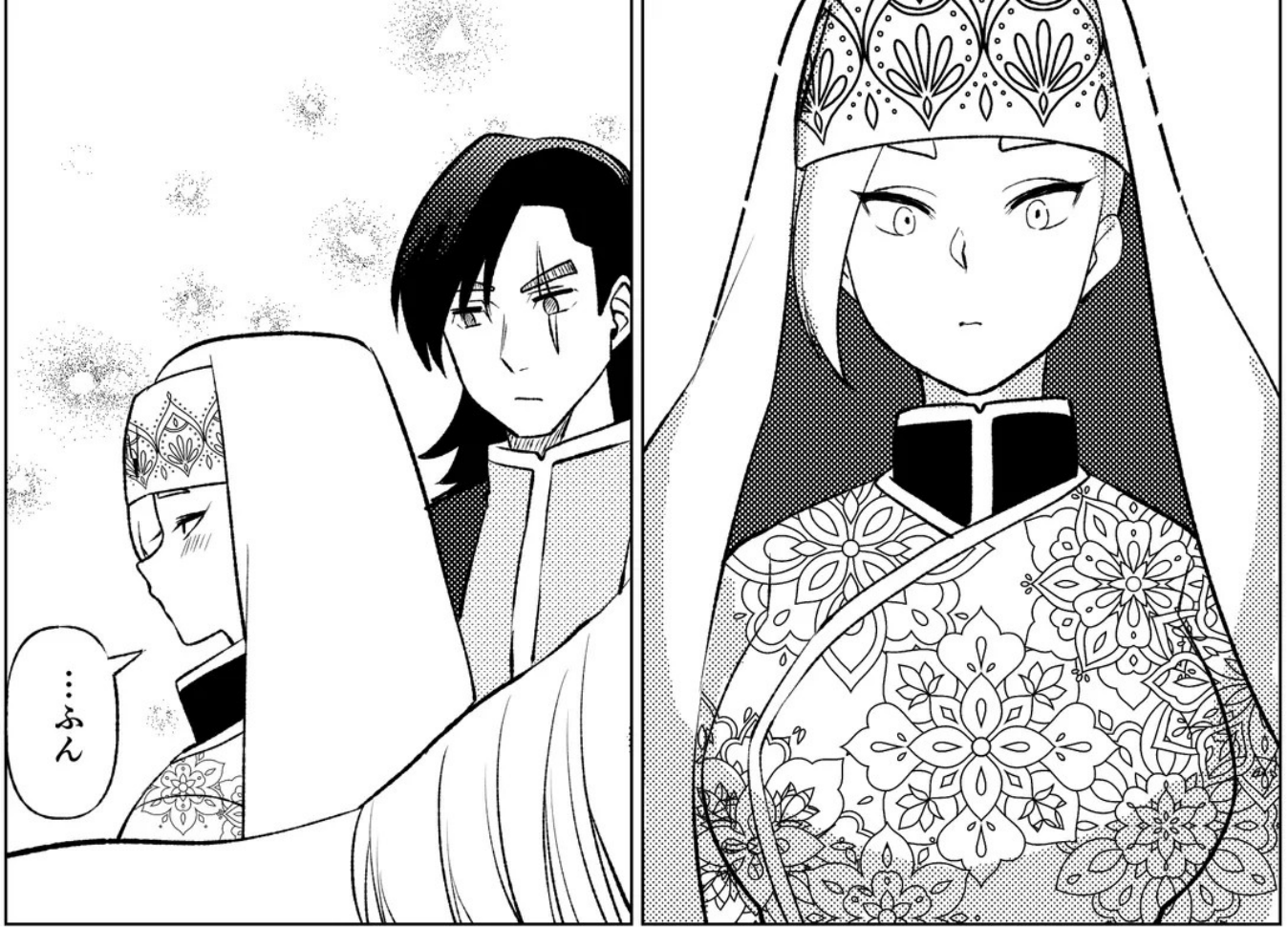
表に
来てくれ

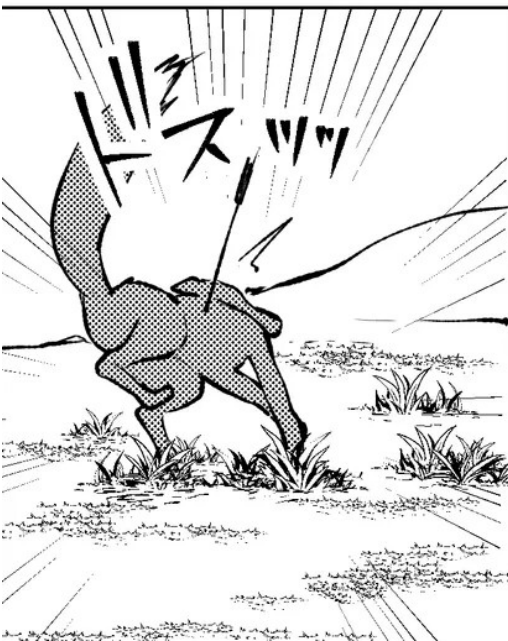
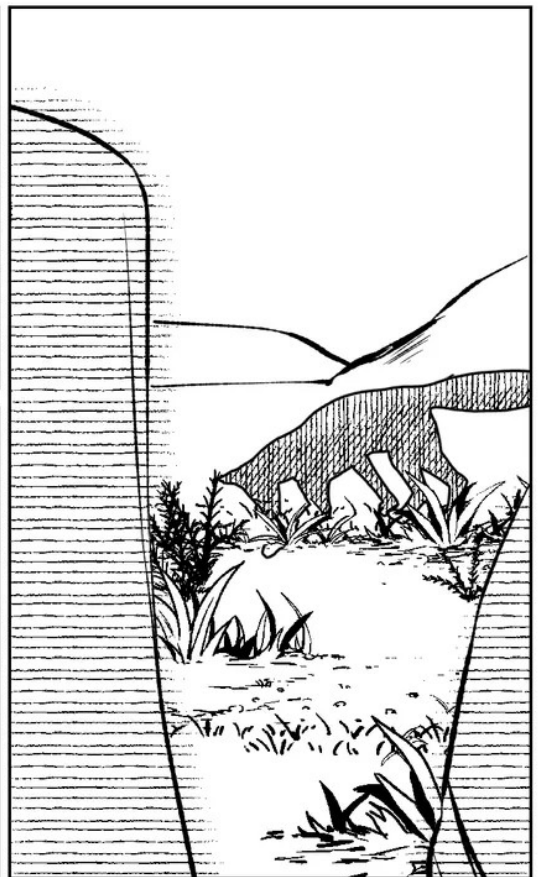
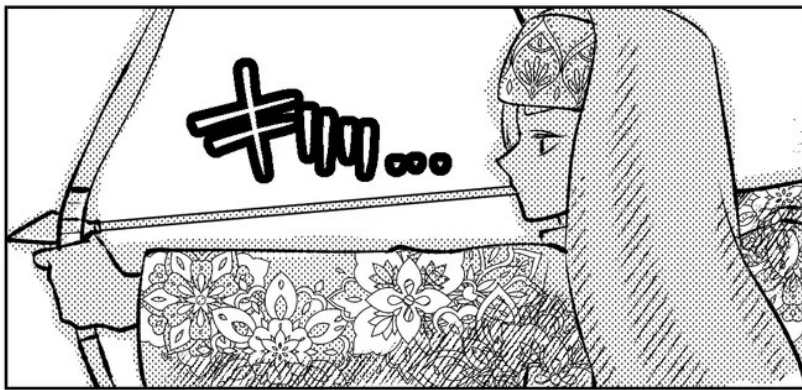
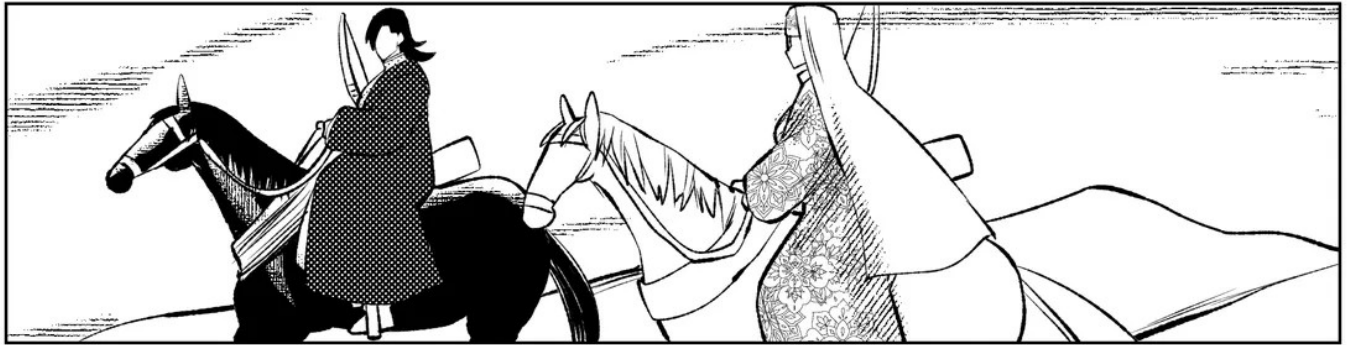
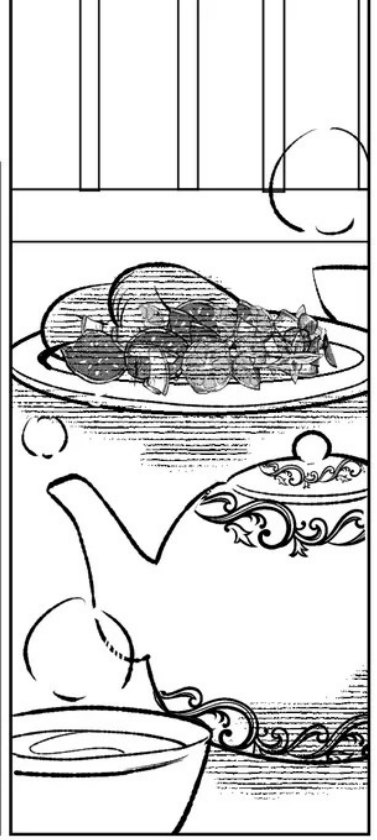
ブランカ!
起きたか!!

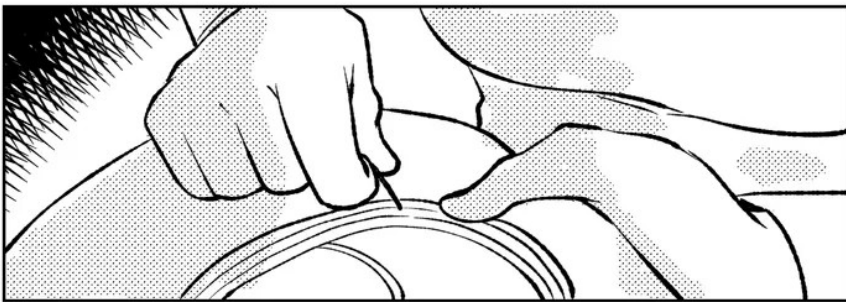
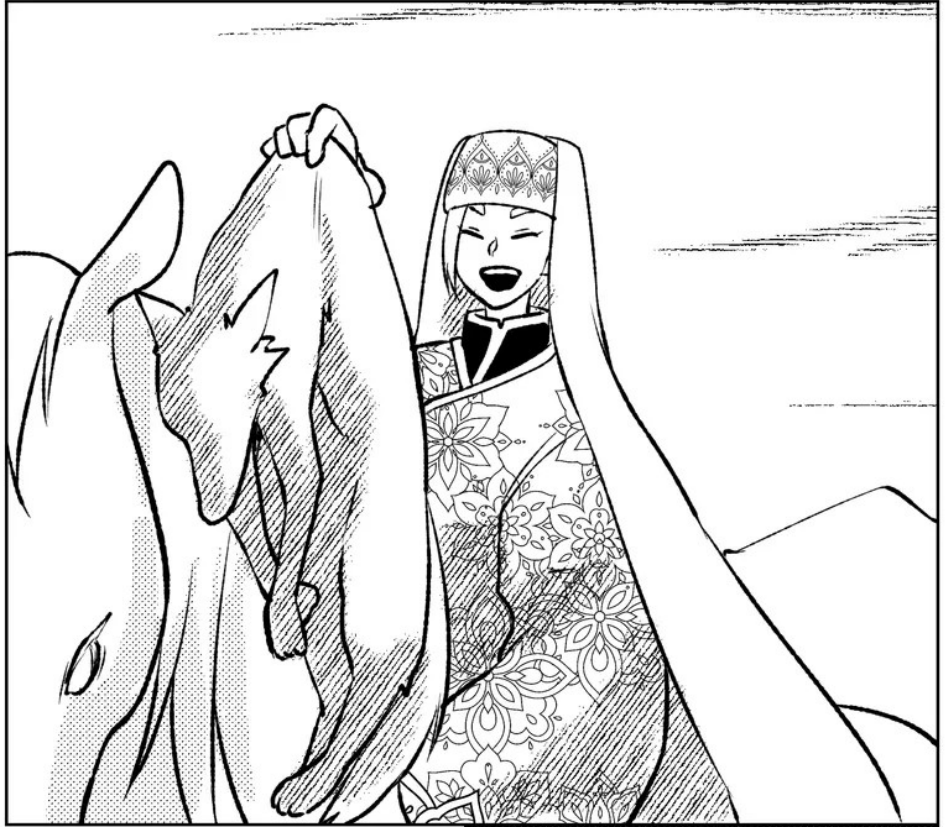




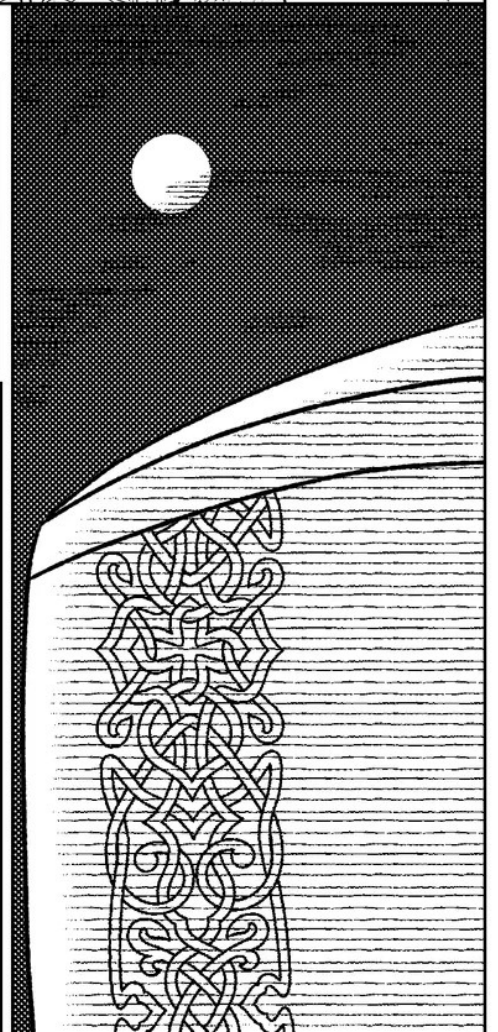


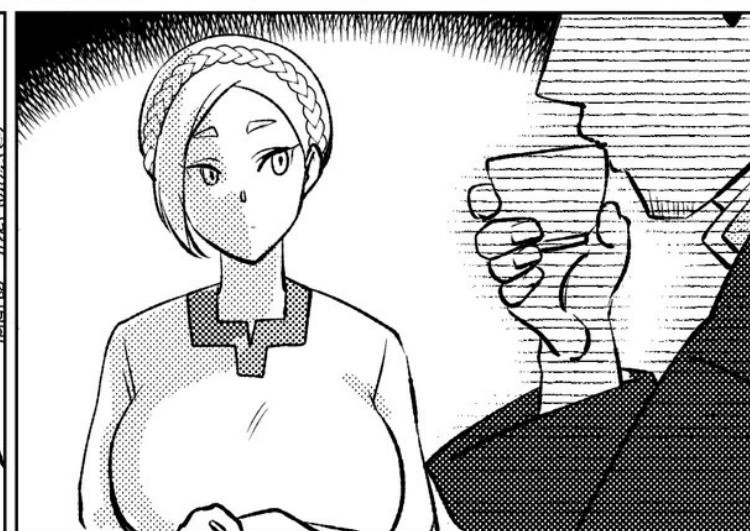






うまく
縫うものだな







私の両親は
敵襲の際に
幼かった
私を庇って死んだ

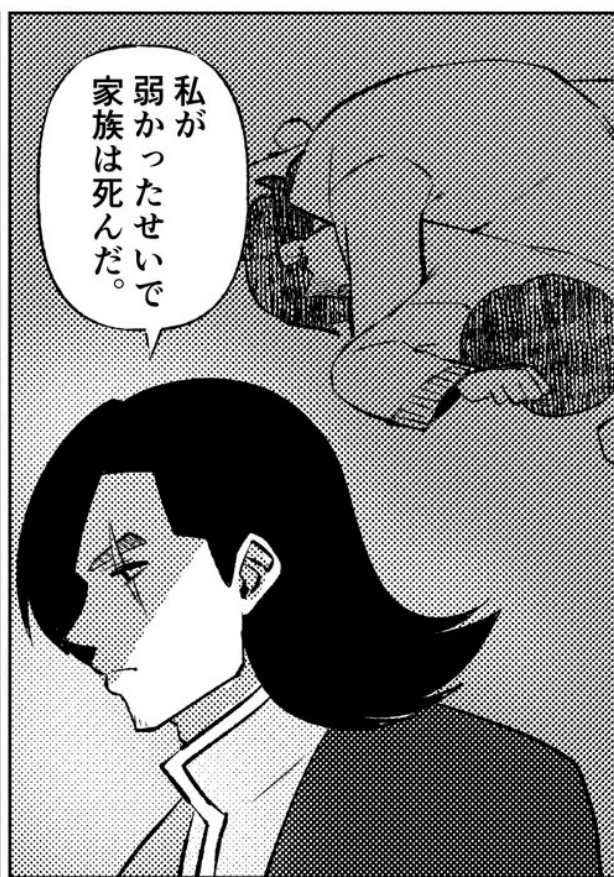


何故…か。
考えたことが
なかった。

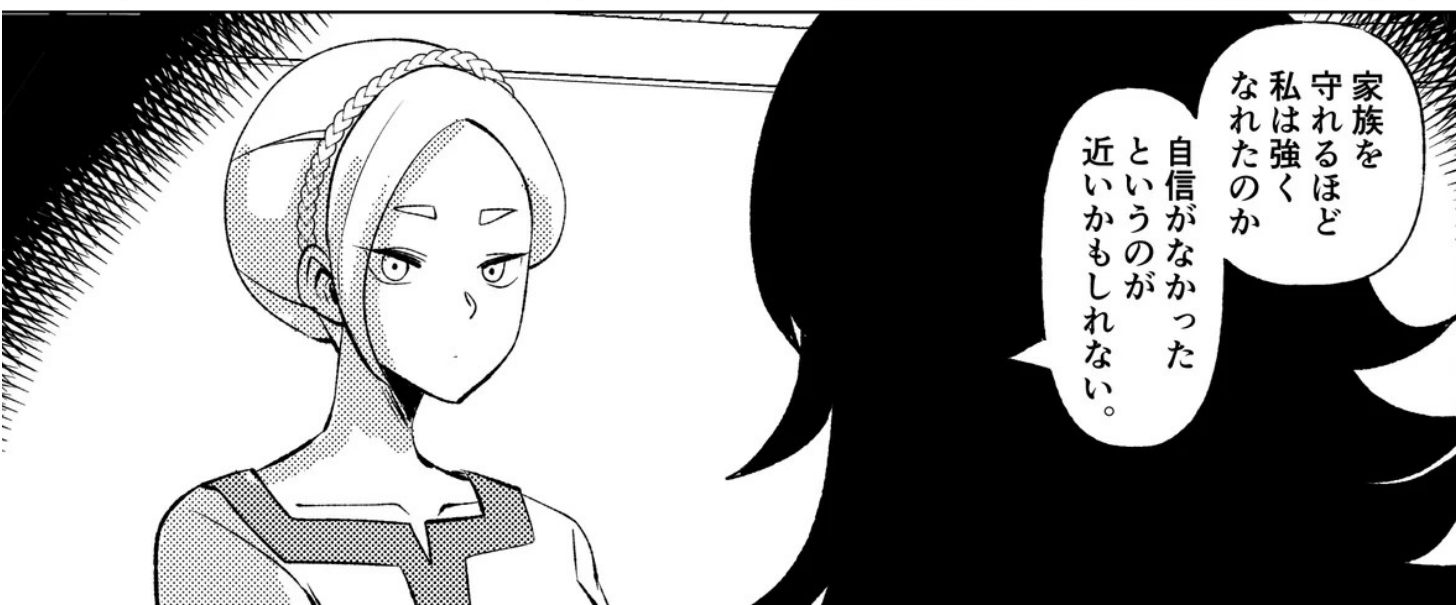


……子供の頃の
話だろう

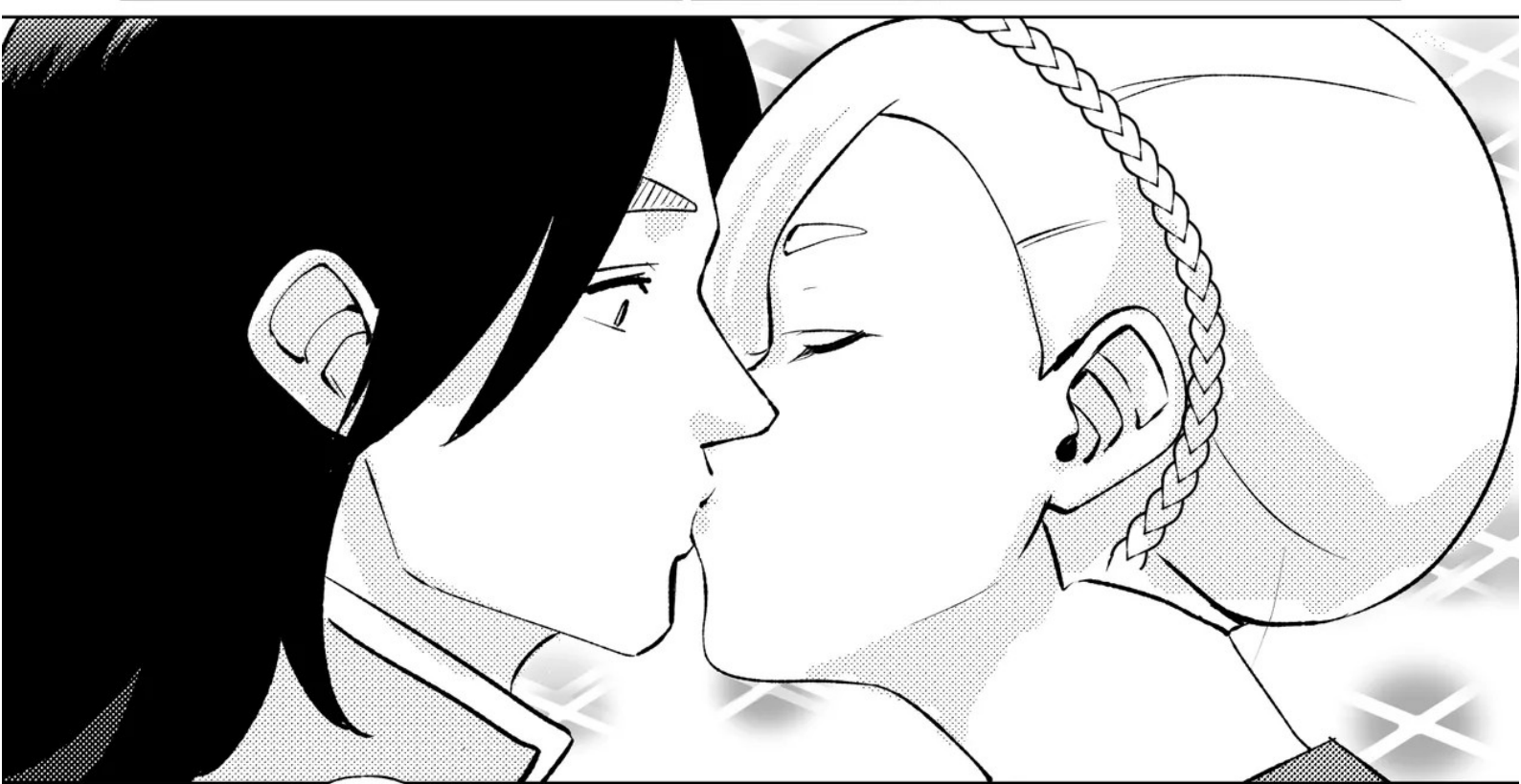
……だとしても
事実だ

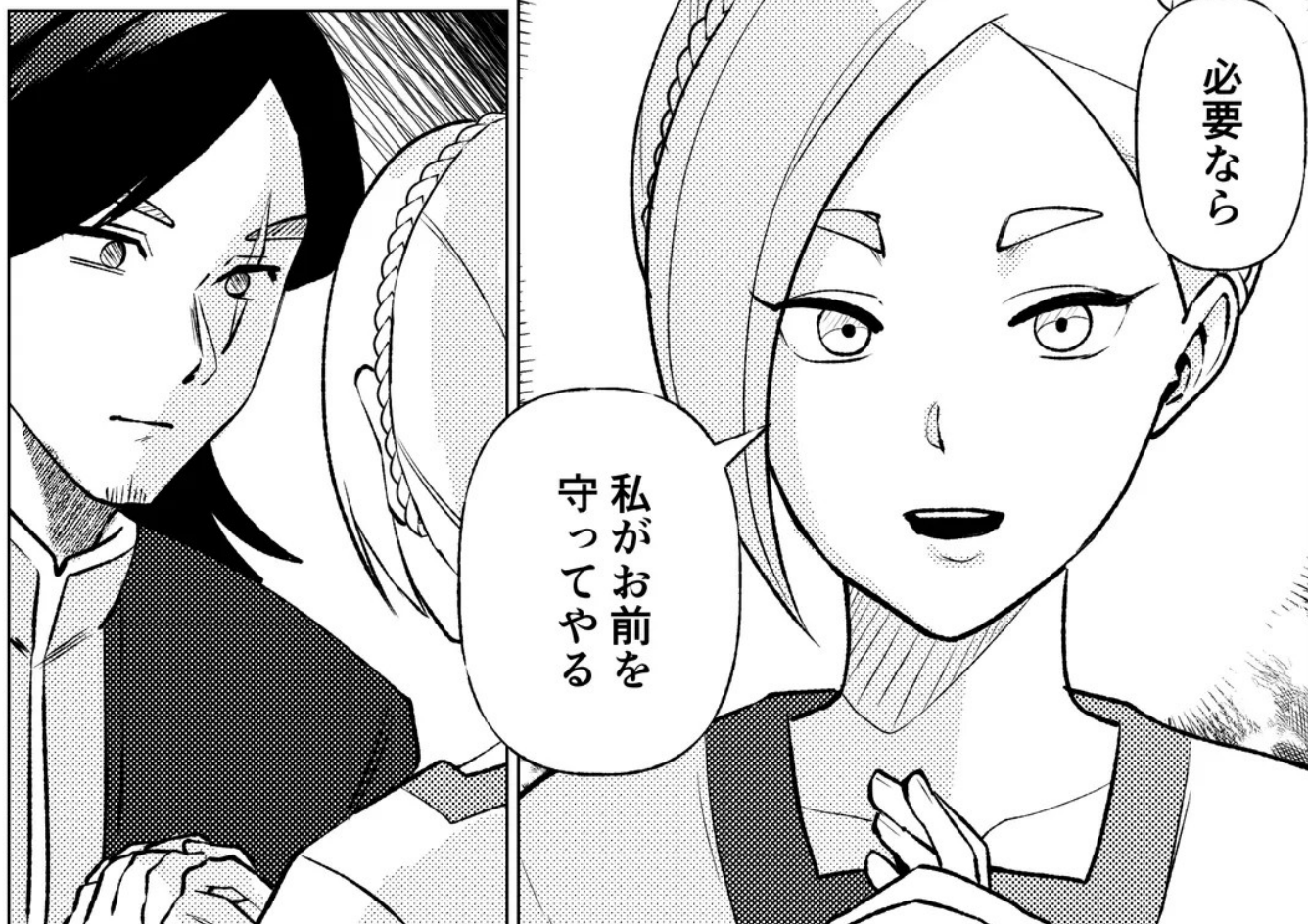


私が
弱かったせいで
家族は死んだ。

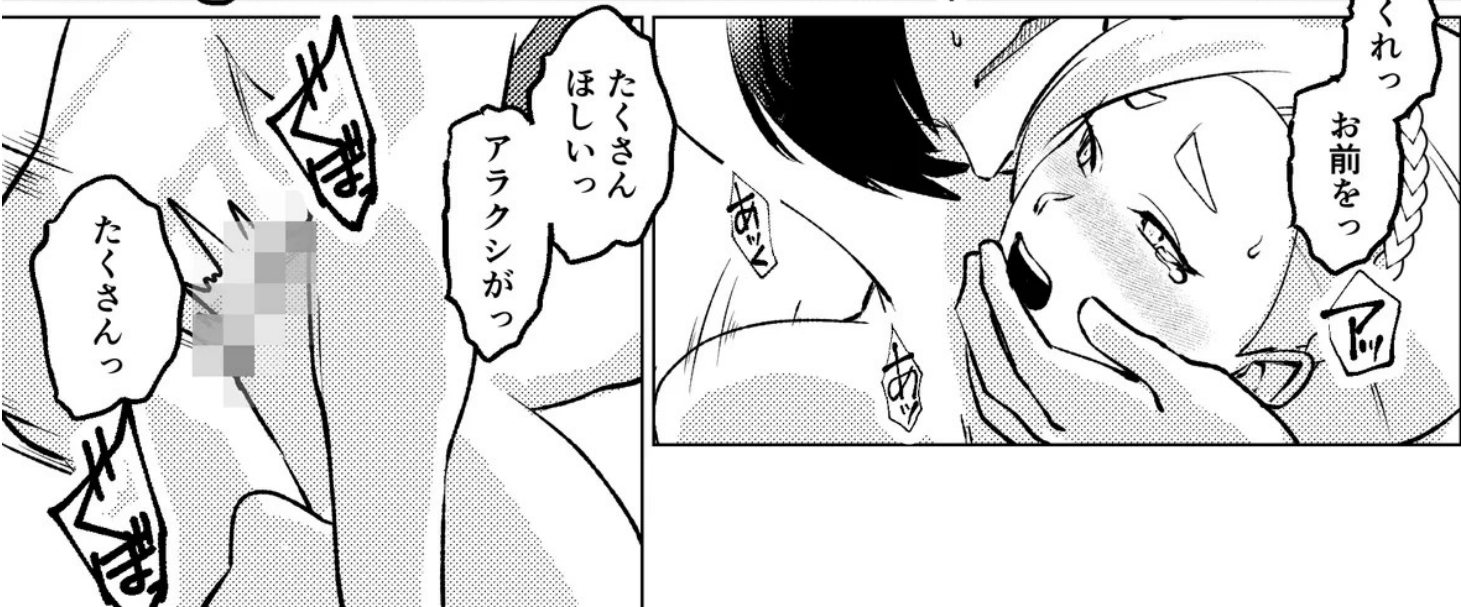


家族を
守れるほど
私は強く
なれたのか
自信がなかった
というのが
近いかもしれない。

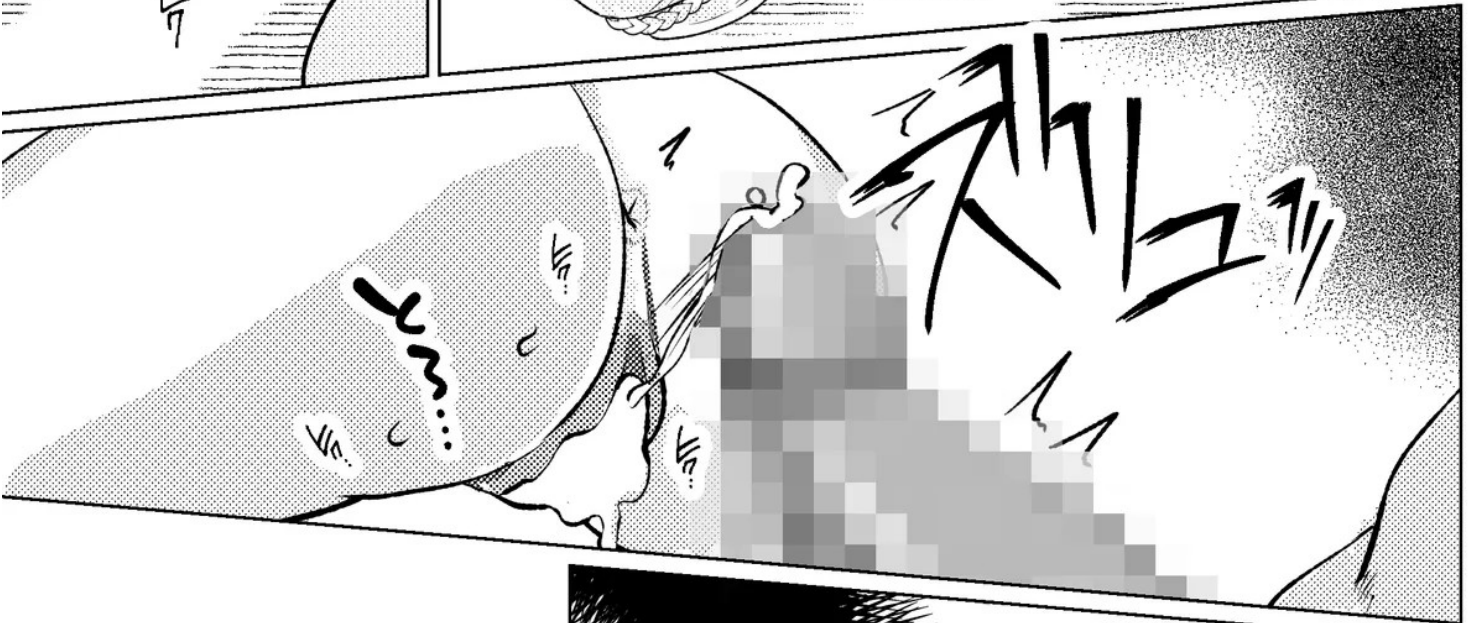
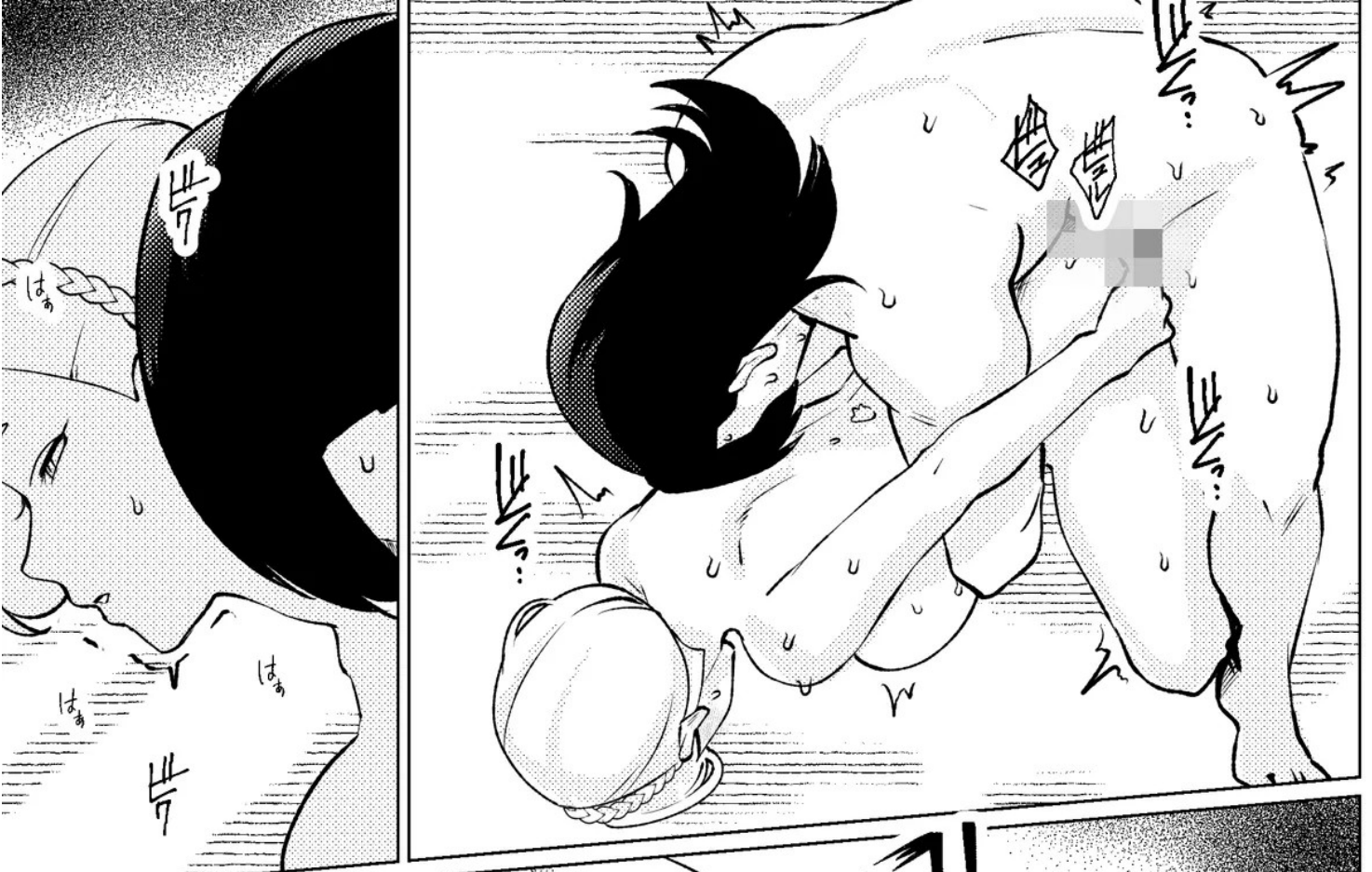


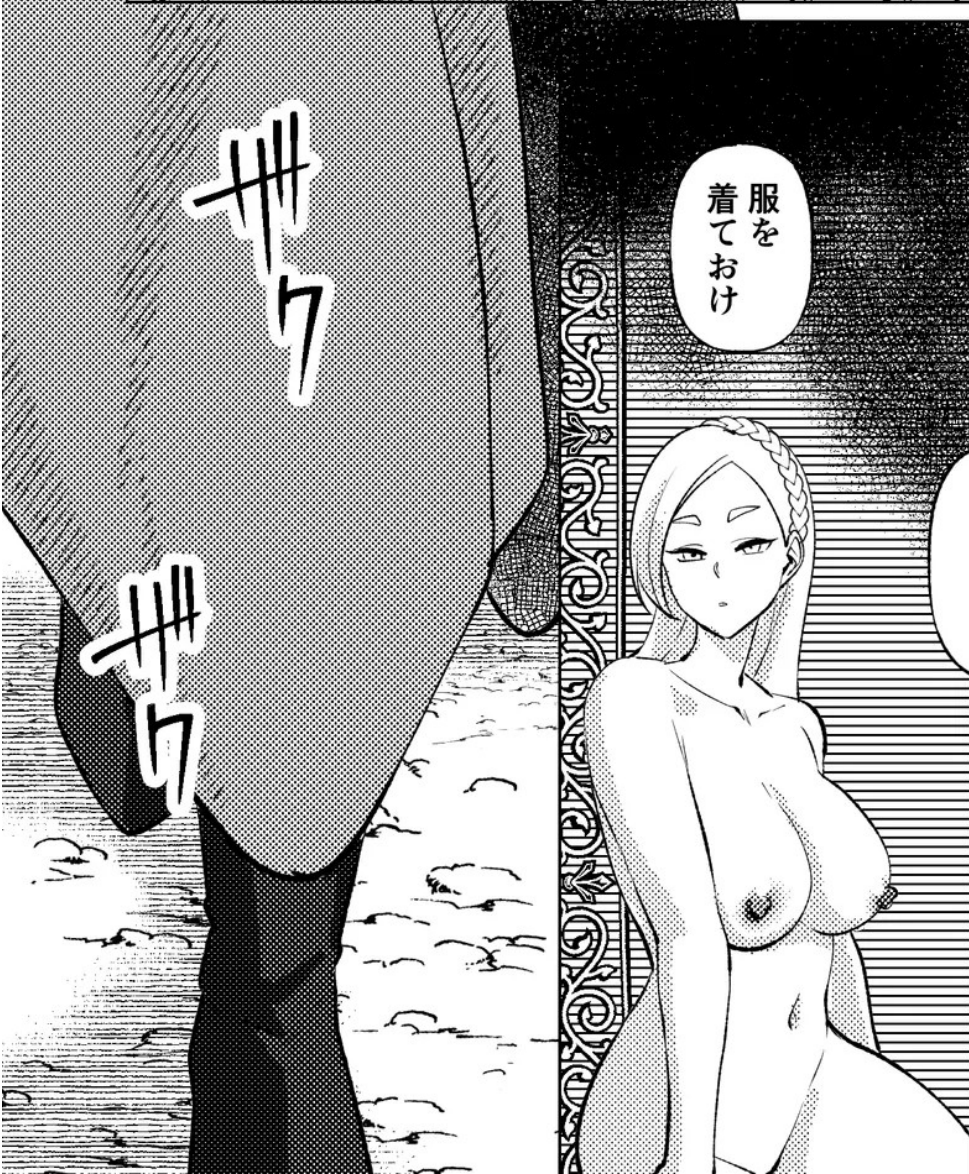
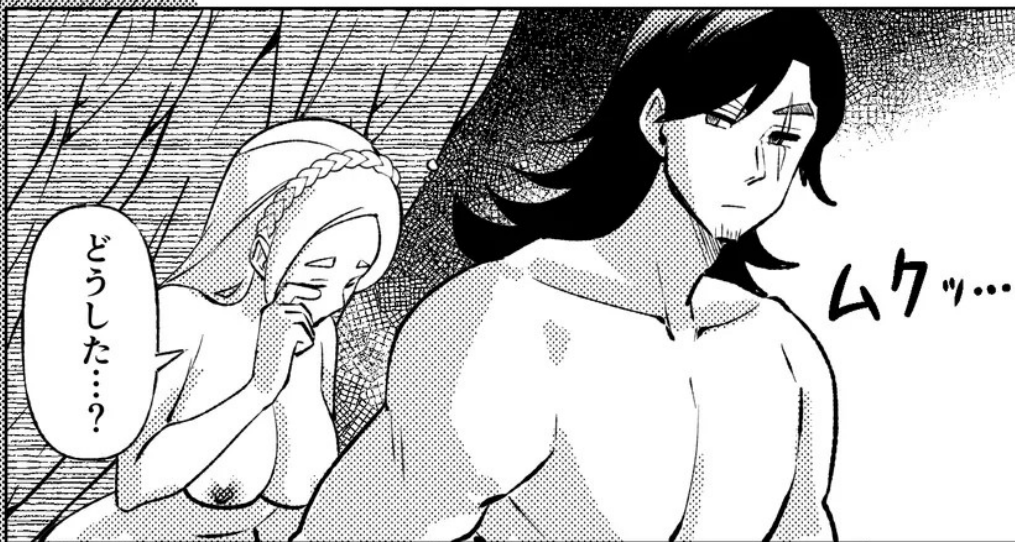
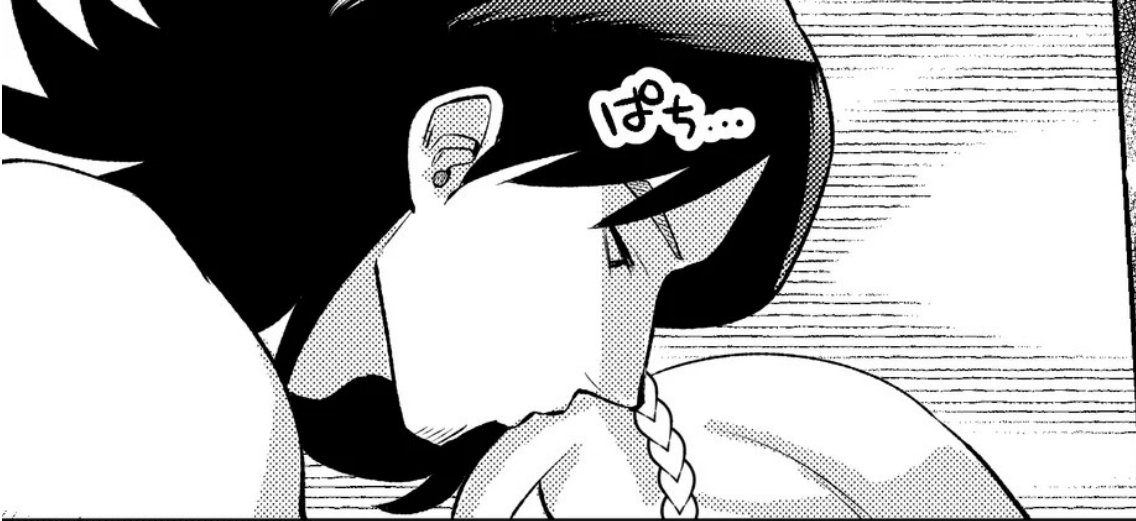


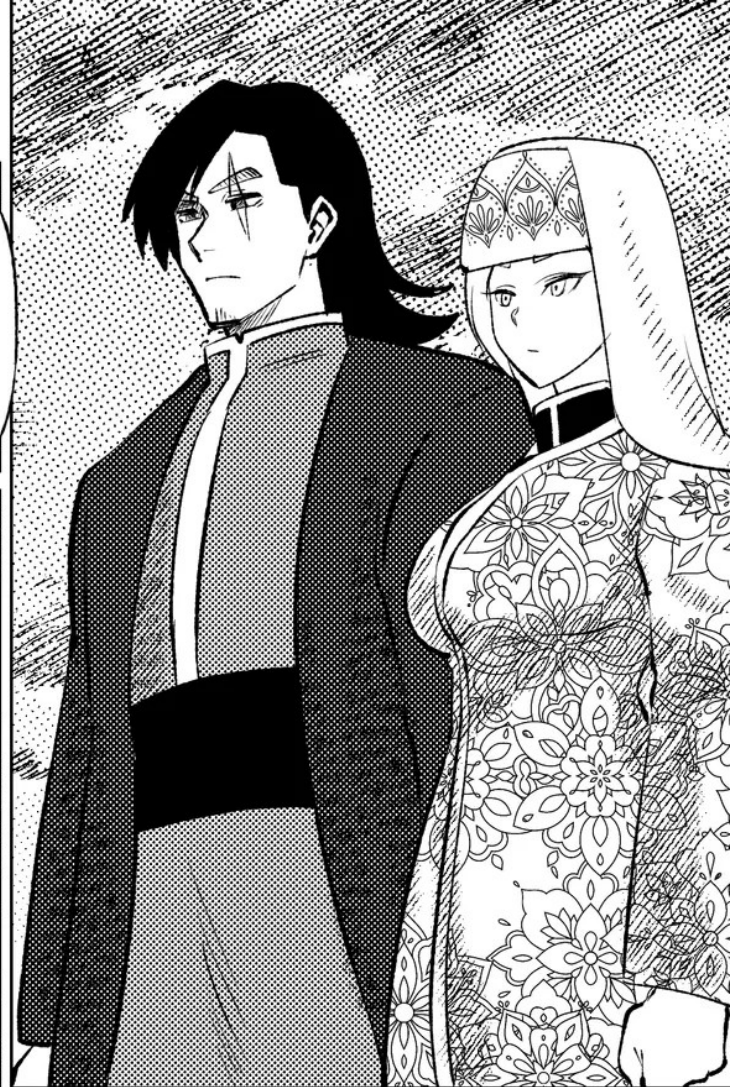
















…いいのか。
殺してしまつて

うちの
王家の男に
伝わる術に

関係を結んだ女の
いる位置を
常に特定する
外法がある。



これは対象が
生きている
限り続いてしまう。

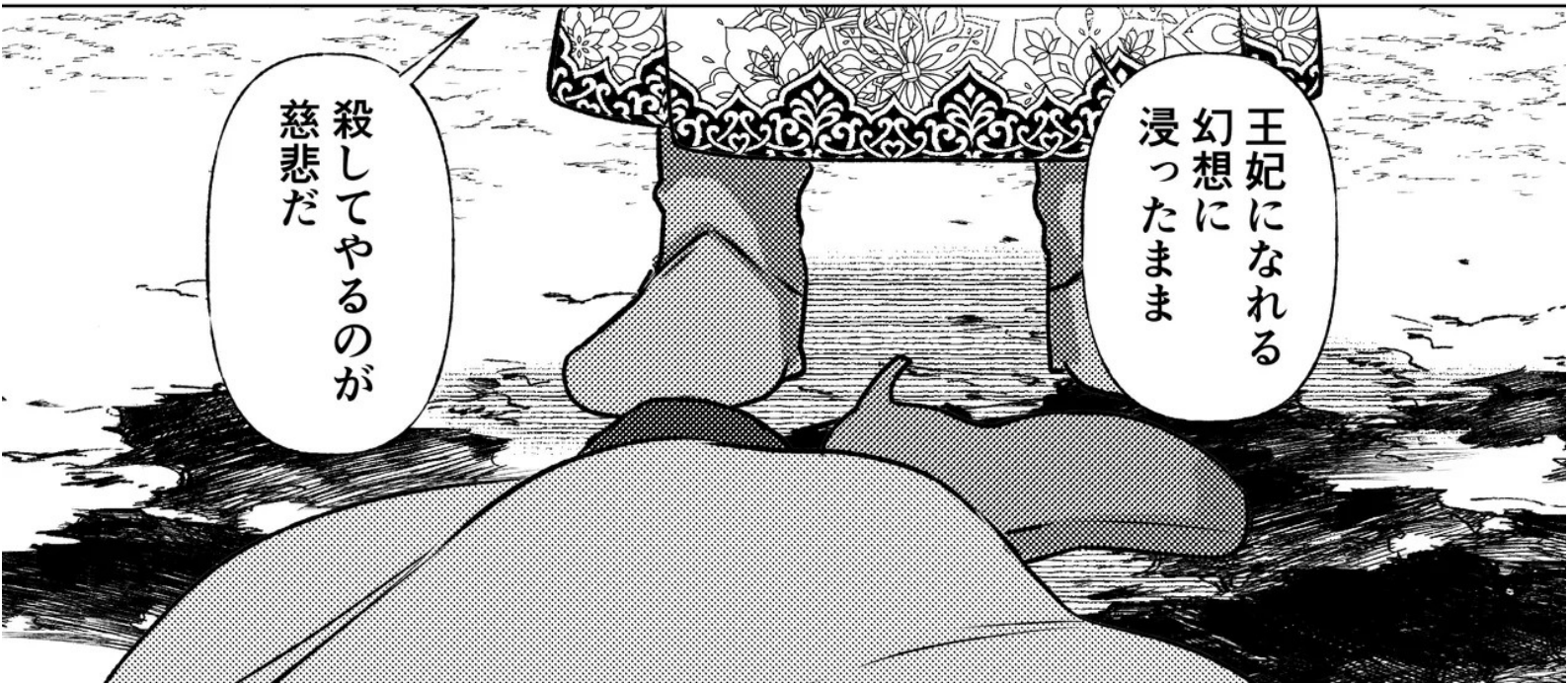
殺すしか
手はない。



大方
兄の甘言を
鵜呑みに
したのでらうが、

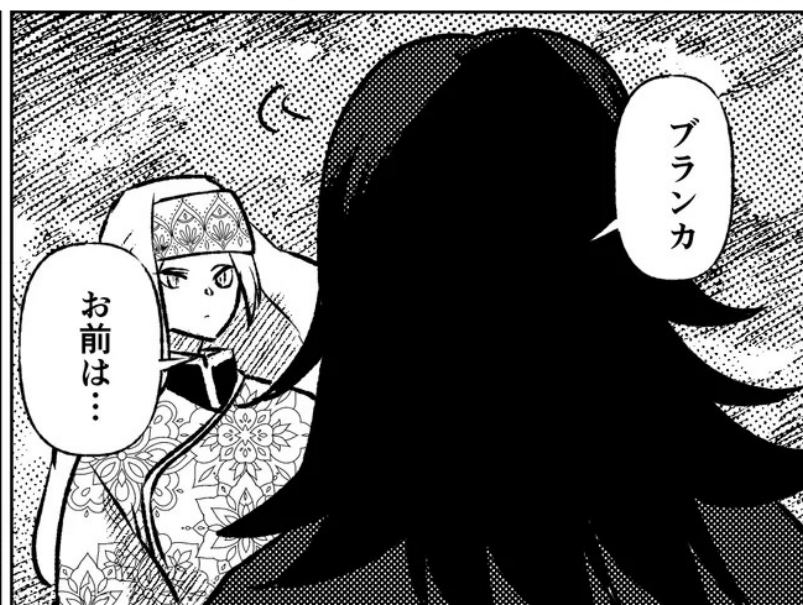
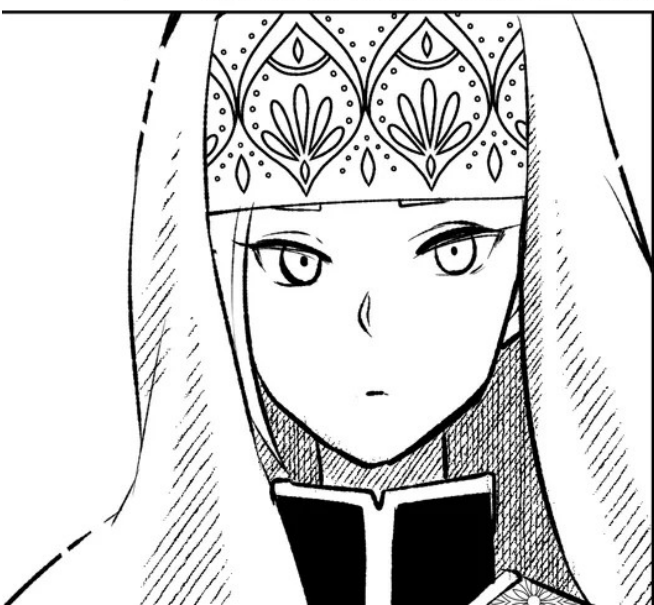
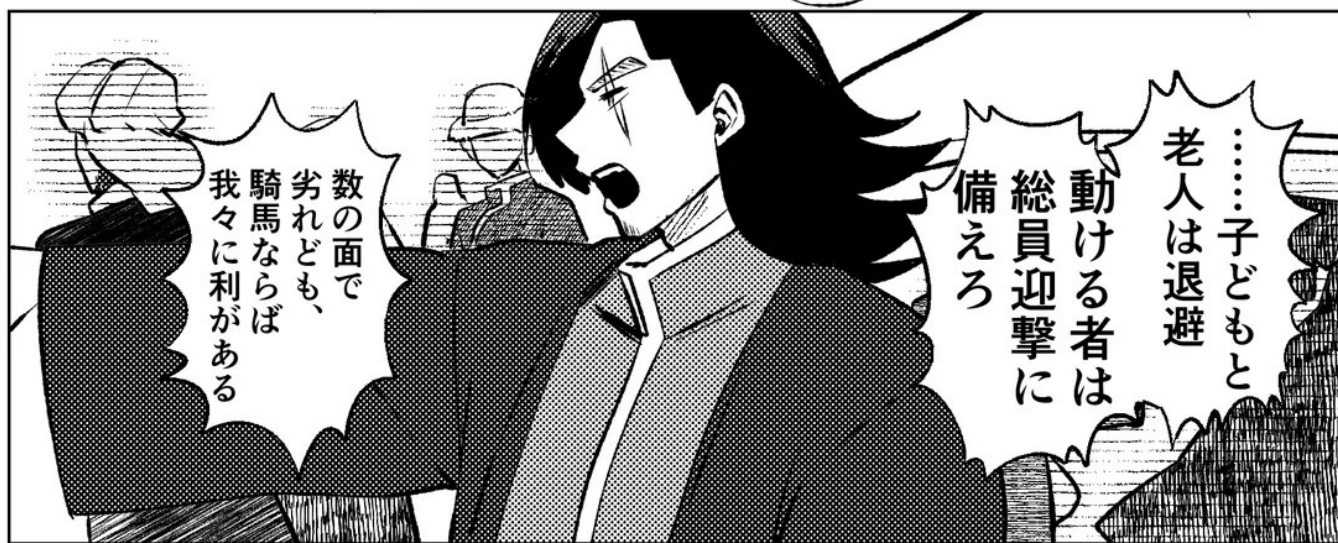
私につけられる
侍女風情が
王妃になど
なれるわけが
ないだらう

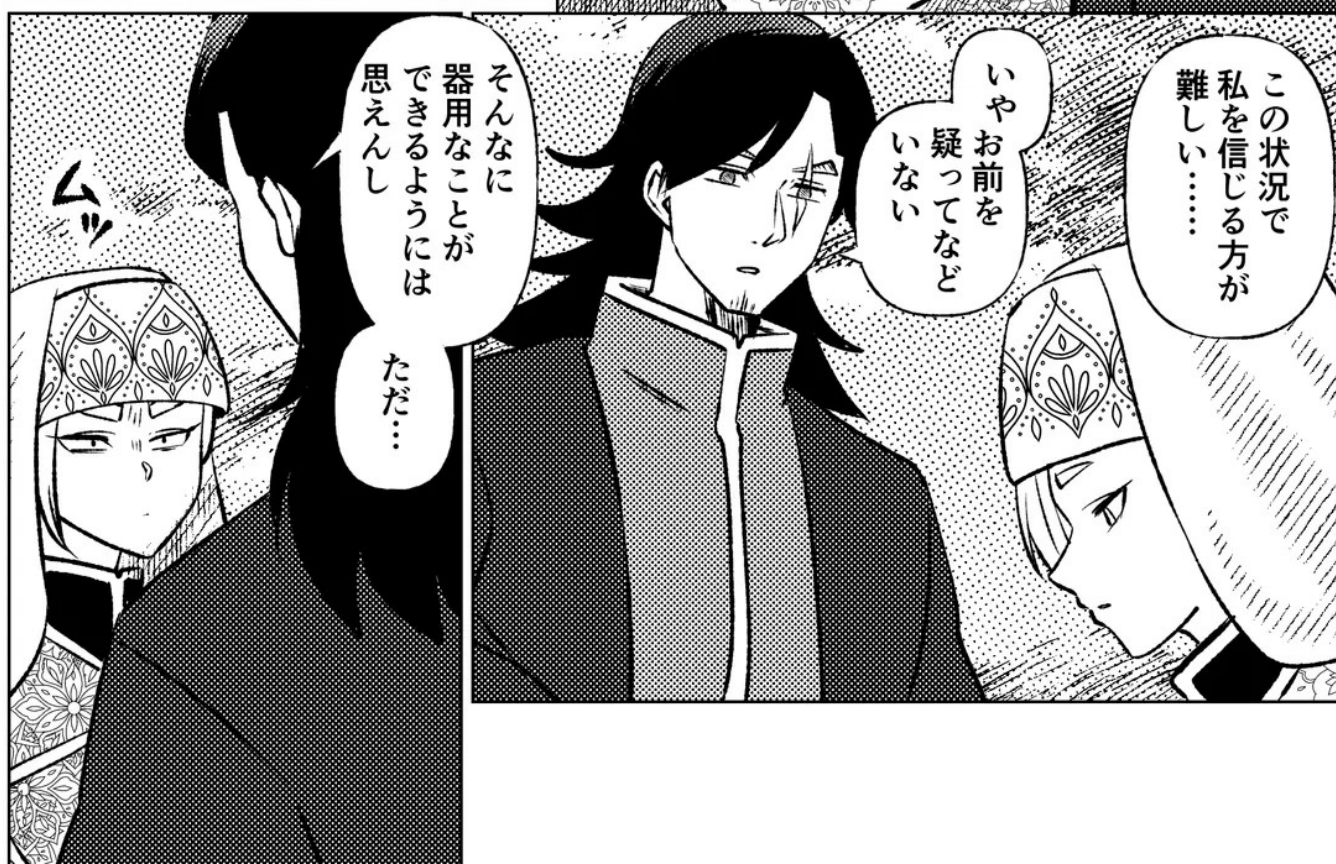
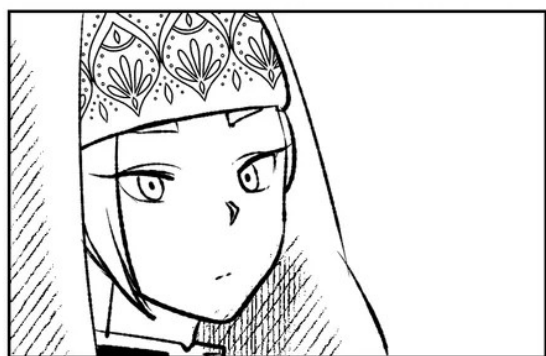
人質としての
価値もない

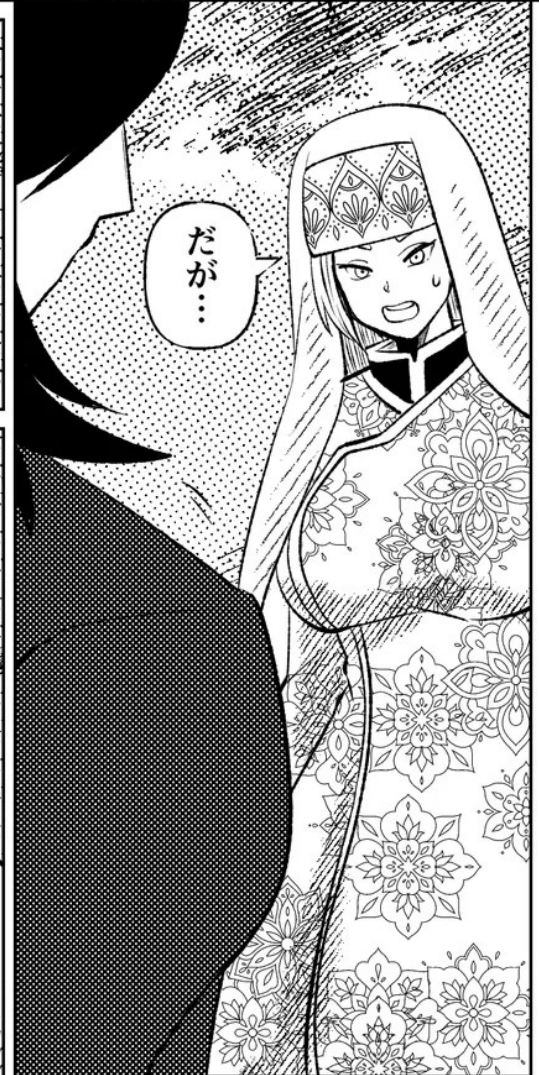
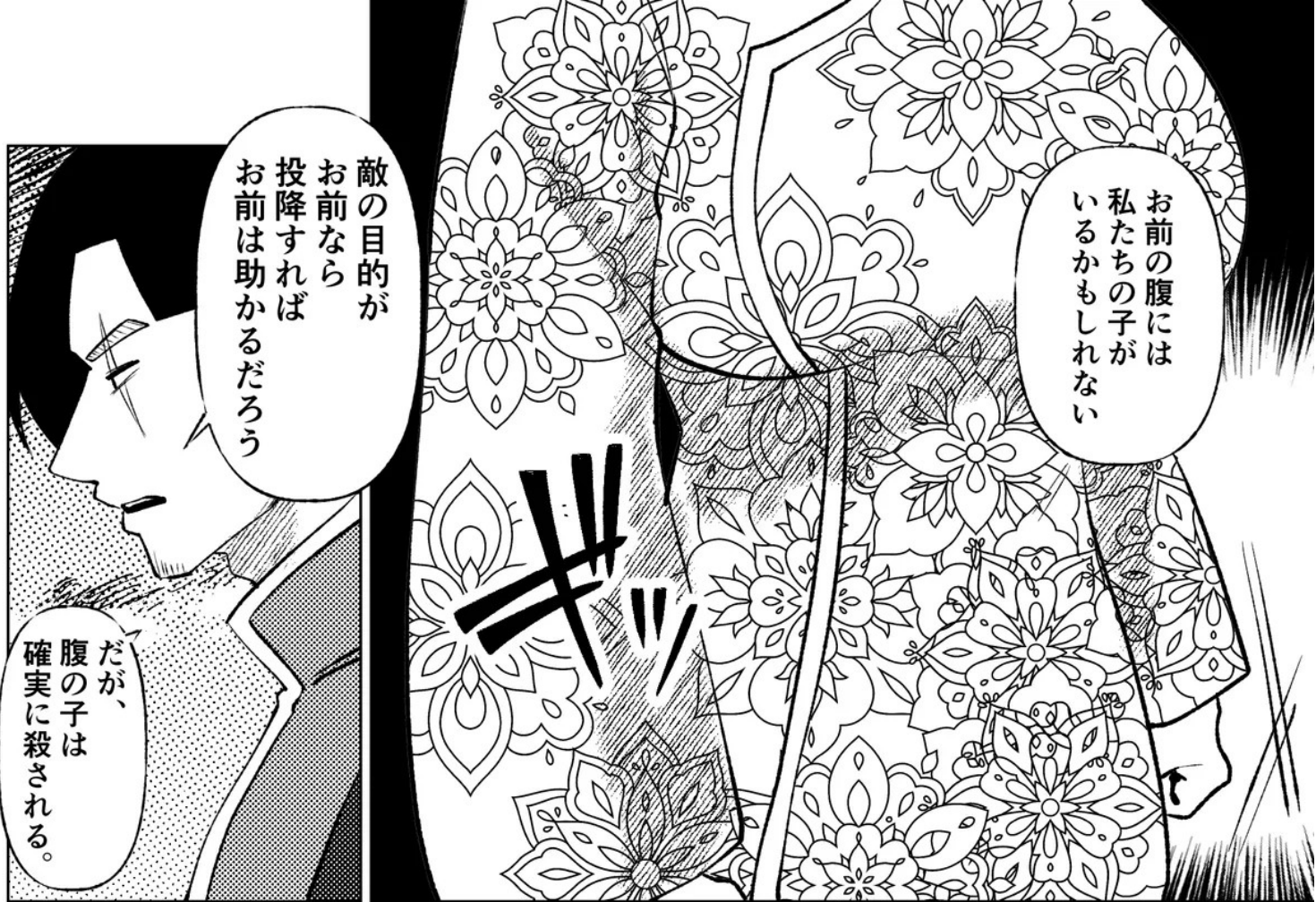


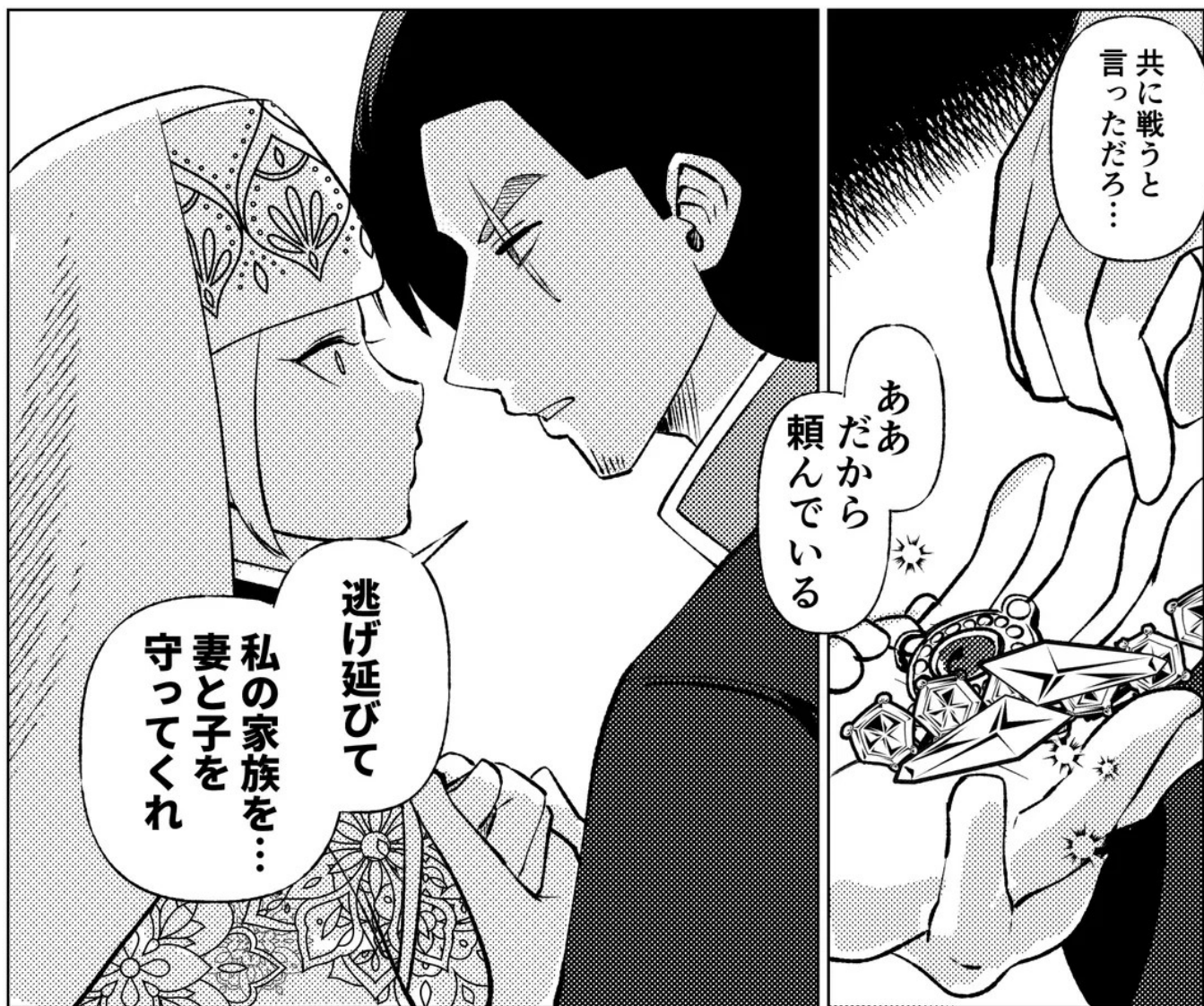
王妃になれる
幻想に
浸つたまま

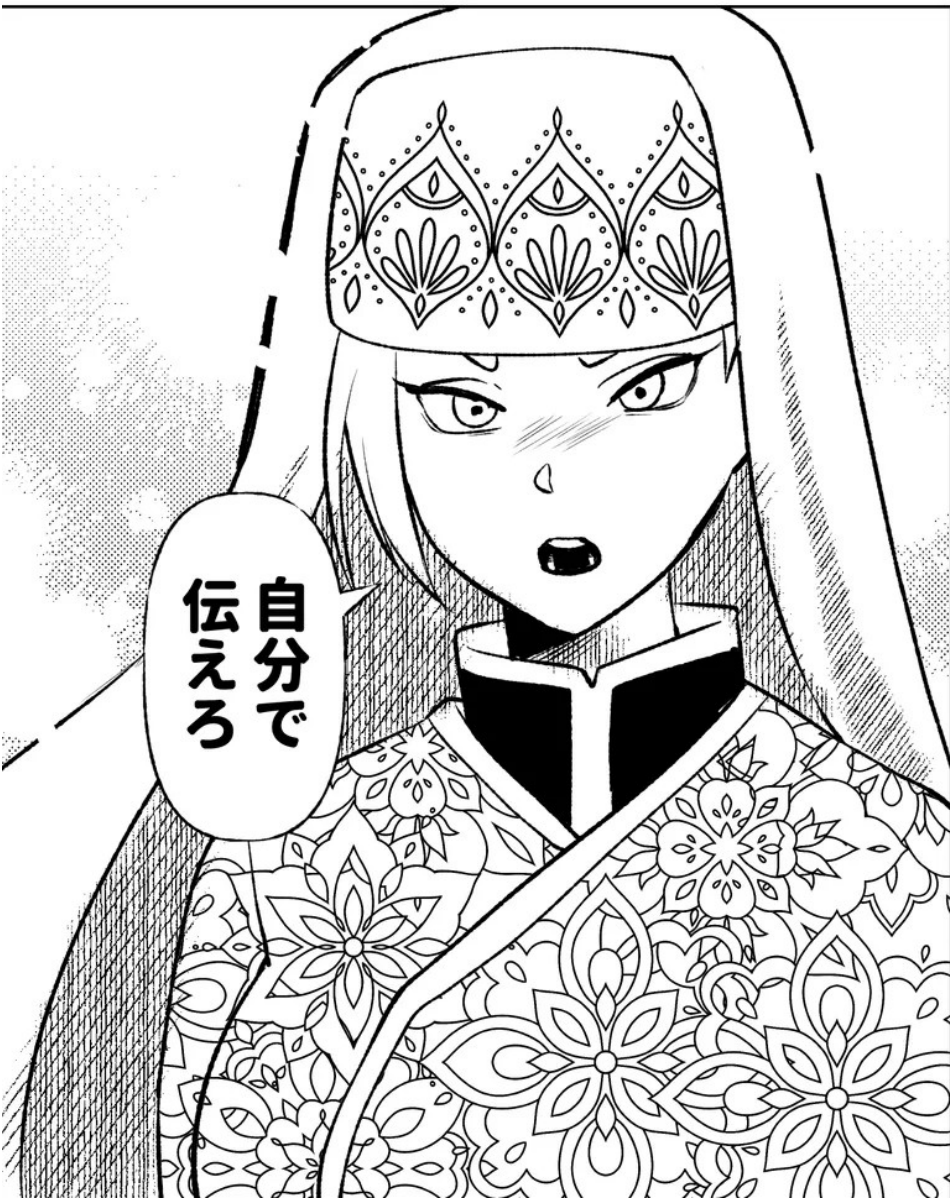
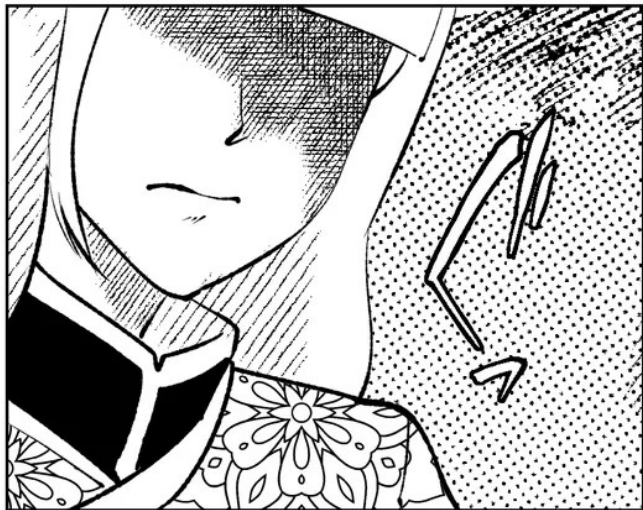
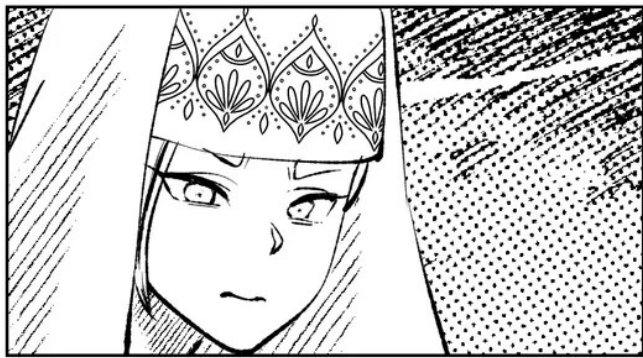
殺してやるのが
慈悲だ

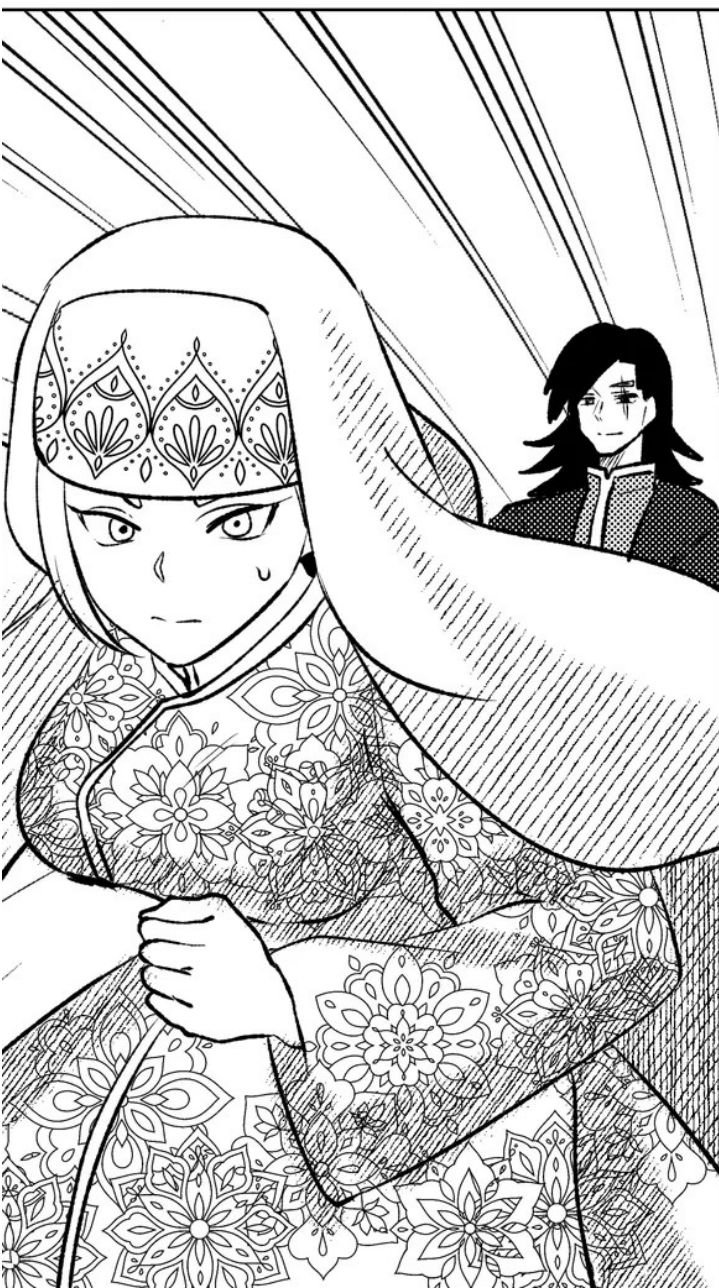


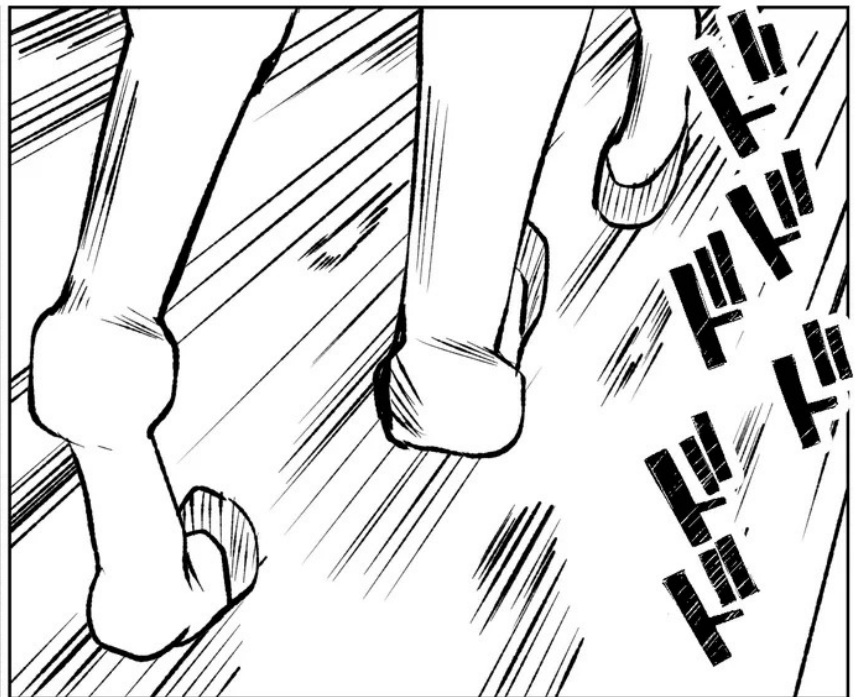
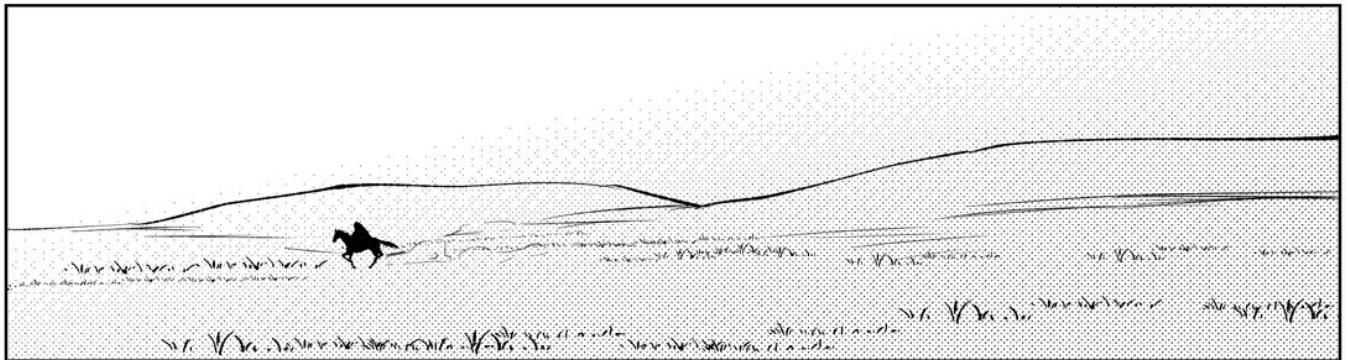
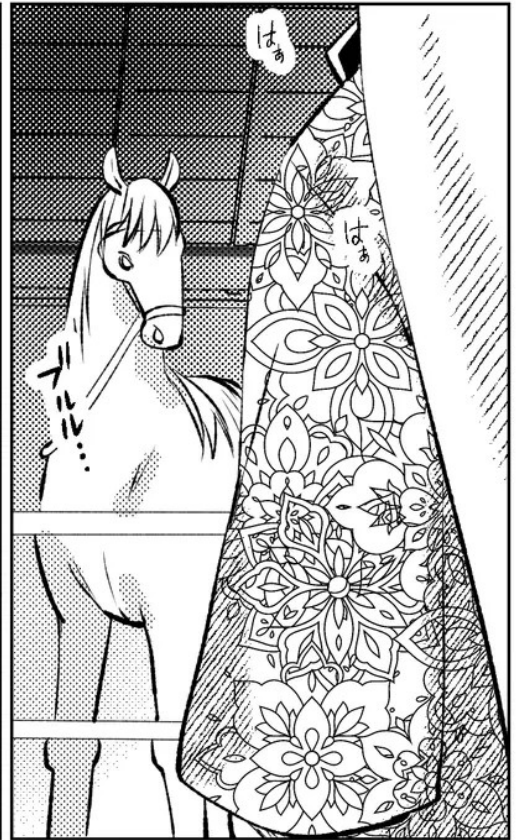
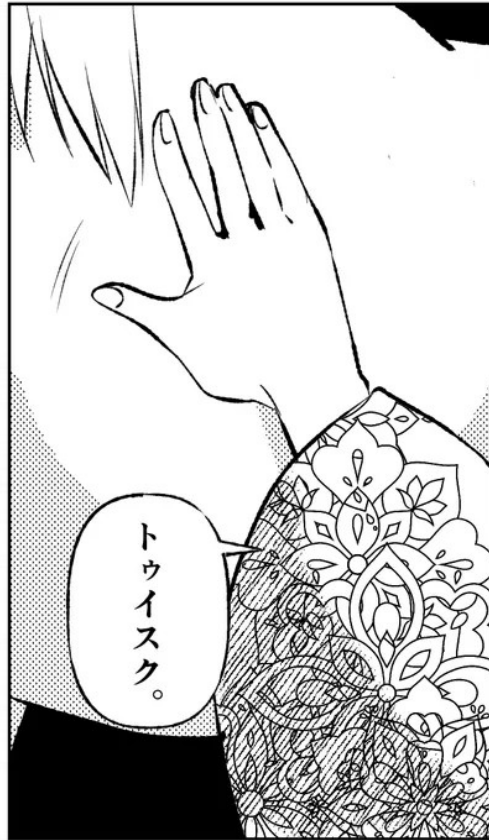


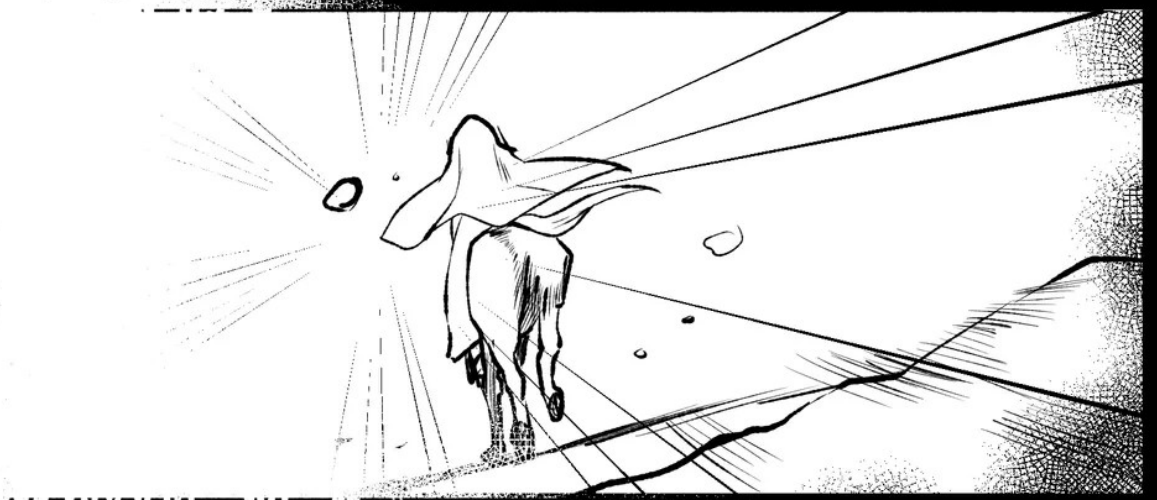


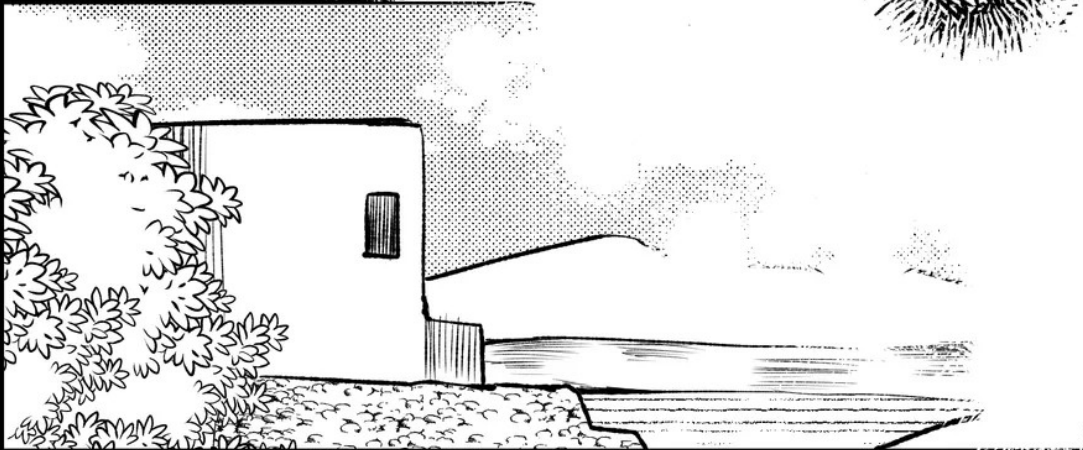












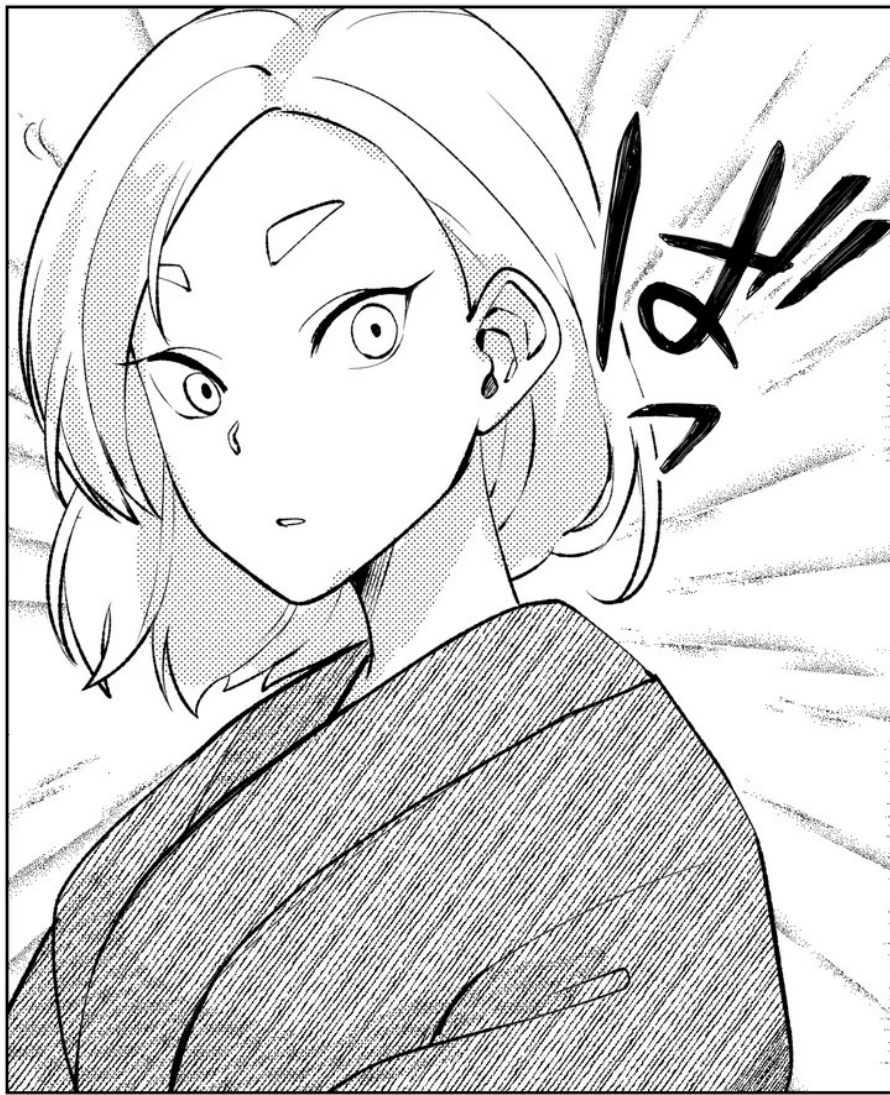
長い
白金の髪の
北方女？

さあ：
この辺にも
何人かいるけど
そういうのは
知らないね

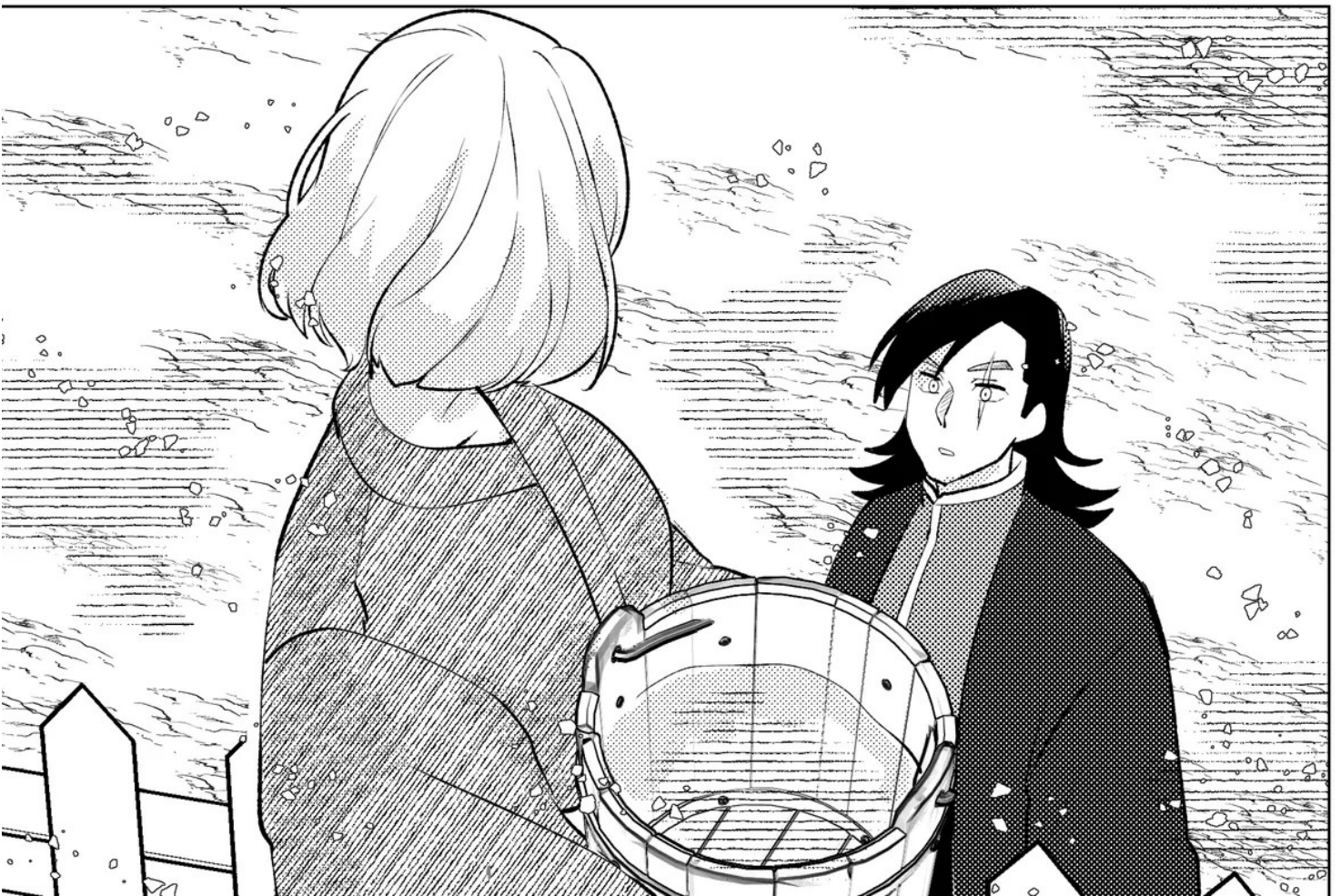
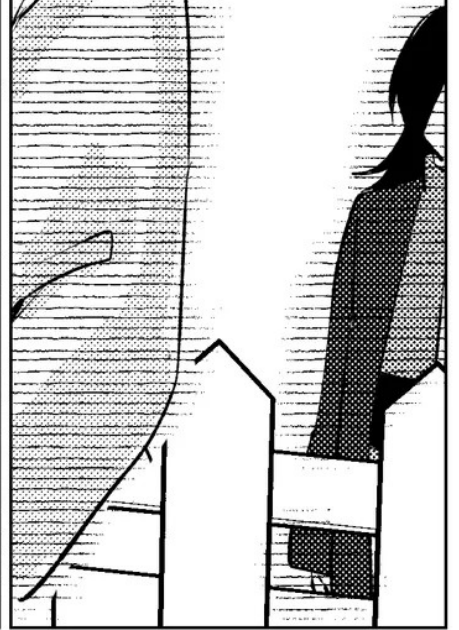
ちょうど
その先の家に
住んでるのも
北方人の女だよ。

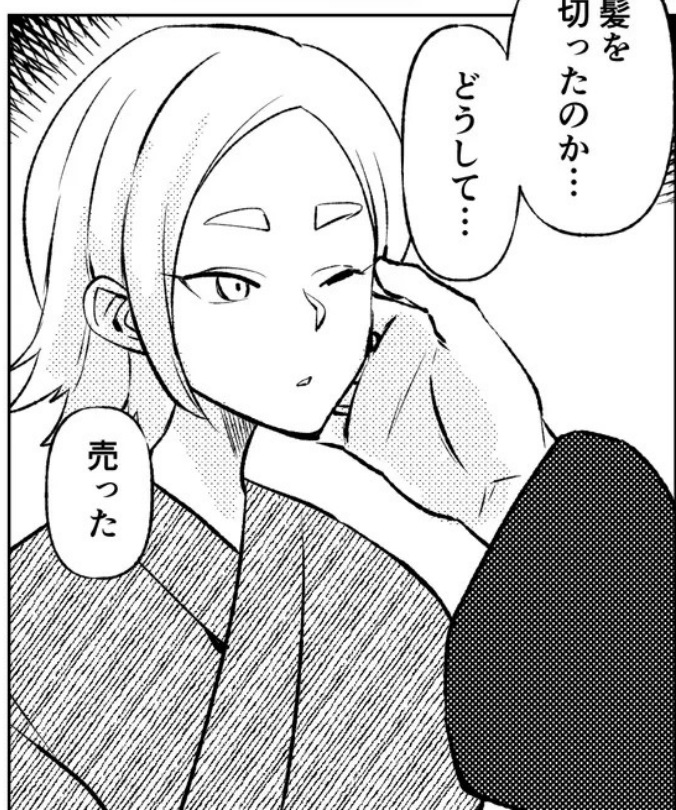
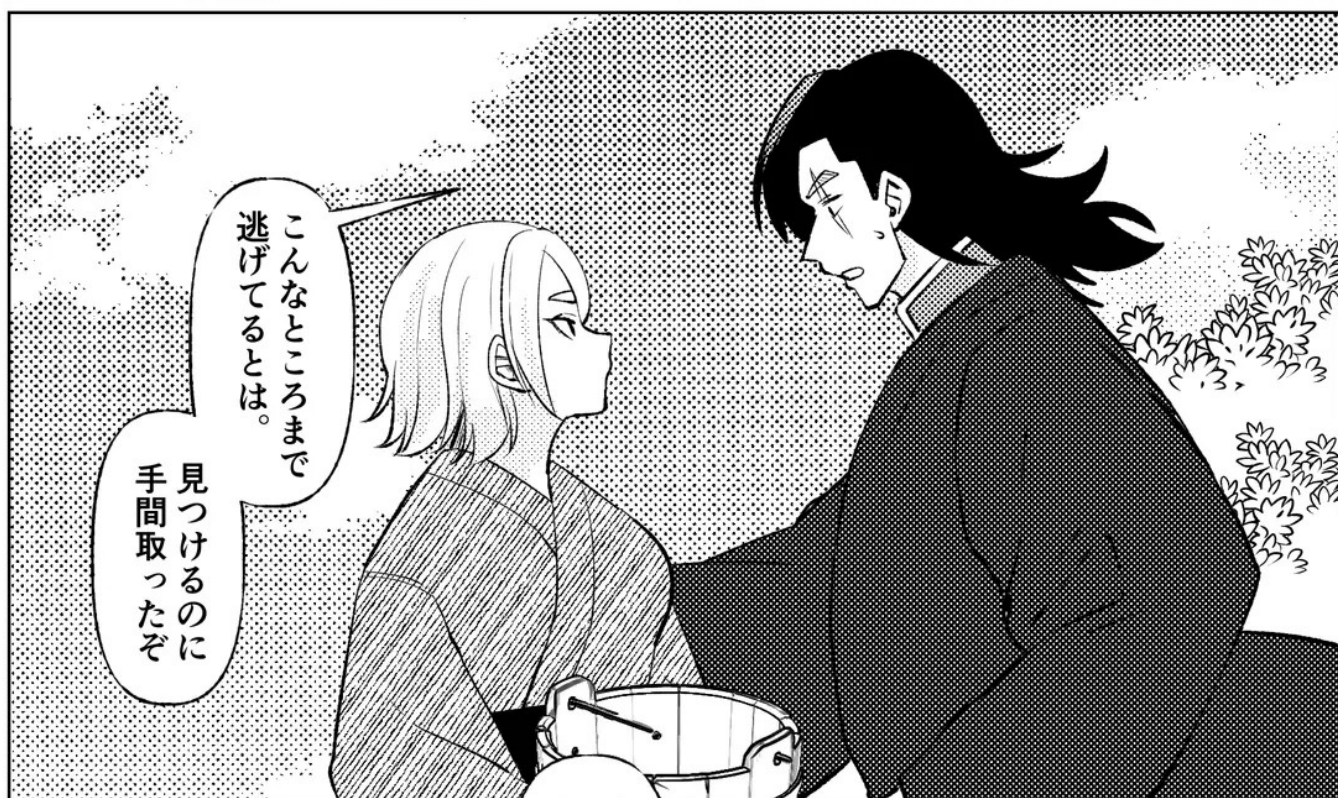
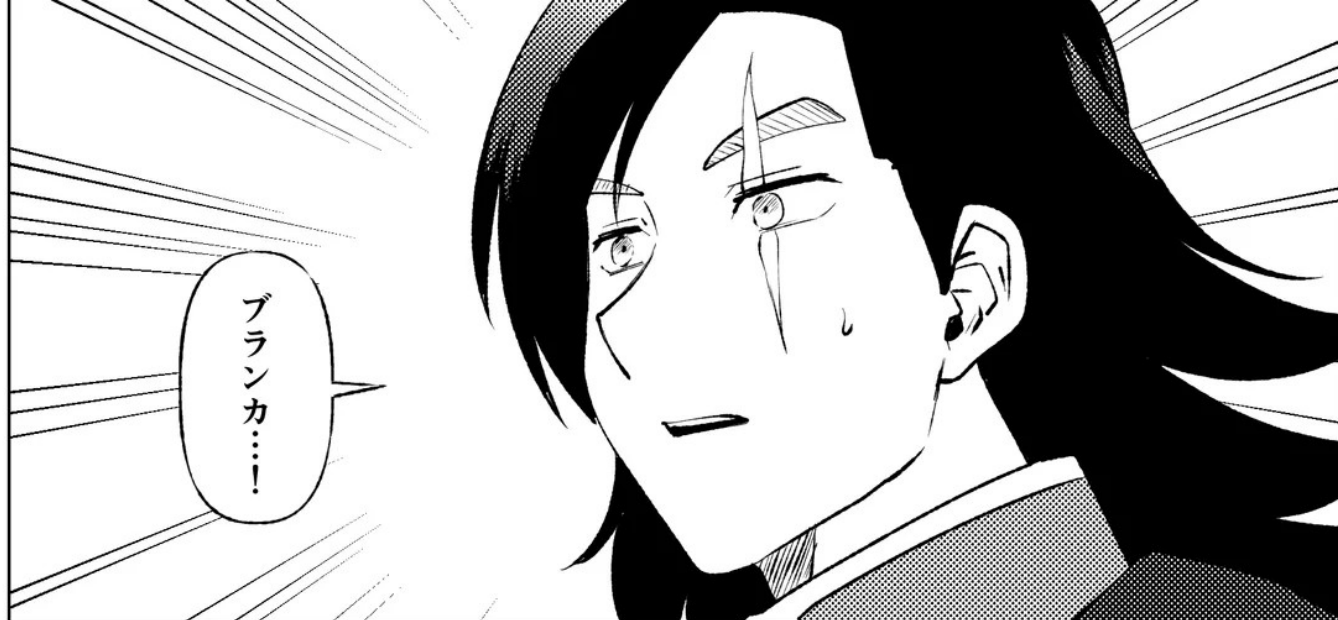
同郷同士何か
知ってるかも
しれない。
訊いてみたら
どうだい

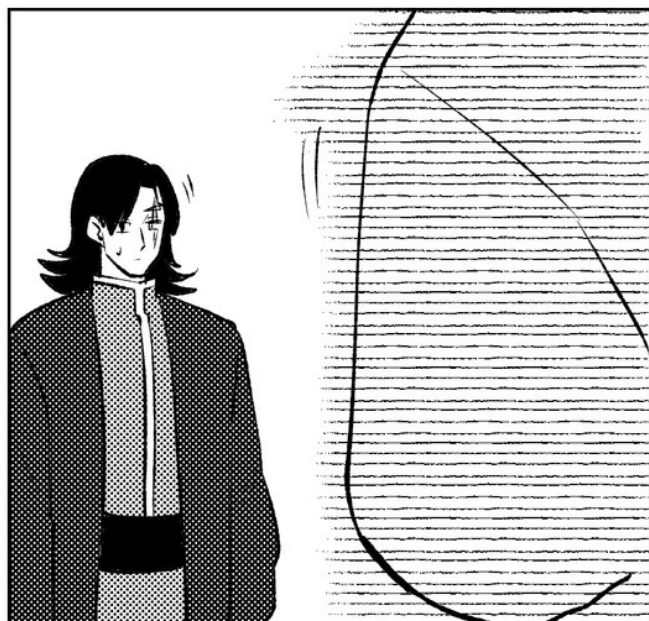
すまない
人を探して
いるんだが：



このあたりで
貴女と
似た色の髪の
北方人の女を
見たことは
ないか？







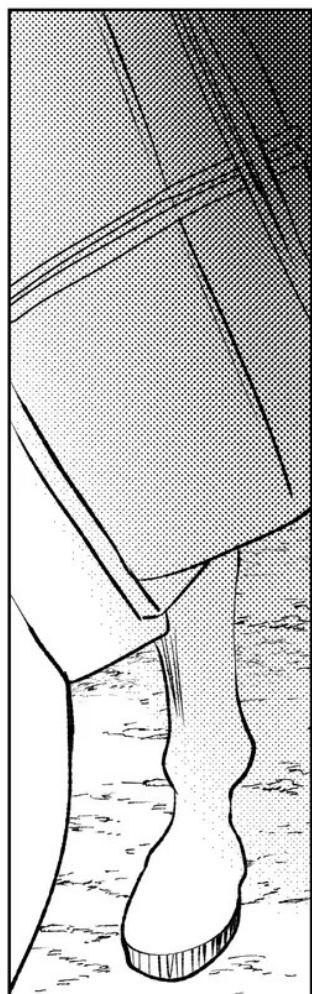


もっと
似てる日も
あるんだが…

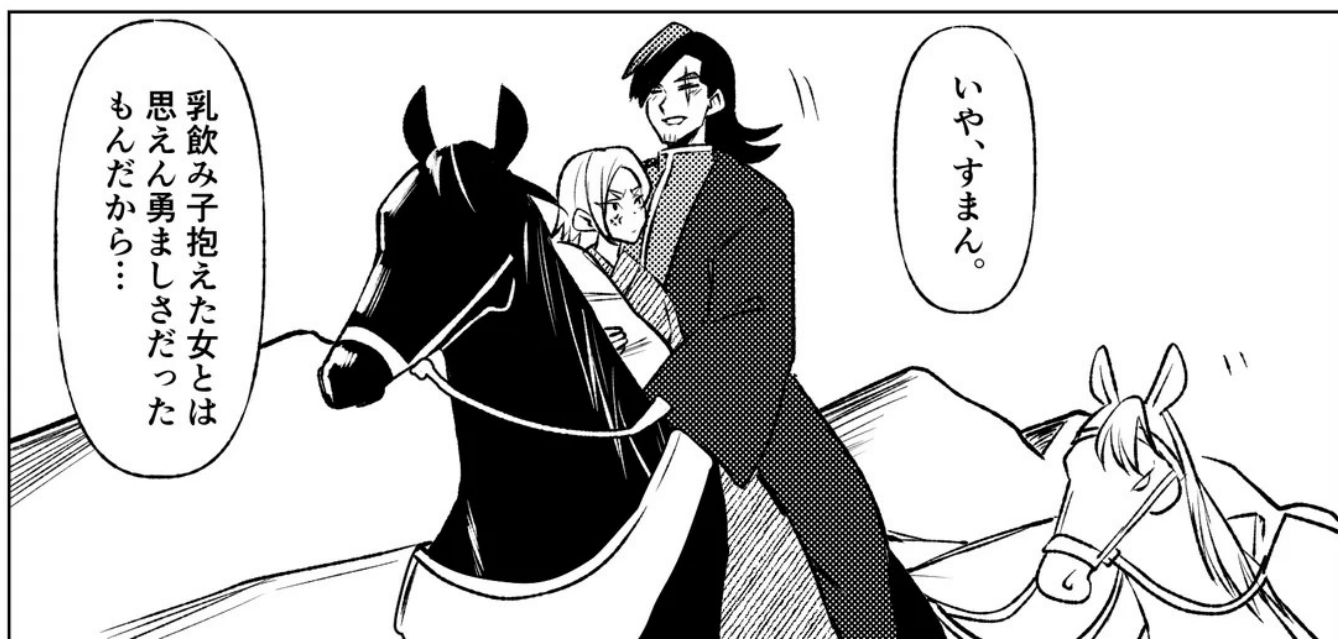


なんだか
顔が毎日
かわるから…

今日はあんまり
お前に
似ていないな…







よし。
それでこそ
我が妻だ。
やられたままではな

当たり前だ。

私と私の夫を
生かしておいたことを
後悔させてやる

